最上川水運史料

山形町商業史料

解説　梅津保一

解説

梅津保一

漆山附郡中惣代片桐善左衛門は、天保十年（一八三九）の船町・寺津河岸一件訴状において、山形町について次のように述べている。

（前略）山形町の儀は往古最上家の御在城にて、當時秋元但馬守様御城下に有之、町数三拾三ケ町其外續の在町も有之、家数凡六七千軒有之大場に付、右町々のものどもは何れも農業耕作等不仕、商ひ一途のものども而已にて、村山郡の商人数より山形町壱ケ所の商人は十倍も多く、勿論同所は至て都合宜場所故、奥州仙臺辺・三春・白石・伊達郡・羽州置賜郡米澤、或ハ越後最寄の商人ども平常入込、諸品賣買仕候土地柄にて、村山郡在々町々村々商人共も酒田湊へ罷越仕入いたし候ものは稀にて、大概は山形町に罷出仕入方仕候儀に有之、酒田湊より村山郡に登り候荷物、凡七八分通も山形行に可有之云々（以下略）

〈長井政太郎「最上川の船着場―船町と寺津―」（『交通文化』第十号・昭和十五年四月）九八二ページ。〉

また、嘉永三年（一八五〇）の羽州街道六ケ宿と、船町河岸との紅花川下げ一件の返答書（八―(7)）では、次のように述べている。

（前略）同郡山形町ハ大場にゐ商人数多有之、右紅花荷物例年村山一郡ゟ凡千駄余も駄送之内、八分通ハ山形ゟ出荷物にゐ（中略）、山形町之義ハ奥羽第一之場所にゐ諸国之商人入込諸色賣買有之、紅花を始メ上下之諸荷物数多有之（以下略）

右の二史料（一件訴状・返答書であるから多少の誇張は考えられるが）から、山形町が村山郡における商業の中心地であったことがわかる。山形町を中心とする村山郡の商業は、物資移動の一大動脈である最上川水運の問題をぬきにしては考えられない。かかる観点から本資料第13号には、「最上川水運史料」と「山形町商業史料」を併せて収載した。

以下、項目順に各史料についての簡単な解説をしておこう。

一　最上川船雑記一（仮称）（寛政二年カ）

山形大学附属図書館蔵「土屋儀兵衛文書」

長井政太郎著『大石田町誌』第三篇資料三三三〜三三六ページに一部収載（三項目）されているが、本号では全文採録した。

本史料の成立年代は、次の二最上川船雑記二（仮称）の「年数之事」が、いずれも「…カ寛政二年迄何年」となっていることから、寛政二年（一七九〇）と推定しておいた。近世中期の最上川船差配の変遷を知りうる恰好の史料である。

二　最上川船雑記二（仮称）（寛政二年カ）

山形大学附属図書館蔵「土屋儀兵衛文書」

前掲『大石田町誌』第三篇資料三一七〜三三三ページに、ほぼ全文（三項目全文省略・一項目一部省略）収載されている。しかし、当時（昭和十五年）の印刷技術によるのであろうか、誤字・脱字が多い。本史料の前半分は、一最上川船雑記一と重複しているので省略した。一と二を併せれば、一つのまとまりのある史料となる。

三　年限請負差配之砌船方仕法勤方書付、幷船持商人ニ御尋ヱ付所々御役所ニ差上候書付之扣（文政二年の写）

①　奉書上川船差配勤方仕法之事（寛政三年）

②　御尋ヱ付乍恐以書付奉申上候（寛政三年）

③　御尋ヱ付乍恐以口上書を以奉申上候（寛政三年）

④　御尋ヱ付乍恐以書付奉申上候（寛政三年）

山形大学附属図書館蔵「二藤部文書」

前掲『大石田町誌』第三篇資料四一二〜四二〇ページに①を除く②・③・④が収載されているが、前記同様誤字・脱字が多い。

本史料は、川船請負差配役制度についての各方面か

らの意見書上げである。すなわち、①は大石田村舟持百姓・惣代差配人、②は最上船持、③は最上商人惣代、④は舟方会所詰差配人の意見書上げであり、いずれも寛政四年（一七九二）に始まる最上川船の幕府直差配制の成立に資するところが多かったようである。

四　最上船方勘定書

(1)　最上船方差出明細帳（寛政五年）

(2)　舟方勘定取調書（寛政十一年）

(3)　舟方勘定取調書（文化元年）

(4)　最上船方諸入用明細書上帳（文化四年）

山形大学附属図書館蔵「二藤部文書」

寛政四年八月、これ以前の川船請負差配役制に変わる幕府直営大石田川船方役所を設置し、城米輸送の整備を中心に、さらに私領米・商人荷輸送、大名手船の統制を行ない、最上川水運の円滑化を図った。大石田川船方役所の下には、最上惣船持によって構成した川船会所を置いた。この川船会所は、川船方役所の近くにあり、船持惣代が詰めて用向きにあたった。すなわち、船持惣代の任務は、(イ)上下通船の積荷高を改めて川船方役所へ書上げを差出すこと、(ロ)川船方役所修覆入用・川筋普請入用・廻米中河岸出役入用・川船会所入用銭などの取立である。本史料(1)～(4)から川船会所の運営費の内訳と、その決算を知ることが出来る。

五　隼瀬御普請掛快晴願書写（文政九年）

①　乍恐以書付奉願上候

②　乍恐以書付奉願上候

山形大学附属図書館蔵「渡辺喜助文書」

本史料は、最上川流域中最大の難所である隼瀬の普請に伴う諸払帳の公開をめぐる最上船方仮惣代内部の対立①と、最上船持三十一人惣代による普請諸払帳の公開をめぐる一件②の済口である。

六　運賃定法書（宝暦六年ヵ）

山形大学附属図書館蔵「二藤部文書」

最上川水運の運賃定法であり、次の項目からなる。

① 御城米御運賃定法
② 商人荷物運賃幷諸色積口定法書・積口
③ 商人荷物大石田積運賃幷積口
④ 水揚定法留

なお、成立年代を宝暦六年（一七五六）と推定した根拠は、本史料末尾の「宝暦六子三月八日ゟ船方願之付…」という記事による。

七 紅花運賃定法（天保五年）

山形大学附属図書館蔵「二藤部文書」

当地方の特産物である紅花・青苧・煙草の運賃および荷出役永の定法であり、次の項目からなる。

① 紅花・青苧・水油御役永
② 紅花運賃手取定法
⑧ 紅花運賃定法
④ 紅花御役永
⑤ 青苧・煙草運賃定法
⑥ 俵目直し

なお⑥の俵目直しは、各荷物を米俵に換算する際の率であり、運賃や諸賦課の基準にしたものである。

八 船町河岸関係一件史料

(1) 出羽国村山郡山ノ辺村と船町村川船諍論御裁許御下書扣（元禄十年）
(2) 羽州村山郡中野村ゟ同郡船町村相手取船津駅場出入一件（寛政七年）
(3) 乍恐多以書付奉願上候（天保六年）
(4) 船町・寺津河岸出入済口證文之写（天保十三年）
(5) 船町・寺津河岸一件済口書（天保十三年）

以上、山形市船町部落所蔵「船町文書」

(6) 乍恐以書付御訴訟奉申上候（嘉永三年）
(7) 乍恐以返答奉申上候（嘉永三年）

以上、山形市「住吉英作氏蒐集文書」

(1)は、元禄七年（一六九四）の最上川支流沿岸の山辺村と船町村の争論史料である。従来酒田―山辺間の

登せ荷物は、酒田船が大石田河岸まで送り、大石田船から船町河岸で荷揚して、船町から山辺まで駄送していた。ところが元禄七年、山辺村の吉兵衛荷船が従来の慣行を無視して、大石田河岸より山辺まで直積通しにしたことから起こった事件である。しかしこの問題は、幕府検使の調査により川上への荷船運送は自由とし、山辺村の勝訴となった。

(2)は、中野村と船町河岸との「船津駅場出入」の済口証文である。この済口証文では、中野村の百姓が手作産物を売り払うために持ち出す分はどこに出そうが、たとえ船町河岸を附通そうが構わないが、商人荷物の中野村出しは禁止するとしたのである。

(3)は、上山城下須川筋前川迄の通船について、船町河岸が賛否を問われたのに対し過分の書上げをしたが、取り下げたいと柏倉役所へ詫び入れた史料である。

(4)・(5)は、天保改革の物価値下令に伴う河岸制限撤廃をめぐる、船町・寺津河岸の一件済口史料である。

(6)・(7)は、船町河岸からの紅花川下げをめぐる一件史料である。船町河岸の言い分(6)と、それに反対する羽州街道六ケ宿の言い分(7)の史料である。

九　小鵜飼乗船頭御米拝借證文之事（文久三年）

山形市船町部落所蔵「船町文書」

船町河岸の小鵜飼乗船頭の米拝借証文であるが、運送荷物の減少にともなう生活困窮がうかがえる。

一〇　大石田河岸問屋聞書（正徳三年）

山形大学附属図書館蔵「二藤部文書」

大石田河岸の陸送問屋沼沢又左衛門記録である。正徳元年（一七一一）より宝暦四年（一七五四）まで、参覲交代のコースが尾花沢より大石田に移っているが、この期間大石田は河岸のほかに宿駅としても重要な地点であったのである。本史料からは、大石田がはじめて参覲交代のコースとなり、戸惑っている様子や、正徳期における最上川水運・参覲交代・助郷などについて知りうる。

一一　差上申済口證文之事（文化二年）

山形大学附属図書館蔵「二藤部文書」

本史料は、紅花荷物の輸送コースである上郷――（陸送）→大石田――（水運）→酒田コースに対し、上郷谷地――（陸送）→横山――（水運）→酒田の脇道コースを試みようとした、谷地商人と羽州街道宿駅の一件済口証文である。

一二　商人荷輸送関係史料

(1)　諸方出判写（天保八―嘉永二年）

(2)　諸方送手板（安政五―慶応三年）

山形大学附属図書館蔵「二藤部文書」

(1)は、大石田川船方役所への出判願控であり、大石田河岸経由の紅花・青苧・はぜ蠟荷の流通過程を知りうる恰好の史料である。

(2)は、大石田河岸を経由する移入品・移出品の送手板（送り状）の控であり、商品毎の輸送ルートを知りうる史料である。

一三　仲間式法帳

①　大坂紅花問屋仲間定（嘉永七年）

②　江戸紅花荷物打越一件に付書簡（安政二年）

河北町「日塔久左衛門文書」

①は、嘉永の株仲間再興令にともなう大坂紅花問屋仲間の成立を示す史料である。

②は、嘉永六年（一八五三）に始まる江戸紅花荷物打越一件に関する史料であり、京・大坂の紅花問屋と、東北・関東の生産地荷主が連携して、江戸紅花問屋に対抗していることを示す貴重な史料である。

一四　紅花市場関係史料

(1)　花市町場割付之覚（宝永四年）

(2)　乍恐以書付奉願候御事（寛保三年）

(3)　御役所方之仰出候書付覚（寛保三年）

以上、山形市住吉英作氏蔵「渡辺徳太郎氏遺稿」

(1)・(2)・(3)とも、十日町・七日町の紅花市場についての貴重な史料を、故渡辺徳太郎氏が筆写したものを

そのまま収載した。それぞれの原本は、(1)中村喜兵衛氏蔵「古記録」、(2)「十日町検断願出書」、(3)荒井太四郎氏蔵「町御用場扣」と氏のメモに記されているが、まだ原本の確認をしていない。今後これを機会に、山形町のかくれた史料の発掘を試みたいと思う。

一五　紅花取引関係史料

(1)　預り申金子之事（安永三年）
(2)　預申金子之事（寛政元年）
(3)　請取申為替金之事（寛政六―七年）
(4)　借用申金子之事（文化三年）
(5)　借用申金子證文之事（文化五年）
(6)　借用申金子之事（文化十三年）
(7)　借用申金子之事（文政四年）
(8)　送り手板（安政六年）

河北町「日塔久左衛門文書」

(1)～(7)は、京都紅花問屋の若山屋喜右衛門と、山形・谷地商人との紅花取引に関する金融（前貸関係）史料である。

(8)は、日塔家の紅花送り手板控であり、前記一三①の大坂紅花問屋羽州屋久右衛門との取引を示す史料である。

一六　国分寺瑠璃殿再建に付口演（天保十二年）

山形大学附属図書館蔵「二藤部文書」

天保六年（一八三五）六月十五日、出羽国一社国分寺薬師堂（別当柏山寺）が焼失したので、その再建方について、村山地方の紅花・青苧荷主九四名に助成を求めている史料である。

一七　御徳（ママ）得名前幷問屋名前留（嘉永二年カ）

山形大学附属図書館蔵「二藤部文書」

本史料は、大石田の二藤部兵右衛門店の得意先商人名と、取引問屋名を記したものである。そのなかに、上方商人や山形商人の紅花買宿が出ているが、注目してよい。

一八　山形町株仲間史料

(1) 髻附屋仲真儀定（ママ）（安政六年）

(2) 材木内株鑑札（安政四年）

(3) 鋳物屋仲真掟（ママ）（慶応二年）

山形市「住吉英作氏蒐集文書」

(1)は、開港後の髻附（びんづけ）屋仲間議定であるが、開港の影響が当地方にも及んでいることがわかる。

(2)は、材木屋仲間頭取から七日町源助に与えられた材木内株鑑札である。

(3)は、鋳物屋仲間掟であるが、幕末期における株仲間の一実態を知りうる史料である。

（附記）　本資料小冊子の史料筆写、解説作成にあたり、終始御指導・御助言をいただいた編集主任工藤定雄山大教授・編集員武田喜八郎氏、史料を利用させて下さった山形大学附属図書館・山形市船町阿部孫三郎氏・山形市十日町住吉英作氏・河北町造山日塔久左衛門氏に対して、深く感謝の意を表します。

凡例

一、用字は概ね原文のままとした。

一、史料本文中に、読点「、」と並列点「・」を加えた。

一、変体仮名は普通の平仮名に改めた。但し、者・ゟ・之・哉・而已・而・二而・茂・歟・方等は原文のままとした。

一、闕字・平出はこれを無視して続けて書いた。

一、原文の用字が必ずしも正当でない場合でも、当時一般に通用していたものには一々傍注しなかった。

一、傍注に、（カ）の字を加えたものは、断定をさし控えたものである。また文意の通じ難い箇所、もしくは原文のまに従ったことを示す場合は、（ママ）と傍注した。

一、本文に索引番号並びに傍見出しを加えた。

一、索引番号は、大項目には漢数字、小項目には算用数字を用いた。小項目の算用数字には、すべて〇または()を施した。前者は同一史料であり、後者は単独史料である。

一、巻末に索引を付した。索引項目は原本に整えられていないので、編集にあたって便宜的に作成した。

最上川水運史料

一　最上川船雑記　一　（仮称）

最上領の百姓年貢酒田へ直納之事
最上川河岸始事
最上川六河岸船世話役の事　附名前之事
最上川御城米積場之事
御城米破船弁米之事
最上川河下請負始ル事
酒田御囲普請之事
公料陣屋之事
最上船高之事
商人運賃元禄年中之事
御城米運賃増方之事
御城米御私領米酒田船最上船割合之事
大石田ニゐ酒田船ゟ役料取立之事
同所ニゐ最上船ゟ取立之事
同所船差名前之事
大石田船道公儀ゟ取放シニ成事
船差配上郷五人名前之事
上郷五人御證文頂戴之事　但、御附紙之事
追御附紙之事
御運上申立船差配願之事
名木沢口留止事　但、山寺・高野口
大石田之者共船道願事
横山に船會所建事
享保廿年商人運賃増方之事
小判小粒始ル事
文三大石田者船道願事
大石田ゟ弐人船差配へ加る事
　但、請書之事
御城米運賃之事　但、小川送り賃
御籾御運賃之事
御私領米運賃之事

當時商人運賃之事

通船運上始ル事

上郷大石田拾六人ニ而差配勤る事

附り十六人退ク事

大石田村之者共我意を以勘兵衛・甚兵衛願ニ事

但、両人拾ケ年勤ル事

安永七戌ゟ請負之事

①

夫人間は、欲に溺れてハ我か稲の栄たるも人の稲よりは不出来とおもふものなり、是を眼裏有レ鹿三界寇（シホシ）と古語に見へたり、眼の誤とハおもわす、乾坤せはしとおもふに似たり、明成人を聖賢君子と呼へし、晋（シン）の文公舅犯（キウホン）に問、今仕官の者に西河（サイカ）か大將たらん、器量の有は誰にてか有、舅犯答、子羔と云、文公問、子羔（シカウ）ハ汝と中あしきものニあらすや、舅犯答テ、君大將の徳有者を問給ふ故に器量の者を申上たり、私の遺恨有者を問なふにあらし、私の宿意さし挾ミ子羔を徳なきものともふさんや、為君のに不忠の罰ありと答、是を賢士といふへし、末代かよふ忠をおもふ者少し、己か気に入ヲ以あしきと知りても、贔屓を以行跡ヶ能ものに取なし、軽薄せさるを以悪さまに取なし、人は忠と儀（ママ）を知さるを人面畜生（ママ）と云へし、口惜事也

②　最上領年貢酒田納る事

一、往昔最上領ニ河岸と言定メも無之、酒田湊ニ百姓直納ニ而艀（ヒラタ）船等言も最上には無之、丸太船にて一村限り納候様承傳候、其節ハ山根〳〵に斗村も有之、高も纔（ハツカ）ニ聞候、是稲船ならむや、予曰最上艀船なくして上方ゟ下り荷物如何して最上領ニ登候哉、答其節ハ酒田船清水迄積登り、同所ゟ駄送いたし候由、今の稲沢清水の根元か

③　最上領河岸之始り

一、観應弐年清水河岸始て、艜船造立

一、延文元年大石田河岸始ル、艜船造立

一、同年船町河岸始、艜船造立

一、享保八年本楯河岸始、艜船造立

一、同年寺津河岸始、艜船造立

一、延享四年横山河岸始、艜船ハ延文年中ゟ有之由、享保九年ゟ横山村ニ船會所相建、上郷船差配人五人相詰候得共、定り候船差と申も無之、勘蔵・善七と申者船持故、船差之様ニハ心得候得共、村中之者勝手次第船積致、運賃拾分壱ハ船世話致候者共助成ニ致候

④—(イ)　最上川六河岸船世話役定事

一、延享三子年御順見(巡)御役人御下向之砌、大石田村之者共増運賃相願候ニ付、翌四卯年御吟味役神山(カウ)三郎左衛門殿御下り、御吟味之上、上郷五人之船差配人引下候、壱俵半俵之内半俵被下置候

一、船町・寺津・本楯ハ船問屋ト言、大石田・清水ハ船差と言、延享四卯年六河岸共ニ船世話役(ヤキ)ト言、日本浦々幷川船共ニ船問屋と言事古来也

④—(ロ)　船世話役名前

一、船町村ハ十兵衛、寺津村ハ吉左衛門、本楯村ハ寒河江善内、横山村ハ勘蔵・善七、大石田村ハ平吉・新右衛門、清水村ハ半助・傳左衛門也

⑤　最上川御城米積場

一、車ケ渕　船町　灰塚　寺津　上長崎

高屋　本楯　蔵増　羽入　嶋大堀

谷地　貝塩　境野目　大石田　深堀

芦沢　名木沢　毒沢

右を船場ト言

船町河岸場

一、延文元年出羽之按察使修理太夫殿、奥州大崎ゟ最上山形ニ入部有之、今の山形ニ城を築居城に仕給ふ由、其節清水河岸を大石田ニ移シ、艜船造立、修理太夫殿物成米領内村々ゟ船町ニ致駄送、同所ゟ艜船ニあ酒田湊ニ致川下候由、今以船町村ニ修理太夫殿蔵屋鋪跡有之候

⑥　御城米破船弁米之事

一、延文四年其頃代官松平清兵衛殿代、百姓三分弐、船頭三分壱の法定ル、往昔百姓酒田湊ニ直納之古法を以、公儀御損失無之様承傳候

⑦　最上川河下請負始り

一、承應三年ゟ寛文拾弐年迄、正木半左衛門と言者請負、但無運上運賃ハ其年々百姓相対候様承傳候

一、寛文拾弐年ゟ川村随軒と言者運賃引下致請負、酒田湊ニ御城米致野積事始ル、今以随軒蔵ト言傳、是御囲也

⑧　御囲普請之事

一、御城米川下之砌、公料御代官手代中詰所家居五六軒有来候処、焼失致ニ付湊役ニあ領主酒井左衛門尉殿如元普請被致候処、其節左衛門尉殿大御老中御勤被成候故ゑ、公料御代官中ゟ御断有之、家居之普請相止ミ候得共、土手柵等ハ今以左衛門尉殿湊役之普請也

⑨　公料陣屋始り

一、元和六年長瀞・漆山・寒河江本陣屋故屋敷引地也、其節中野地峯・長崎・大石田・延沢、是ハ百姓願ニ依テ出張所故年貢地也、尾花沢・柴橋・柏倉も年貢地也

⑩　最上船高

一、元和(禄)六年清水船弐拾艘内ニ横山船ゟ篭ル、横山ハ河岸ニ無之故清水河岸ニ被孕候由

一、同年大石田船高弐百六拾四艘、内百三拾六艘五人乗、百弐拾八艘四人乗、外三人乗弐拾八艘、其節ハ最上三郡村々ニ無之、清水・大石田斗也

⑪　商人運賃元禄年中

一、永三貫百弐拾五文　五人乗

一、永弐貫五百文　四人乗

一、永弐〆文　三人乗

右之通相定候得共、艀船余村ニ無之ニ付、大石田之者共致我儘、山形・上山・左沢・天童・東根・楯岡其外村々商人方ゟ乞船致候得者甲乙順番相立、川岸ニ船々繋置候ゟハ商人番無之船之由相答差向不申候ニ付、強ゟ乞船いたし候得者増運賃申掛、永三〆百弐拾五文所ニ金拾両余迄取之、其上十月ゟハ都ゟ増、十五日まし、晦日増迄、壱ヶ月ニ三度宛相増、猶又十一月・十二月と相増、兎角外商人ニ船差向ヶ不申、一村申合大石田商人荷物斗り積下致我儘候ニ付、上郷惣酒田湊ニ致會合、最上郡中商人惣代漆山村七左衛門・同村九郎兵衛、江戸表ニ致出訴候訳ハ末ニ有之

⑫　御城米運賃増方之事

一、宝永七年百俵ニ付壱俵増　大石田請負

一、享保五年ゟ同七年迄又候壱俵増　同断

⑬　御城米・御私領米、酒田・最上割合之事

一、御米高之内最上船三分弐、酒田船三分壱積請定

⑭　大石田ニゟ酒田船ゟ銭取立之事

一、酒田船壱艘ゟ差配料四百文宛取立、四人名主共助成、又壱艘ゟ百九十文宛取立、村入用ニ致候

⑮　同所ニあ最上船ゟ取立

一、運賃之内拾分壱取立、村方助成

一、銭四百文取立、八人之船差助成

⑯　同所船差名前

一、笹原治郎左衛門　岡村十右衛門　村岡金右衛門

高桑金蔵　笹原五郎左衛門　安彦仁兵衛　富樫長三郎　柴田仁兵衛

右名字御免ニハ無之候得共、只今之通内々ニあハ相記候由

⑰　大石田船道公儀ゟ御取放ニ相成候訳

一、前文之通、享保七寅年迄ハ最上郡中ニ艜船一切無之、大石田一村ニあ致所持、甚我儘之致船配三郡百姓商人致迷惑、其上御城米運賃度々引上、甚以悪事増長いたし、無拠最上郡中惣商人酒田湊万蔵院ニ致會合、商人仲間之内漆山七左衛門・同村九郎兵衛為商人惣代出府致、大石田村之者共悪事致目安出訴致候処、其節之御代官森山勘四郎殿・長谷川庄五郎殿御吟味ニあ段々窺ニ相成候処、大石田村之者共不法ニ相極、享保七年大石田船道御取放、上郷五人之者共ニ船差配人ニ被仰付候、夫迄ハ最上川ニ船差配人と申儀無御座候

⑱　船差配五人名前

漆山村七左衛門・同村九郎兵衛弐人ニ候得共、漆山村善左衛門・高檜村治左衛門・寒河江金右衛門ハ、前方大庄屋相勤郡中評判も宜鋪者故、相師ニ差加郡中百姓代ニ致候ハヽ、末々可然と申所存故差加候由、其後御料一統大庄屋相止ミ候、九郎兵衛儀ハ出生成生村ニ候得共、江戸御差出御添翰等差支候儀故、漆山村ニ致七左衛門一所添簡申請候

⑲　五人頂戴御證文写

一、羽州御廻米最上川河下之儀、去寅春迄ハ同国大石田之者共御米百俵ニ付七俵之積御請負仕、最上領百姓商人荷物等をも大石田船斗りニゐ運送仕候ニ付、伯耆年々運賃致高直ニ、其上船数弐百四五拾艘斗りニゐ川下仕候故、荷物過半差支大石田迄拾里余之所馬附ニ仕、紅花・青苧等差急キ候荷物者野州安久津迄六下野七拾里陸附ニ仕相廻シ申候ニ付、殊外百姓商人難儀仕、最上領之者共去暮ゟ御當地へ罷出、御廻米并百姓商人荷物手支無之様、新船を致作事、運賃をも引下御請仕度旨相願候ニ付、吟味仕相窺候所、上郷之者共新船造立荷物差支無之様致請負候節ハ、只今迄船稼致来候酒田湊并川通之者共難儀可仕候間、疾と源左衛門吟味仕候様被仰渡候ニ付、酒井左衛門尉・戸沢上総介家来罷越候節、右之段申聞候後、酒田湊船持上郷荷主申合、自今酒田・上郷并川通有来候船人會為積登、上郷荷物積下、帰船ニ酒田ゟ積登候荷物積登候弥太郎様、酒田并上郷両所ニ造成者差配人申付、船配り為致候ハ、猥成儀も無之、上郷荷物無差支酒田船持共上下運賃取之、勝手宜鋪可有之哉と申談候処、早速致得心在所へ申遣吟味仕候処、船持共殊難有かり何分ニも御請仕度旨申候間、上郷ニゐ新船作事仕候儀差止度旨願候由、依之御廻米運賃之内壱分半引下仕、百俵ニ付五俵半之積り運送可仕旨、并百姓商人荷物は、此度上郷之者願出候通、弐百五拾表積壱艘ニ付運賃金四両壱歩、小下船壱艘ニ付金三両宛御請可仕旨相願候間、上郷之者願差留メ差配人相極メ、上下荷物人會運送為仕度旨、左衛門尉家来覚書ニ致印形差出申候間、弥右之通被仰付可然奉存候

一、此度酒田湊并上郷共ニ荷物差配人申付候儀、酒田湊ハ左衛門尉方ニゐ申付之、上郷方ハ去冬ゟ右願ニ罷越候漆山村善左衛門・七左衛門・九郎兵衛、高橋村治左衛門、寒河江村金右衛門、右五人之者共ニ差配被仰付可然被存候、右之内漆山村善左衛門儀、前左兵衛方大庄屋をも仕身元造成者ニゐ、今以郡中出入訴訟

等内々ニゐ相済、終ニ御代官に訴事等差出不申実躰ニ勤来候由、此者頭取ニ仕、外四人差加ひ差配為仕候様申付可然被存候、且又五人之者向後差配於被仰付ハ、四郎兵衛諸色入用給金等不申付之、相対ニ為仕候ハヽ、内證不同之儀も可有御座候間、自今ハ上郷ゟ下り荷物、酒田湊ゟ積登候荷物共ニ壱箇ニ付庭銭弐文宛可被仰付哉、只今迄ハ酒田幷大石田共ニ壱ケ所ニゐ船壱艘ニ付差配賃四百文宛取之候由、當年ゟハ酒田幷川通之船、上郷迄荷物入會ニ致運送、上下運賃取之申候間、右庭銭船頭方に可被仰付哉、奉窺候　以上

享保八年卯二月　　長谷川庄五郎　印

森山勘四郎　印

御勘定所

御付紙之写

書面之羽州御城米最上川河下之儀、同国川通大石田村船持共、米百俵ニ付運賃米七俵宛ニゐ前々ゟ川下致来候処、最上領上郷村々ゟ相願候者、川下も酒田湊幷川通之船共大石田ゟ相防（フセキ）、上郷に之登船商荷物運送之節、大石田所持之船弐百四五拾艘斗りニゐ運送いたし、其上運賃をも致高直ニ、最上領之諸荷物川下候ニ付運送差支候間、陸道（リク）馬付ニ仕候故、物入多及難儀候間、最上領之者ニ御城米川下被仰付候ハヽ、運賃をも引下百俵ニ付五俵半宛ニゐ請負、年内ゟ川下可仕旨相願候ニ付、委細各被蒙吟味候所、右之通無相違候条、依之大石田村川下請負取放、當春ハ酒田幷川通最上領村々共ニ申合、右直段を以致川下候様可被申付候、商人幷百姓荷物ハ弐百五拾俵積船壱艘ニ付運賃金四両壱歩、小下船ハ壱艘ニ付三両宛、是又請負可申由令承知候、尤酒田湊・上郷両所共ニ差配人相極置候ゐ上下荷物入會為致運送度旨、左衛門尉役人も申之由、於然ハ川通ゟり之ためニ候間、窺之通上郷方ハ各御代官所漆山村善左衛門・七左衛門・九郎兵衛、高櫓村治左衛門、寒河江村金右衛門、右五人ニ申付、右之内漆山村

善左衛門儀ハ、勝手実躰ニ而身元も慥ニ候由、左候ハ、頭取ニ可申渡候、幷五人之者船差配致候ニ付入用等有之由ニ候間、船壱艘ニ付鐚四百文積、上郷ニ而取立候分之内四分壱頭取善左衛門、残三分ハ外四人之者共ニ為差配料為取之可被申候、尤上郷ニ而新船造立之儀ハ無用ニ可被申付候、委細各蒙吟味私領役人ニも被相尋候事ニ候条、付紙如斯断ハ本文ニ有之候　以上

卯二月

長谷川庄五郎　御判

森山勘四郎　御判

但、御附紙と申ハ、右之書付御奉行所ニ而長谷川庄五郎殿・森山勘四郎殿窺書之上、付被下候者ニ候、本文御名前之所ニ付候者ニ御座候、伯耆・下野と有之候ハ御奉行所御名前也、源左衛門・弥太郎・左兵衛・四郎兵衛と有之候ハ御吟味御組頭、其御掛リニ而御吟味被成候衆中也

右書面之通、此度御窺御證文相渡候ニ付、写ニ致印形遣置之候、此旨急度相守、上下荷物不差支様差配可申付候　以上

⑳　辰八月御代官代りニ而鈴木小左衛門殿漆山御支配ニ付、水野和泉守殿ニ窺之上、付紙ニ而被仰付候、和泉守殿ハ大御老中也

前書之通、羽州御城米酒田湊ニ川下之儀幷最上領百姓商人荷物運送共ニ、去丑年迄ハ同国大石田村船持共川下請負致運送候処、近年廻米川下相滞湊出船及延引、御米更米（フケ）等ニ相成、百姓難義有之由、其上御城米川下賃も段々高直ニ仕、百姓商人穀物等別而川下滞り迷惑之旨最上領之者共相願候ニ付、去寅年森山勘四郎・長谷川庄五郎於羽州ニ致吟味、私領役人等ニも相尋書付取之差出候ニ付、猶又蒙吟味候処、大石田村之者共ニ運送請負申付候而ハ川下差支候儀無紛ニ付、水野和泉守殿ニ窺之上、大石田請負相止候趣、前書之通

ニ候条、御代官代り之節ハ段々此帳面引渡相違無之様
可被致候、若右之儀ニ付自今存寄之儀も有之候ハヽ、
其節可被相窺候　以上

筧　播磨守　御判
駒木根肥後守　御判
鈴木小左衛門殿
但、漆山御代官也

御殿御押切　辰八月

石原半右衛門　御判
古郡孫太夫　御判
原　新六郎　御判
祖父江作左衛門　御判
小林孫四郎　御判
八木清五郎　御判
鈴木弥惣右衛門　御判
細田弥三郎　御判
針谷武右衛門　御判
辻　六郎左衛門　御判
杉岡弥太郎　御判
萩原源左衛門　御判
稲生下野守　御判
久松大和守　御判

始拾弐人ハ御吟味役、末四人ハ御奔行所、和泉守殿ハ月番之老中也

㉑　御運上申立船差配願之事

一、元文弐巳閏十月、寒河江弥次兵衛外七人申合、新船百五拾艘致造立、壱艘ゟ丁銀七匁五分宛御益差上、御城米破船弁米郡中ニ不割合請負方ニゟ引請皆弁米いたし、其外ニ漆山料・寒河江・長瀞・尾花沢・高畑(畠)百姓ニ、手傳為金と壱ケ料ニ金八拾両宛五ケ分ニ金四百両宛年々手傳相勤旨、願出候得とも不相立、上郷五人之者ハ公儀ゟ被仰付候差配人故不相立、五人之者共相勤候、予拾四歳ニゟ寒河江御役所

に罷出弥次兵衛と致対決候、御代官窪嶋作右衛門様

㉒ 名木沢口相潰候事

一、享保七寅年迄ハ大石田ゟ川船往来取之、米木沢(名)ニ
ゐ相改、夫ゟ清水ニゐ改新庄へ致持参、新庄元〆梁
之御裏判申請、古口致通船候ニ付悉差支船方致迷惑
候ニ付、享保八卯年長谷川庄五郎殿・森山勘四郎殿
御吟味ニゐ、名木沢・清水改所相潰申候

附　仙臺越高野村・馬形村ニ口留番所有之候所、是も享
保八年森山・長谷川吟味ニゐ相潰候

㉓ 大石田村之者共船道願(上之)事

一、享保八卯年大石田百姓惣代三拾人致出府、森山勘
四郎殿・長谷川庄五郎殿に相願候者、大石田船差共
不法我侭之船配仕候儀無之処、五人之者共以謀(計)斗御
願仕候間、対談被仰付候様強ゐ御願仕、五月八日御
奉行所に御差出ニ相成、御奉行所に大石田願人共御
召出御奉行所様御直々被仰渡候ハ、上郷五人之者共
願聞届ケ差配人申付候儀ニハ無之、川通為取〆り従
公儀被仰付候儀故難被為及御沙汰ニ、御利害被仰聞
願書御下ケ被成候所、又々取償(ツクロイ)訴状差上候処、翌辰
五月十九日御内御寄合ニ御召出被仰渡候者、其方共
御用敵(テキ)ニ候間、遠嶋可申付候処、御慈悲ヲ以其分ニ
被差置候段難有存帰村仕れ、幾年過候ゐも大石田願
御取上ケ無之段被仰聞、願書火鉢ニゐ御焼捨ニ罷
成泪(ナミタ)ヲ流致帰村候、願書御焼捨と申ハ重キ事ニ御座
候

㉔ 横山村ニ船會所建ル事

一、最初上郷五人之者共大石田ニ居候処、右之勢故(イキヨイ)、
日暮候得者石礫を打、彼是居苦鋪ニ付、其段長谷川
庄五郎殿に訴候ニ付、戸沢上総介殿役人中に御掛
合、横山村佐久と言者之処ヲ船致會所候、其節ハ
酒田船差配人も年中詰合ニゐ致同宿候、其後(ノチ)同所勘

蔵方へ引移り明家を補理(シツウイ)船會所ニス

㉕　商人運賃増之事

一、享保廿年迄ハ四人乗壱艘金四両壱歩也、同年元文元年ト改、享保金壱両弐分有之候ヲ御吹替文金ニ成ル、目方八分七厘五毛、依之文金ニ三割増ニ而通用ス、金四両壱歩ヲ永四〆弐百五十文トシ、壱三ヲ掛ケ永五〆五百弐拾五文ト成ル、諸色如斯、返済金ハ壱分ハ壱歩ニ而済ス

㉖　小判小粒始ル事

一、慶長元年壱歩ト小判始ル、是ヲ慶長金ト言

但、壱歩ニ銭壱〆五百文ヵ壱〆二百五十文位迄

一、元禄八年慶長金御吹替、元ノ字金ト言

但、壱歩銭四百文位

一、元文元年元禄金御吹替、文字金ト言

但、壱歩ニ銭六百三十文位

㉗　船道願之事

一、元文弐巳　前ケ條ニ記故、是ニ略ス

一、延享三寅年御巡見御役人御下向ニ大石田村之者共増運賃願差上ケ、翌卯年御吟味御役人神(カウ)山三郎左衛門殿御下り、尾花沢ニ而酒田・最上船持御吟味ニ而最上船片運送ニ相成、御米百俵ニ付半俵増運賃最上船へ斗被下候、其節ハ大石田ニハ金銭沢山有之、任威勢ニ遠キ無慮願ニ候、譬片運送ニ而も上下運送之形チニ候得者、自最上船も積登、又ハ一旦公儀ニ而上下運送之被仰付故、御願申上候ハヽ両運送ニも可相成処、一旦之我意ヲ以永ク片運送之形ニ相成候ハヽ、全大石田村之者共邪知ヵ起り候儀、歎鋪事ニ候

㉘　大石田村之者共永差配願之事

一、神(カウ)山三郎左衛門殿思召ニ而、上郷五人之差配人ニ大石田ニ而六右衛門・与左衛門御差加、七人ニ而船差配致候、其節上候請書左ニ

差上申一札之事

一、近年差配人共勤方疎略ニ相成、船世話役共船持共勝手之儀共御座候ニ付、當秋神山三郎左衛門様御吟味之上、品々勤方之儀御改被成被仰渡候趣、奉畏御請印形指上申候、猶又此度被仰渡候趣相背候ハヽ、何分之御咎ニも被仰付候様、於江戸表従御勘定所ニ御代官様方ニ以御書附被仰渡候間、右之趣私共相心得罷有以来被仰渡之趣、急度相守候様、今日被召出被仰付委細承知奉畏候、若相背候ハヽ、何分之御咎ニも可被仰付候

一、此度増御運賃被仰付候ニ付而ハ、連々新造打立船数相増可申候、尤年々毎船数相改被成候旨被仰渡奉畏候、増御運賃被下置候上ハ、此末随分出精仕新造打立、船数相増御用相勤候様、無油断心掛可申候、尤年々有船数以書付ヲ以可申上候事

一、差配人之内病気老衰等ニ而退役奉願候ハヽ、御吟味之上、其者之世忰ニ而も或ハ外之者ニ而も人柄相應之者ニ可被仰付候間、得其意罷有候様被仰渡奉畏候、右躰之儀御座候節者御注進申上、何分ニも御吟味を請御差図次第可仕事

一、大石田村之儀ハ弐拾五年以前迄川船請負致来候所、色々我侭成不埒之儀有之、其節請負御取放シニ成候場所之儀ニ候得者、其以後年来為過候事ニ及、神山三郎左衛門様御吟味之上、差配人御料ニ而壱人、私領ニ而壱人両人被仰付、増御運賃も被成下置、右村之者共諸事勝手之儀斗存、我侭成者共ニ御座候様、於江戸表為御聞及被遊候、以来正路ニ仕差配人共外村々船持ともへも万事申合和融仕相續可致候、外村々差配人船世話役船持共相互和融仕、諸事正路ニ相勤可申候、是迄之通我侭ヲ立順熟不致候ハヽ、双方急度可被仰付候間、相互ニ急度相慎ミ万端無隔意申合順熟仕相勤候様被仰渡逐一承知仕奉畏候

右之通御ケ條を以被仰渡候趣、委細承知仕奉畏候、以来急度相慎被仰渡候趣少為違背仕間鋪候、若不埒之儀

有之候ハヽ、何分之御答ニも可被仰付候、右為御請
差配人惣船持船世話役連判印形書付差上申候　以上

惣船持　印
船世話役　印

差配人

六右衛門
与左衛門
九郎兵衛
治左衛門
金右衛門
七左衛門
善左衛門

延享四乙卯年十二月

柴村藤右衛門様
平岡彦兵衛様
蔭山外記様
山本平八郎様

御役所

㉙　御城米御運賃之事

一、御米百俵ニ付運賃米　六俵　外五厘増　但　車ケ渕　長崎
一、御米百俵ニ付御運賃　五俵半　外五厘増　但　船町　寺津
一、右同断　右同断　五俵半　外五厘増　但　本楯
一、右同断　五俵　外五厘増　但　羽入　谷地
一、右同断　四俵半　外五厘増　但　嶋　大堀　海塩
一、右同断　四俵　外五厘増　境野目
一、右同断　三俵　外五厘増　大石田　深堀　芦沢　名木沢　毒沢

御城米小川送り賃米

一、御米百俵ニ付運賃米弐斗　三河尻

一、同　同　壱斗八升五合　船町

一、同　同　九升弐合五勺　灰塚

一、同　同　四升六合弐勺五才　寺津

往昔ハ左沢川、寺津ニあ落合候故、寺津ハ最上川之内也、後本楯ニ押切候大川故、小川送り賃無之所故、九升弐合五勺之半分百姓方ゟ手傳也、依之譬御米弐百五拾表(ママ)有之時、百弐拾五表元船積候共運賃ハ上荷船へ渡シ、元船ハ無運賃也、上荷船百弐拾五俵積候共、弐百五拾表之送り賃取之也、寺津向ニ長崎之枝郷ニ落合村と言有之

㉚　御廻籾御運賃之事

一、御籾弐百三拾壱俵壱斗弐升五合ニあ、御米ニ直シ弐百五拾表也

但　御籾ハ五斗入積　御米三斗七升入積

一、御籾百俵ニ付御運賃米五俵弐分　車ケ渕

一、右　同　断　同　四俵四分　長崎

一、右　同　断　同　四俵八分　羽入

一、右　同　断　同　四俵四分　谷地

一、右　同　断　同　三俵六分　本楯

一、右　同　断　同　弐俵八分　船町

寺津

嶋

大堀

貝塩

境野目

大石田

深堀

芦沢

但　表形ニあハ五斗弐升有　右同断三斗九升有

名木沢　芦沢
毒沢　深堀
名木沢
毒沢

右ハ弐割引勘定也

御籾酒田船運賃

一、右同断　同　四俵八分　車ケ渕
一、右同断　同　四俵四分　長崎
船町
寺津
本楯
羽入
谷地
嶋
大堀
貝塩
境野目
大石田

右ハ五厘増無之故、最上船ハ減

㉛　御私領米御運賃之事

一、其於河岸々々壱俵増ト可知、酒田船ハ壱俵安也

御用御召船運賃

一、右同断　同　四俵
一、右同断　同　三俵六分
一、四人乗船壱艘　鑑八貫五百五拾文　大石田ヶ酒田迄
一、同断　同　鑑六貫弐百文　大石田ヶ清川迄
一、御籾百俵ニ付御運賃　三俵弐分
一、同断　同　鑑弐貫七百文　大石田ヶ清水迄
一、右同断　同　弐俵四分
一、三人乗　壱艘　鑑四貫八百文

大石田ゟ酒田迄

一、同　断　同　鑢四貫文

大石田ゟ清川迄

一、同　断　同　鑢弐貫文

大石田ゟ清水迄

㉜　商人運賃之事

一、四人乗船壱艘運賃金五両弐歩永弐拾五文

長崎　船町　寺津　本楯

蔵増　貝塩　谷地

一、同　断　同　金四両三歩永百五十文

大槇　下長崎

一、同　断　同　金四両壱歩永百五十文

境野目

一、同　断　同　金四両永百五十文

小管(菅)向

一、同　断　同　金三両三歩永百五十文

大石田ゟ毒沢迄

一、同　断　同　金弐両永弐百弐拾五文

清　水

商人運賃拾分壱助成之事

一、往昔ハ其村々助成ニ候所、山形御城主保科肥後守殿御代より船町・大石田荷宿ニ被下候

一、享保八年大石田船道御取放シニ相成、寺津出荷物ハ同所吉左衛門、本楯出荷物ハ楯西村善蔵荷宿ニあ助成ニ致候、大石田・船町ハ村助成、横山も右同断、延享四年ゟハ横山荷宿勘蔵助成

㉝　通船運上之始事　（記載なし）

㉞

一、宝暦六子年大石田村之者共、鑢百貫文御益差上、船町・寺津・本楯・横山・清水ニあ取立来候商人運賃拾分壱幷上郷船差配人五人取放、最上川通船一件

不残古来之通、大石田一村之者共ニ被仰付被下度旨、其頃御代官辻六郎左衛門殿ニ相願、翌丑年村為惣代大庄屋与左衛門・名主庄兵衛・組頭太右衛門・船持代金十郎出府相願候ニ付、丑年ゟ巳年迄五ヶ年御代官下向之砌、吟味有之候得共相片付ス候所、尾花沢村又左衛門・工藤小路村勘右衛門取扱候者、上郷差配人五人、寺津・本楯・横山船世話役三人、大石田村願人八人、都合拾六人ニゟ御吟味増ニゟ御冥加銭弐百五拾貫文年々上納相勤候様取扱候ニ付、寺津・本楯・横山・大石田船世話役と申名目御取放ニ相成、請負人兼帯勤メニ相成候拾六人、名前ハ漆山村善左衛門・同村七左衛門・高櫓村治左衛門・成生村九郎兵衛・楯北村金右衛門・楯西村善内・寺津村吉左衛門・横山村勘兵衛・大石田村六右衛門・半右衛門・五郎右衛門・与左衛門・又左衛門・太右衛門・治助・三次郎、都合拾六人ニゟ相勤候処、明和三戌年工藤小路村勘右衛門・内楯村弥助、野州安蘇（アソ）郡前田亦吉殿知行所戸奈良村太左衛門、其頃御代官宮村孫左衛門殿・柴村藤三郎殿ニ冥加金羅増（セリ）金八拾三両壱歩ニゟ御請仕度願出候ニ付、拾六人之者共羅増被仰付候得共、年季ヲ以御請負いたし、年季切替度毎羅増候ゟハ無際限も事故、羅増不致ニ付、願之通右之者共ニ不申付候所、明和四亥年野州安蘇郡稲生平治郎殿知行所戸奈良村五左衛門と申絹屋大石田甚内宅ニ止宿シ、御城米船へ致便船候処、追掛新庄領瀬脇村下ニゟ絹荷物取揚候ニ付、大石田宿甚内・船宿仲間同所佐兵衛・五郎兵衛・圓助・横山村太郎兵衛・酒田差配人成田此右衛門、右荷物相返候様取扱候へ共不聞入、過料金三両掠取（カスメ）荷物相返候、其節清水村圓助致同船候所、船見横山村三次郎・勘太郎追掛候ニ付、村ニ上り八兵衛と申者之宅へ立寄、五左衛門書賄致候所、飯代弐百文差置候処、右之次第御奉行所ニ致出訴候ニ付、御判物ニゟ右拾壱人之者共御召出、段々御糺明之上弥助・太左衛門所拂、勘

右衛門儀ハ船會所詰不致、遙隔り居候申訳相立請負御取放、横山太郎兵衛儀ハ過料金取継候咎ニ而所拂、宿甚内其外ハ手鎖過料銭ニ而御免ニ相成候

私曰、大石田村之者共運上申立候節ハ、国之衰微ヲ愁イ致取扱候者正似邪也、十六人ヲ退ケント巧、是肝侯也家ヲ亡ノ基也

同年九月宮村孫左衛門殿・柴村藤三郎殿・會田猪右衛門殿・前沢藤十郎殿、山形御料地之節、同所ニ會合有之、拾六人ニ仮役被申付翌四亥年迄勤ル、冥加金八拾三両壱歩也

一、同年亥九月羅増ニ相成候処、戸沢上総介殿御知行所横山村勘兵衛・甚兵衛と申者、大造(ママ)ニ羅増金弐百弐両弐歩ニ而落札ニハ相成候得共、遠慮なき事ニ付一通之利潤は可有之候得共、永々ニも無之年季有之事故、国の煩と成るをしらんか

㉟ 大石田村之者共以我意出訴之事

一、勘兵衛・甚兵衛入札高金故窺ニ相成候処、大石田村半右衛門・同村太右衛門・三治郎・高櫛村治左衛門、右之者共邪知を以、右両人之入札伺をやぶらんと企ツ、半右衛門・治左衛門、七左衛門ニ問答、右両人之入札窺ニ相成候上ハ譬不宜と言とも反古にならす、尤吟味直しと言事雖有、吟味直しに相成候節ハ、其節掛り之御代官之越度に相成事故、吟味直しには不相成者也、且駈込訴箱訴と言あれとも、右両訴ハ裁許破りと立故ニ始入牢也、雖然御取箇或ハ田地公事又ハ人殺なとの類なり、必止たまいと答、三人之者共邪知を以、七左右衛門(ママ)ハ勘兵衛ニ馴合候故と致悪口、漆山村善左衛門を進メ頭取りし、上郷村々十八ケ村・下郷十六ケ村百姓連印を貰い、万一江戸呼出等ニ相成候節ハ、入用何程ニ而も可差出旨、右三十四ケ村ニ書付出ス、是治才(ママ)之長也、はたして御代官にて取上無之ニ付善左衛門・半右衛門・三治郎者小野日向守殿ニ駈込致訴候処、裁許破り之咎依

テ右三人之者共寒中入牢被申付、善左衛門儀ハ老人故牢死、三十四ケ村名主出府入用大石田村ゟ差出迷惑致候、金銀任有、公儀を侮る天罰と可知、是を前代未聞之馬鹿者と言也、明和五子年四月朔日より安永七戌年三月晦日迄、勘兵衛・甚兵衛、領主之御慈悲を以首尾勤事難有言事無量

㊱ 安永七請負之事

一、安永七戌四月朔日ゟ漆山七左衛門・東根村伊勢屋武兵衛と申者ニ被頼願人ニ相成、武兵衛金主、證人同村善兵衛三人ニゟ相勤候処、同年十月武兵衛病死、跡金主楯岡村茂右衛門・東根村六兵衛・七左衛門退ケ候ハヽ、金銭儲余斗有之様心付候処ニ、横山村勘兵衛馴合非道ヲ巧、長瀞村儀右衛門ヲ頼、力石萩之進殿手代中村紋右衛門ニ金拾両致賄賂、七左衛門退ケント致非道之吟味故、七左衛門不吟味請白洲ゟ直ニ致出府御奉行所訴、紋右衛門ト奉行所之於白洲ニ爲對決、願駈込訴訟ニ出候処、其節紋右衛門如何之訳ニ候哉、萩之進殿ゟ暇ヲ取出府いたし、依之無據善兵衛・茂右衛門・六兵衛方へ御判物ヲ付、江戸於御白洲ニ戸沢上總介殿御領内谷地北口村卯之助ト申商人之銭押取致候処、両御奉行所御前にて申上ル、押取と言事ニ恐れ多、江戸宿願下内済爲仕度願も相立、七左衛門方へ金五拾両善兵衛・六兵衛・茂右衛門方ゟいたし内済ス

二　最上川船雑記　二　（仮称）

（目　次）

年貢米酒田に納る事
最上川河岸の始之事
最上川御城米積場之事
船町河岸場之事
御城米破船弁米之事
最上川河下請負始
酒田湊御囲普請之事
公料陣屋始
最上船高之事
商人運賃
御城米運賃増方之事
大石田にゐ酒田船ゟ取立候銭
同所にゐ最上船ゟ取立
大石田船道公儀ゟ御取放に相成候訳
○左沢ゟ庄内迄川通難所
○廻船の法を以川船に用ル事
○年数之事
○最上御領地之御大名手船造立之事
○最上・酒田差配人勤方之事
○差配人船會所之事
○横山・本楯・寺津河岸之事
○陸艣取立之事
○新河岸願之事
○横山船之事
○酒田ゟ登運賃之事
○商人運賃之事
○商人運賃拾分壱助成之事
○大石田ゟ上郷に登運賃
○大石田船道取放之事
○最上川運上始ル事

〔○印のみ収録〕

① 左沢方庄内迄川通難所

左沢　佐倉ケ瀬　仁田　木やら　谷地　松の下　海味　碁点
冨並　三ケノ瀬　同　隼瀬　同　大丈倉　同　十尋淵
土生田　二ツ家　同　赤石　田沢　棚碁瀬　同（管）　小管瀬
横山　來迎寺瀬　大石田　下瀬　駒篭　水ケ瀬
大浦　白鷺瀬　名木沢　道次瀬　笈渡　大巻
鳥川　要ノ松　清水　興源院瀬　清水　天狗岩
清水　反リ岩　同　烏帽子岩　同　七巻
同　蛇はみ　作ノ巻　林蔵淵
同　地蔵淵　本合海　八向　藏岡　岩鼻
口はみ　隠ル石　清川　下瀬　巻嶋
（ママ）　雑唯川

右難所三拾四ケ所

② 廻船の法を以川船に用ル事

一、家より船に乗浮門出の時は、其年寄近付（ママ）家中眷属迄茂酒をもり門出仕可乗事、思ふ所之宿向迄茂可有時宜遣候、おもひの儘の商を仕、上下目出度在所に船乗納候時者、所々地頭役人迄茂相應之土産を遣事、是茂廻船之目出度法之事

一、寄船流船は其在所之神社佛事等之可爲修理事

一、於湊繋船損たる時者、其所方濡たる物をほし船頭ニ可渡也、爲其帆前碇役を仕湊を買申候ハヽ守護たりといふとも不可有違乱支

一、繋船数多有之大風ならは、其村方加勢は先風上成船は加勢する事尤也、いかに風下の船綱多有といふとも、風上の船流かゝらは諸々船とゝむへからす、若風上の船おのれと綱を切り、風下の船方風上の船迄不可有存分支

一、船を瀬に乗上、湊の内にて大風・大波に船をそこね荷物殘配當の時は、船茂配當ニ可入事、沖にて大

風に遭ゐ荷物を捨命助り申時者、船のかけ船子の手柄にて少荷物も残、配當の船舟子の私(ママ)なと配當に入間鋪事

一、水主雇ニゐ水主ゟ變替之時は、我におとらぬ水主を船頭へ可渡事

一、水主雇乗せても、其者船頭の爲ニもならず、船中ニゐ族を言闘詩仕候水主をおろす所の賃金をおろすへき事

一、川船之儀登り船・下り船行合船きしろひ候時は、下船ゟ船口をあけ可申事、無其儀上り船につきあてたる時者、下り船ゟ其損したる所を致造作、一礼を申可相渡事

一、借船をして馳沈十人の水主死、壱人の船頭活候者定たる船床可有事

一、船損して拾人之水主は活、壱人の船頭死候ハ船床有間鋪事

一、借船をして藁綱・葛綱類ハ船戻時請取たる時之様成綱可戻事、但壱房弐房ハ打添候ゐも可渡事、乍去本之様成綱之類ならは、不打添とても沙汰には成間鋪事

一、沖走の時、風下の船に乗掛つき沈流時は、風上の船可爲科事

一、荷物濡たる時は、船頭可辨事、但沖ニて遭大風・大雨に大波之時は、濡たるハ誤ニ不可有之、湊の内にて雨ありに濡たるハ可弁事

一、船中ニゐ大小分ニよらす鼠切たる物於有之、可爲配當事

一、荷物捨行時、不被届乗候ゐ船戻配當有之時ハ、所ゟ賣買直段を聞可爲配當事

一、荷物積合遭難風荷物捨申候者、行着所ニゐ可爲配當事

一、船に荷物を積、船頭ニ積日記を以不相渡物ハ、縦(タトエ)金銀捨たりといふとも惣之配當ニ不可入事

一、積日記船頭ニ渡時ハ乗衆何も可有加判事、是ニは

つれたる物ハ配當ニ不入也、但船々中ニ點懸之上ヲ以、殘たる所は積日記ニ不入いふ共、配當に可入事、捨たる時ハ曾以不入事

一、舟を借て戻にも運賃を取たる時者、三ケ一ハ船主可請取事、但借請時戻り之荷物迄可積由、断たらは不及三ケ一ニ事

一、船を借、借船頭行先ニあ公事有之、船を取留借船頭可弁事

一、本船頭枝船之時ハ荷物捨、枝船之荷物無恙時者、枝船に配當有間鋪事、其故は親之懸は子に懸、子に懸は親に掛事無之故也、但最前枝船積合候時ハ互ニ乗衆約束之上を可有沙汰事

一、借船をして若も船積したると言とも借手不可弁、但最前可爲約束事

一、借船をして其船虫喰たる時ハ、借手可為誤事、但船付於有之ハ借手不可機違事、舟付細々断候所、借手於油断ハ可弁事

一、梶柱損たる時は、借手弁間鋪事、借請時の約束可為次第事

一、借船をして浦津にかゝり置、船頭船ニ人を不添、岡に上り、俄に波風仕船損候時ハ、借主其船をそだてへき事、但船頭船に相添手柄を盡し候あも不叶、手に餘り損候者、其損たる荷主たすかり次第舟船床打合配當可仕事

一、積荷船頭と荷主と約束仕、荷主ゟ相違之儀ハ其荷所程舟間を明、運賃約速(ママ)候様可有取渡、但前廉所々曖候者双方其曖にまかせ可相済事

一、登り舟・下り舟行合、登り舟を以下り船を損候共違乱間鋪事

一、走舟は押舟ときしろい候時、走舟ゟ船口あけへき事、無其儀押船に馳掛損シ候時は、造作を仕一礼を述て可相渡、押船ニあ走舟損候共異儀有間鋪事

一、借舟をして百里所に舟床定候共、何事ニあも出合思案有時は、譬弐拾里も三拾里も乗出、相違之儀候

ハ弐拾里三拾里間之舟床をかき可請取渡事、但荷物約速(束)なとも可為同前事

一、綱をきらしたる時は不及弁、但取はつし落し候者可弁事

一、碇をおとし候者可弁事

一、諸道具請取候時の注文引合可渡事

一、舟を盗れ北国の舟は西国に有、西国の船ハ北国に有といへとも、此舟を横取廻船於有之ハ、舟見合次第此舟取返シ船頭も可為迷惑事、かわらに付たる沙汰は縦(ママ)親子之間迄も可為不覚事

一、湊にて乗衆舟衆舟をすゝむといふとも船頭すゝむへからす、乗衆水夫思案の所に船頭すゝみ出船仕、若其舟気遣之時は船頭可為怪我事

一、舟を損して命たすかりたる時ハ、縦其内壱人之者金銀をたばさみたりといふとも、惣中ゟ締(カ)たるへからさる事

一、籾米を損、又ハ唐物積合たる時、荷主唐物捨候とも籾米配當ニ不掛事、若あわてゝ籾米積候荷主、或ハ船頭又ハ水主、彼唐物を捨たる時ハ、勿論配當に可入事、唐物積たるハ籾米を不捨して我唐物捨たる時ハ、内々ハ何を包て唐物と申も不知といふ沙汰有之故也

一、荷物積て或沖にても、又ハ湊にてもかゝり船ニ火出したる時ハ、沖にて大風荷物捨たる同沙汰たるへし、但火を出したるハ可為越度事

一、舟に荷を積て水夫取逃仕たるハ船頭可弁事、但水夫をとらい荷主へ(へ)渡たる時ハ、取逃ケ之物ちり〳〵たるとも船頭不及弁事

一、舟をかりて借(ママ)て相違候者、舟賃約速(束)之通り可相渡也、其時は舟上下仕程舟居置なり、本船主内談ニあ少々礼物を以相済候あ、舟何方へなりとも可放遣也

一、舟をかり候時かして相違候は、右之舟程成をかりて我舟可請取也

一、舟をかりてたつる時ハ、舟を焼割たるハかりて可

弁事

一、沖を走時、舟よわくのみはき有、水のを入又ハ道具を損し候時ハ配當ニ可入事

一、舟かる時笘を不残大小分付候ハヽ、其借たる時の様成笘を可渡事

右四拾三ケ條

兵庫　辻村新兵衛尉

土佐浦戸　篠原孫左衛門尉

薩摩坊之津　飯田備前守

貞應弐年癸未三月十六日

右天下に被召出舟之法、御尋之時申上、御袖御判被成候者也、雖有犯理法、犯法理者不可有、此四拾三ケ條之外ニも舟之沙汰於有之ハヽ、右三ケ條之内引合以為似可沙汰者也

正保弐年五月　奉行

③　年数之事

一、貞應弐年ゟ寛政弐年迄　凡千五拾七年ニ成ル

一、正保弐年ゟ寛政弐年迄　凡百四拾六年ニ成ル

一、観應弐年ゟ寛政弐年迄　凡四百三拾九年ニ成ル

一、延文元年ゟ寛政弐年迄　凡三百七拾年ニ成ル

一、承應三年ゟ　同　凡百三十七年ニ成ル

一、延宝四年ゟ寛政弐年迄　凡百拾五年ニ成ル

一、元和六年ゟ　同　凡百六拾弐年ニ成ル

一、元禄拾六年ゟ　同　凡八拾六年ニ成ル

一、享保八年ゟ　同　凡六拾六年ニ成ル

一、万治三年ゟ　同　凡百弐拾壱年ニ成ル

一、貞享三年ゟ　同　凡九十六年ニ成ル

一、寛文拾弐年ゟ　同　凡百拾八年ニ成ル

④　最上御領地之御大名手船造立之事

一、万治三年山形御城主松平下総守殿、御手船拾艘御造立

一、延宝九年山形御城主奥平美作守殿、御手船拾艘御造立

一、貞享三年山形御城主堀田下総守殿、御手船拾艘御造立、古河に御國替にあ拂に立

一、元禄拾年堀田伊豆守殿拾艘御造立、古河ゟ山形に御國替、福嶋に御國替にあ拂に立

一、延享弐年山形御城主堀田相模守殿、御手船八艘御造立之処、佐倉に御國替にあ拂に立、此節迄ハ船方へ御尋無御座相済申候、尤町船同様に候

一、寶暦六年上杉大炊頭殿、御手船六艘御造立被成候処、船方御尋御座候、米澤御城主にあ最上御城主に無之故ゟ、町船同様と被仰出候

一、享保八年新庄御城主戸沢上総介殿、御手船弐拾五艘御造立、尤前々ゟ有之候得共、其節迄ハ相定候船差配人無之、其節始あ川通り為〻り公儀被仰付候に付、新庄御手船之儀、江戸表へ相窺候所、川下之被仰立にあ相済、依之其節ハ谷地弐万石に者御手船不向、町船にあ積下り候、川下之被仰立にあ相済候故、上郷請負に無御構、清水河岸に酒田船拾艘御直雇被成候、是川下被仰立之證據に候

⑤ 最上・酒田差配人勤方之事

覚

一、最上にあ御城米御積出幷酒田水揚共に差配人立會に及不申、然共水揚之節不埒も有之候ゟ、又ハ川難御座候得者、其場所に罷出船方吟味致候故、兼あ御料御手代衆に御見舞申上其段御届申筈

一、御私領米御積出送り状之外に、上郷差配人ゟ見届添手形差下申候故、酒田に着船之砌船頭方ゟ右之添手形請取置申筈、依之爰元に御勤候他所役人衆に水揚之節不埒も御座候哉、又ハ川難之節差配人其場所に罷出船方吟味致候儀に御座候、其節可被仰聞段御届申上筈

一、酒田者木暮七左衛門幷善左衛門代壱人相勤候筈

一、大石田ハ村山治左衛門幷善左衛門代壱人相勤候筈

一、本楯ハ井上金右衛門幷善左衛門代壱人相勤候筈

一、寺津ハ奥山九郎兵衛幷善左衛門代壱人相勤候筈
一、上郷者酒田ゟ差配人壱人罷登申筈
一、御城米幷御私領米・商人荷物共ニ川難砌支配
一、本楯ゟハ船町・左澤迄
一、寺津ゟハ大石田迄
一、大石田ゟハ清川迄
一、酒田ゟハ清川迄
一、酒田問屋積出荷物積荷狀見届之上致末書、酒田差配人壱人立會之、七左衛門・善左衛門代共ニ三判ヲ以酒田川口・堀内相通し、上郷ニ着岸之節其場所ニ ゐ末書を切留置可申事
一、上郷ゟ積下候荷物ハ、上郷差配人弐人酒田ゟ立會壱人三判を以致末書、古口・清川ヲ通酒田着船之節、右末書を切留置可申事
一、川船運賃之儀、大石田迄ハ造塩八拾俵積壱俵ニ付新銀五匁宛、上郷行ハ六拾俵積壱俵ニ付新銀八匁ニ ゐ運送可仕候、差支之儀候ハヽ、追ゐ相究可申候
一、御私領御運賃引下之儀、船持共ゟ願書取申候上定可申事、上下差配人方ゟ御私領方ニ御届可仕事、明船を先着ニ立荷物爲積可申候事、破船弁米其所之船高ニテ相弁、上下船高ニハ割付申間鋪事
一、碁点・隼房・三ケ瀬難所用心船之儀、當年新規ニ候間、上郷・酒田ゟ爲差登置申筈申合候
一、御城米ハ不及申、御私領・商人荷物共ニ水揚之折節見舞可申事
一、差配料之事、荷物積立申候方ニ ゐ取立可申候、尤荷物不足ニ ゐ半艘荷已上ハ役料壱艘分取可申候、半艘荷以下弐分三分之不足ニ ゐも半艘之役料取可申候
一、新庄御手船弐拾五艘幷清水弐拾艘之極印判鑑、上郷・酒田差配人ニ申請候様新庄役人衆ニ可申遣事
一、清川・古口・堀之内・大石田・本楯・寺津ニ上郷・酒田差配人印鑑遣可申事
一、上郷・酒田差配人仲間ニ定證文幷印鑑・船請印共ニ取遣置可申事

一、新庄御手船弐拾五艘に、酒田ゟ御差荷物被成候ともも、江戸ゟ被仰付無之内ハ爲相積申間敷事

右之通各對談之上相極申候、若此末差支之筋ゟ御座候ハ相談致直し可申候、本證文ハ追ゟ取遣可仕候　以上

享保八年卯三月

上林七郎左衛門　印
青塚治郎右衛門　印
永野五郎兵衛　印
最上屋嘉右衛門　印
松田文左衛門　印

片桐善左衛門殿
木暮七左衛門殿
村山治左衛門殿
井上金右衛門殿
奥山九郎兵衛殿

右之通酒田へも遣取替也

⑥　差配人船會所之事

一、享保八年ハ大石田村に船會所相立、村山治左衛門・善左衛門代天童村伊左衛門、酒田差配人松田文左衛門相勤候処、何となく大石田村之者共差障り居苦鋪に付公儀へ相窺候處、尤に被召置長谷川庄五郎殿・森山勘四郎殿ゟ新庄に御掛合被下横山村引

⑦　横山・本楯・寺津河岸之事

一、享保七寅年大石田船道可取放相談一決ゟ、酒田万藏院に御料私領最上惣商人會合之節ゟ、寒河江善藏儀ハ其長たり、江戸爲人用寅卯辰三ヶ年商人諸荷物壹箇に付貳文宛差出、其取集等之世話人善藏、外に元ノ字金百両善藏差出に付、願相叶候上ハ荷問屋と申立候、吉左衛門儀ハ人用ゟ不出候得共、七左衛門ト人魂之者故何となく商人荷爲致世話、拾分壱金ハ過半七左衛門助成に仕候処、表立不申候ゟハと享保九年七左衛門出府致候節吉左衛門も致同道、其頃御

代官鈴木小右衛門殿ニ申立御勘定所ニ御窺、川西荷問屋善藏・川東吉左衛門と相成候、川西ハ左澤ヵ横山迄、川東ハ山野邊ヵ大石田迄ニ候、横山村ハ清水ノ内ニあ河岸ト申儀無御座候、寺津・本楯之儀も船町・大石田河岸之内ニあ候処、享保八卯年本楯河岸・寺津河岸と致候得共、全躰ハ大石田・船町河岸ニあ、横山之儀ハ享保年中大石田船道相放れ候得共、清水弐拾艘之船株ニあ御廻米へも差向候得共横山致船会所ニ、往來文言ニも於横山船場相改差下申候と認候ニ付、横山も一河岸之様ニ相成候得共、荷問屋と申も無之、元文五年迄ハ儀右衛門・清三郎其外壱弐人、秋春商人船間ケ鋪時分ハ谷地・楯岡商人ニ参下荷物聞立、船會所ニ致乞船、運賃拾分壱ハ此者共致助成候、尤勘藏・善七儀ハ其節船持ニ候得共、差配人宿ハ佐久宅故通船方用向も等閑ニ御座候処、元文五年七左衛門壱人ニあ横山船會所引請相勤候、其前善左衛門代天童三日町伊右衛門差配人ハ九郎兵衛・治右衛門拾年ニ相勤、其後善左衛門代溝延

村伊右衛門・漆山村庄左衛門儀罷越候、七左衛門壱人兼帯ニ出役いたし候節、儀右衛門・清三郎等致乞船候あも、勘藏願ニ無之候あハ往來差出不申、勘藏・善七荷問屋ニいたし、兩人書付差出不申候あハ取用不申候ニ付、自然と横山荷問屋ニ相成候処、延享四卯年神山三郎左衛門殿船方御吟味ニ御下向之砌、河岸々々荷問屋共御召出候節勘藏・善七罷出、其節御吟味ニ荷問屋ニ有之候商人諸荷物藏入も可致処、左様も無之世話一通りニあ運賃拾分助成ニいたし儀ニ候ハヽ、船世話役と申者と被仰、則御請書ニ何村船世話役たれと御取被成候ヵ已来船世話役と相成申候、且又寒河江善藏儀、享保七年ヵ荷問屋之株ニ候得共、強あ此所寒河江河岸申儀不致、谷地・東根・楯岡等へ商人ニ心安キ者ハ船世話致、爲世話料運賃拾分壱取立候あハ彼是難澁申者も無御座、船差配人ハ四百文さへ請取候得者、往来差出申者と相心得六ケ鋪事一切無之候、船町村荷問屋嘉右衛門・寺

津村荷問屋吉左衛門・寒河江村荷問屋善蔵往来認遣候に、横山会所月番之者致印形已而ニ候、大石田・横山ハ荷問屋ニ無之故、立紙之願書ニゐ往来差出申候、横山ハ清水船株之内ニ候処、横山船会所七左衛門出役已来ハ清水船も横山之船株ニ入、御城米・御私領割も横山ニ斗申付、勘蔵方ニゐ清水船致世話様取斗候ニ付、横山河岸と相成候

⑧ 陸艫取之事

一、享保八卯春御廻米之節、大石田名主共漆山御役所に御召出、陸艫之儀是迄之通相應之賃錢取之、大石田ゟ差出候様被仰付候処、早速御答仕かね候間、江戸御屋鋪へ御返答可申上候旨御答仕、悉御呵ヲ得申候、依之猶々大石田之者共不届キニ被召置候処、御詫申上御請仕候、横山ニゐハ清水船又ハ新庄御下米に、酒田船向之分ハ横山ゟ陸艫取乗申候処、其後清水船如何之訳ニ候哉、勘蔵手を放れ大石田治郎兵衛を致船宿、陸艫取も大石田者斗乗候様ニ相成候処、七左衛門・治郎兵衛ニ難渋申掛ケ、勘蔵方へ宿為引申候

⑨ 新河岸願之事

一、正徳弐年、其頃御代官柘植兵太夫殿御代、寒河江藤内・市之丞・權助と申者、本楯を河岸ニ取立御城米百俵ニ付賃米弐俵引下、五俵ニて御請負仕度旨御願仕候得共、新河岸相立不申、大石田ニゐ相勤候得共、賃米ハ弐俵引下被仰付候、其節迄ハ清水河岸・大石田河岸・船町河岸有之候得共、清水河岸ハ川下ニゐ大石田斗り重立候ニ付、自然と我儘成船配いたし取放ニ相成候

⑩ 横山船之事

一、横山村ニも艜船少々有之候得共、横山河岸と申義無之、勿論在郷ニゐ新庄ゟハ六里余隔り、清水ハ市

町等茂有之古来ゟ之河岸ゆへ、清水町船弐拾艘之内ニ孕まれ申候、其節迄ハ新庄領内谷地郷弐万石之荷物斗積下候

(11) 酒田ゟ登運賃之事

一、造り塩八拾俵積　但、四人乗積荷也　大石田迄
　此運賃新銀四百匁　但、壱俵ニ付新銀五匁
一、造り塩六拾俵積　但、四人乗積荷也　酒田ゟ上郷迄
　此運賃新銀四百八拾匁　但、壱俵ニ付新銀八匁
一、享保六年金銀御引替今ノ古金、其節ハ新金ト言也、享保金ニ而壱匁弐分金也、其節ハ元金ヲ古金ト言、慶長元年ゟ小粒小判始ル

(12) 商人運賃之事

一、延享元年文金御吹替ニ付三割増之御引替被仰付候ニ付、金四両壱歩之所三ヲ掛ケ永五〆五百廿五文也、諸河岸共ニ此割也、文金壱歩之目方八分七厘五毛也
一、金五両弐歩永銀弐匁五分　但、弐百五拾俵積也
　船町・寺津・本楯・蔵増・貝塩船場也
一、金四両三歩永銀拾五匁　但、弐百五拾俵積也
　大槇・下長崎船場也
一、金四両壱歩永銀拾五匁　同断　境野目
一、金四両永銀拾五匁　同断　小菅
一、金三両三歩永銀拾五匁　同断　大石田
一、金弐両永銀弐拾弐匁五分　同断　清水

(13) 商人運賃拾分壱助成之事

一、古来其所之村助成ニ御座候処、山形御城主保科肥後守殿御代、大石田・船町荷宿ニ被下候

(14) 大石田ゟ上郷ニ登運賃

一、造塩六拾俵、此運賃百八拾六匁、但壱俵ニ付三匁壱分

漆山附・寒河江附六拾ケ村百姓・商
田船上郷迄積通願相立、御代官森山
庄五郎殿代也

道取放之事

料百姓惣代漆山村善左衛門、寒河
兵衛、御料御私領商人惣代漆山村
九郎兵衛・寒河江村弥右衛門、大石
長上下運賃悉引上、上郷商人之造
歩宛取之候ニ付、商ひ成兼郡中一
以下記載なし）

ル事

一、享保八年ゟ漆山　吉左衛門・七左衛門・九郎兵
衛、高櫛村治左衛門、寒河江村金右衛門、船差配蒙
仰相勤候処、延享三寅年御巡見御役人御下向之砌、
大石田舟持共片運送之申立ニ付、引下候運賃壱俵半
被成下候様御願仕候ニ付、翌卯年神山三郎左衛門殿
御下向被成、御米百俵ニ付半俵賃米御込ニ被下、其
節大石田村願ニ付、大石田村ゟ船持之内六右衛門・
与左衛門差加り七人ニ付相勤候処、古来ゟ之仕癖ニ
付、又候大石田之者斗ニ付相勤我侭仕度旨
（以下欠失）

三

文政二年卯四月　川舟方會所須藤久太郎宅ニ有写

年限請負差配之砌船方仕法勤方書付并船持
商人ゟ御尋ニ付所々御役所ゟ差上候書付之扣

毛別百内

① 奉書上川船差配勤方仕法之事

一、船會所之儀者大石田村ニ相建、両人宛月番ニ相詰
メ、差配料并運賃十分一金銭取立置帳面ニ相記、船
頭ゟ納印形取之、船會所ゟ金銭請取手形相渡、取立
帳面ゟ押切印形いたし船頭ゟ相渡可申候、右帳面を

以御役所御冥加金可奉差上候事

一、船會所諸入用所々出役入用共、其節々帳面ニ相記差上可申候

一、御城米御川下ケ高　　調、御私領米共大石田船會所ニ御書付被下置

御川下高、是迄仕来之通酒田

積下御用御差支無之様相勤可申候

順之儀、惣川長最上有船川岸詰メ

是迄之通(くじ)取いたし、鬮先を上郷

ニ相極、河岸船頭名前帳面ニいた

相下候節者点を掛、順番ニ運送甲乙

日ニ相改可申候事

、古船造立仕直候船者是迄之通為

下可申候事

儀者、商人勝手ニ舟町・寒河江・

横山・大石田河岸最寄ニ乞船申出次

運舟差向無滞相勤可申候事

一、商人荷物積舟上郷ゟ積下候節ハ、舟町河岸同村舟世話、寺津・寒河江・横山者私共方ゟ舟セ話役相立、大石田河岸ハ又左衛門差配人兼帯ニ河岸詰為致、右河岸々々之ものゟ積荷切手差出、右切手ニゟ相改於舟會所ニ差配料十分一請取之、往来差出可申候事

一、御城米御川下之節、酒田湊出役之儀壱人宛相勤可申候事

一、御城米御津出之節、河岸出役壱人宛罷出御船積差支無之様可仕候事

一、御城米御私領米幷商荷積船難舟・破舟之節ハ、是迄之通船會所詰之もの罷出、猥成義無之様出役可仕候事

一、差配料之儀、御城米幷御私領米共中船弐百五拾俵積之、差配料鑑四百文宛只今迄之通取立可申候、尤大船小舟ゟ右俵数之割合を以取立可申候事

一、商人荷物差配料之儀右同様取立、尚又運賃十分一者只今迄之通、上郷積酒田湊迄中船壱艘ニ付十分一

弐文五分、大石田積酒田迄金壱分永百
立可申候、大船小舟之儀者右割合を以
但、別紙商物運賃帳奉差上候
大石田河岸附商人出荷物之其村荷問
仕、荷主勝手次第荷宿ゟ乞船いた
宿方ニあ貫目封印等相改、積荷状相
其上瀬懸難舟等有之節者、荷宿早速
積荷状を以セ話仕、尚又端荷物等ハ
聞立世話仕積下可申候、且又荷物急
賃金荷主ゟ早速不参候節者、品ニゟ
又無之様仕候故、往古ゟ十分一之儀
ニ取来申候、依之此度も右三ケ
所十分一相除申
一、往来切手之儀、　ニ之通船會所詰両人之印形ニ
あ、取立帳面荷品幷拇印いたし差出可申候事
一、清水河岸ニ者差配人名代清水村ニあ相立、是迄之
通り取斗可申候事
一、諸荷物割出之外、猥成荷物幷舟頭荷之内相対積之
荷物等為吟味、舟會所ゟ舟改役人両人相立、上下舟
ニ相改、右躰之儀無御座候様相改可申候事
一、商人荷物相対を以酒田ゟ之登荷物大石田揚ニいた
し、大石田ゟ上郷ニ登り諸荷物之儀、是迄之通塩目
ニ積り、壱俵ニ付銭四文ツヽ差配料取立可申候事
一、上郷ゟ大石田迄之諸荷物者、是迄之通上郷運賃之
内大石田積運賃引残を以十分一取立可申候、上郷ゟ
酒田迄下荷物ハ商人勝手を以大石田迄積下囲ニいた
し置、大石田ゟ積下候ハヽ大石田出荷物ニハ無之候
間、右上郷積大石田囲之分是迄十分一差配料共ニ積
下候節取立可申候事
一、酒田登荷物者酒田舟、下り荷物最上舟ニあ是迄之
通積下可申候、且酒田戻舟ニ早水(ママ)之節、最上舟積荷
移し候節者、上荷舟役料弐百文ツヽ取立可申候事
一、清水より上郷ニ登り荷物差配料者、是迄之通荷物
弐拾五駄ニ付鑑四百文ツヽ取立可申候、米百弐拾五

俵ニ付差配料鑑四百文之割合を以取立来申候、同所積下り荷物之義、中船弐百五拾俵積鑑四百文之割合を以取立来申候事

一、往来旅人清川・酒田通路いたし候ニ者、其宿舟方相対を以前々ゟ無滞差引ゟし、古口改所者當村名主元義ニ付、差配方之懸り合無之候

順番甲乙ニかゝわらす、清水出荷物之申合に付、是まて順番鬮取ニ相除人會ニ船積致来申候事

方之儀、其節ニ至り御役所ニ奉伺御可申候事

法之儀、前々之格を以巨細書上申候、然ル上者仲間申合不締之儀無甲候、且不埒之勤方御座候ハヽ、何卒付候、為其差配人銘々印形仕、仕法

亥閏九月　大石田村舟持百姓

御四分　惣代差配人

御役所

② 御尋ニ付乍恐以書付奉申上候

羽州村山郡船持共一統御召出被仰聞候者、通船方ニ付難渋之筋も無之哉有無有躰可申上旨、逐一被仰渡難有承知奉畏候、右通船方之儀年々惣船持共甚衰微仕追々減舟仕候間、御廻米御差支之儀者勿論、惣商人・百姓難儀之筋ニ御座候、此上減舟ニ相成候ゟ者弥増船持商人難相立奉存候、依之何卒御上御慈悲之御賢慮を以御直御差配ニ被成下候ハヽ、船割等も無甲乙潔白ニ相成自渡世も相成候ニ付、新船造立等も出来、郡中百姓・商人・船持共迄難有相續可仕と奉存候、依之左ニ奉申上候

一、船御役所大石田ニ御建被下置、初年者御入用御普

請ニ被成下候ハヽ、翌年ゟ修覆雪囲等之儀都あ舟方ニあ可仕候事

一、御城米之儀、御五ヶ分様御米高御伺之上、舟々ニ無甲乙御割合向舟被仰付被下置度事

一、御私領御下米幷商人荷物積下之儀、一同ニ相成候節者、六分通御私領米、四分通商人荷物積舟御差向被成下、尤商人荷物無之御私領御下シ米斗有之節者皆被仰付、且又商人荷物斗有之節ハ右同様被成下度事

一、商荷物積舟之儀者、荷主幷荷宿ゟ差出候送状ニ御引合御改被成下、新庄御領古口村口留番所幷庄内清川・酒田沖之口迄通船御切手被成下置度事

一、大石田ゟ上河岸ニ積送之荷物之義者、荷宿幷荷主ゟ積荷状を以御改被下置度事

一、清水河岸之義者出荷物迎も僅成義ニ付、別段御役所御建被置候ニ者不及義ニ奉存候、船持之内ゟ壱人被仰付取斗仕候様被成下置度事

一、上下積荷御改之儀、下タ船見之儀者船持ゟ壱人差出候様被仰付被下置度事

一、大石田ニ船持為惣代、仲間ゟ両人詰合させ致候あ舟方御用被仰付被下置度事

一、御城米者不及申上、御私領幷商人荷物難舟瀬掛破舟之節者、川通村々猥成義無之様御取極被下置度事

一、大石田河岸端出荷物、為最上代舟酒田帰舟ニ積下半運賃相拂、残運賃者惣船ニ配當熟談仕候事

一、御城米御用船万一破舟之節、弁米是迄之通三分一通惣舟割合可仕候事

一、御城米積下之内、碁点・隼・三ヶ瀬三難所番舟ハ差置候、人用等船持惣割合ニ仕候事

一、最上當時有船百艘余通船之儀、是迄之通ニあ随分船廻り宜年柄壱ヶ年ニ六度位ならて運送仕兼候、右之内御城米御用船幷御私領御雇船共ゝ三度、商荷物運送之内上河岸ゟ弐度、外壱度ハ舟町・大石田・清水、三河岸之内ニあ積受ゝ六度、此差配料鑑四百文

ツ、六度分弐〆四百文、十分一之儀者船町・大石田・清水〆三河岸之儀者、往古ゟ荷宿セ話料として運賃十分一取来候、依之上河岸寺津・寒河江・横山〆三河岸ゟ積下候、弐度之分運賃金拾弐両永百五拾五文、然ル處違作年柄ハ三度位ならて通船仕兼候義も有之ニ付、平均仕候得者四度半通船ニ罷成候、左之通

一、御城米御用船幷御私領御雇船、此船数弐百弐拾五艘程、此差配料鑑九拾貫文程

一、寺津河岸・寒河江河岸・横山河岸、商人荷物積船百五拾艘程、此運賃十分一

金九拾壱両永百六拾弐文五分

但、壱艘ニ付米弐百七拾五俵積

運賃十分一、金弐分永百七文七分五厘ツ、

外　差配料鑑六拾貫文程

一、舟町・大石田・清水川岸迄之出荷物、此積船七拾五艘程

此差配料鑑三拾貫文程

一、鑑弐拾貫文程

是は大石田河岸ゟ上河岸ニ登荷物平均五千俵程、但壱俵目弐拾五〆目ニ付役料四文ツ、之積

〆金九拾壱両永百六拾文程

銭弐百貫文程　両替五〆五百文之積り

此金三拾六両壱分余

合金百弐拾七両弐分程

但、舟数百艘割

壱艘當り

金壱両壱分ツ、

内、金三歩永百文

但、壱ケ年船役永ニ被成下置度事

残徳用金壱分永百五拾文余

壱艘ニ付

一、銭壱貫文　両替右同断

此永百八拾文程

是ハ上下四度半通船之分、船セ話役人ニ差出
候分

〆金弐分永八拾文程徳用

右之通ニ御座候得共、外ニ是迄者不時之出金も有之候ニ付、壱艘ニ付平均金壱両位壱ケ年ニ徳用も可有之候、依之右徳用を以追々新造相立、又ハ船御役所地代修覆諸入用等ニ可仕候事

一、右之外、酒田舟御城米御用船幷御私領御雇船、其外米沢御手船、差配料壱艘ニ付四百文ツヽ御取立ニ相成候事

前條之通被仰付被下置候ハヽ、船持は不及申商人・百姓一統相續仕御救ニ罷成難有仕合ニ奉存候　以上

寛政三年亥十月　寒河江料
十二月十六日迄ニ上ル

羽入村舟持　太　蔵
沢渡村　同　吉郎右衛門
東根村　傳　之　助
大町村　弥右衛門
柴橋料
長崎村　嘉　兵　衛
善　六
土浦領
渋江村舟持　治　郎　作
上山領
田井村　弥　兵　衛
天童領
小　関　茂右衛門
大石田四日町　兵右衛門
長　兵　衛
金　十　郎
同　本町　安　太　郎
常　五　郎
惣　兵　衛
大石田村　儀　兵　衛
久　蔵
作右衛門
長瀞領
松沢村　伊　三　郎

尾花澤
御役所

③　御尋ニ付乍恐口上書を以奉申上候

羽州村山郡御料所御私領商人惣代之もの共、當御役所ニ御召出被仰聞候者、最上川船上下運送ニ付於商人方ニ差支之儀無之哉之旨、有躰可申上旨被仰渡承知奉畏候、右通船之義、享保年中前後者最上有船弐百余艘有之候処、追々減舟仕候得共、宝暦年中迄ハ百六拾五艘之書上承知仕候、然ル處尚又其後宝暦五亥年大凶作ニ而村山郡一統困窮仕、田畑手入も行届兼候哉、地味悪敷罷成何様手入仕候而も元之地面ニ立直り不申故、出生之諸産物も不足ニ罷成、勿論船持之者ハ衰微仕、追年船不足ニ罷成、當時漸ク百艘位ならて無御座候処、近年御料所御廻米石数格別相増候ニ付、正月上旬ハ御船留ニ相成五月下旬迄御川下仕、其後御私領御下米ニ差向候内、水涸ニ罷成通船必至と差止り、且又雪國之儀ニ御座候間、年ニハ十一月上旬頃ハ通船無御座、左候得者壱ケ年ニ纔(わずか)二・三月ならて商諸荷物往返運送難相成り、其上村山郡之儀者、酒田湊一方口ニ而賣買仕候間、右湊之諸相場を聞合、村山郡之産物買集差下候處、右之通賣買不通用ニ御座候間、船々繰合ニ相成、増運賃等差出候方ニ者勝手ニ差向候而、積後候もの見込之相場をはつし、多分損失仕潰候者も有之、甚難渋之筋ニ御座候、勿論船會所ニ乞船仕候得者容易ニ差向不申、差定候運賃ハ増ニも相成、運賃次第ニ船差向、或者前運賃等借請候而船差向不申、捨置候義も間々有之候

前書之通積後候而者身躰ニ拘候間、無據繰増候様罷成、重々難儀至極御座候、尤往古者右躰之儀聊無御座候処、御冥加金上納ニ罷成候已来者、年季請負ニ罷成、年季明之度々繰増、身元も無之もの當時之渡世のミニ拘り、損益之見繕も無之請負仕候故、通船一体元締不申道理と奉存候、右船差配人之儀、年中會所入用

其外御料・御私領御役所ニ罷出、或ハ川通ニも年中出張仕候諸雑用相考候ハ、凡五六百両余も差配料無之候ハ仕當ニ合申間敷と奉存候處、全右様ニ者無之様承知仕候、右之義者私共委細申上候迄も無御座、船會所諸帳面御召上、四ヶ年之分御平均被遊候得者、分明成義ニ御座候、徳分も無之請負仕候故、手之届丈者無筋成勝手をも可仕義と奉存候、船割等之儀も甲乙有之、商荷物等積請不申、多分損毛仕候船も有之候様承知仕候、将又近年米穀も直段下直ニ罷成、御廻米并御私領米積請候ハも船頭・水主給金斗ニも引足不申、過半損失有之上、前書之通商荷物も積請不申候ハ者、多分之損毛ニハ船持相續難相成、年増減舟仕候者(ママ)暦然之儀、此上船不足ニ罷成候ハ者御廻米御差支者勿論、商人・百姓必至と差詰、村山郡衰微之基と奉存候、成行之程歎敷一統申のミニ候得共、御訴訟等仕候ハ者、第一御冥加ニ差障り候道理ニ相當候、且又船差配人相手取出入ニも相成、大勢之商人江戸ニ御召出等ハ有之候ハ者、差當難渋之筋旁相考、乍難儀差扣罷在候処、此度御召出有之有躰申上候様被仰聞候間、難有奉承知候、乍恐口上書を以御答奉申上候、何卒御上之御賢慮を以船数も相増、船配り等潔白相勤、船割等も無甲乙割合、商人荷物融通仕候ハ、潰船等も無御座、村山郡百姓・商人相續可仕と奉存候、右御尋ニ付不奉顧恐をも奉申上候　以上

羽州村山郡柏倉領　　商人惣代

寛政三年亥十月

同州同郡長瀞領　　商人惣代

羽州村山郡漆山附　　商人惣代

同州同郡土屋但馬守領分

同州同郡織田左近将監領分

同州同郡秋元但馬守領分　　商人惣代

鈴木喜左衛門様

御役所

④

寛政三亥四月、船會所ゟ御普請役様に書上之扣

同三亥十月、船持共御糺に付尾花沢御役所に書上之扣

御尋に付乍恐以書付奉申上候

一、最上川通船・最上船差配之儀、往古ゟ享保七寅年迄大石田四ケ村名主・庄屋四人、舟肝煎と唱船配り仕候處、漆山附・寒河江附村々百姓惣代を以、御城米御川下賃米於河岸々々壱分半宛引下御請負奉願候処、享保八卯年ゟ漆山村善左衛門始五人之ものに差配被仰付、船會所横山村に相建、中船弐百五拾俵積壱艘ゟ鑢四百文宛、通船度毎為差配料取立申候、御冥加永之儀は請負中上納不仕候、往古大石田村にゟ舟配仕候節之通り差配料取立申候

一、商人荷物運賃十分一之儀者、舟町・大石田・清水三河岸之儀、往古ゟ唯今以荷宿世話料に取来申候、享保七寅年迄者大石田四ケ村にゟ取立、惣百姓助成に割賦仕候處、享保八卯年ゟ寺津・寒河江・横山河岸之分、其河岸之舟セ話之もの取立申候

一、延享三寅年船方仕當に合不申、難儀之趣御巡見様に御願申上候処、翌延享四卯年船方為御吟味、江戸表ゟ神山三郎左衛門様御下向御吟味之上、酒田舟と違ひ最上舟之儀者御城米酒田に積下り、同所ゟ空船にゟ相登候片運送之趣御聞届之上、最上船に限り御城米御川下賃米五厘増被仰付、其上大石田村舟継由緒等御糺し之上、川通為取締大石田本町名主六右衛門、堀田相模守様御領分大石田村与左衛門、右両人差配役被仰付、漆山村善左衛門始五人之ものに御差加七人にゟ差配仕候、其砌迄ハ御冥加永上納不仕候、最上船数百七拾七艘之内百三拾艘大石田舟、四

拾七艘五ケ所舟数

一、御冥加金上納差配仕候儀者、宝暦十辰年初ゟ被仰付候訳者大石田四ケ村ニゟ往古之通最上川船差配被仰付候ハヽ、鑑弐百貫文差上可申段奉願候処、漆山村善左衛門始五人之差配幷舟世話役三人、都合八人一致ニゟ大石田村と羅願同前ニ相成、御吟味中出入内済和熟仕、右上郷八人之ものと大石田村御料私領為惣代、名主・組頭八人都合拾六人ニゟ右冥加銭を以奉願上候處、御吟味之上五拾貫文相増都合弐百五拾貫文、調銭四貫文替之積を以御冥加金六拾弐両弐分上納可仕旨御下知相済、寶暦十辰年ゟ午年迄三ケ年差配被仰付候、冥加金差上候義者、差配料幷寺津・寒河江・横山・大石田四ケ所商物運賃十分一双方立會、大石田船會所ニゟ取立、右之内御冥加金上納幷諸入用引残上郷と大石田半々ニ割り合、大石田割當之内ゟ同村荷問屋ゟ商物運賃十分一前々之通割返申候、尤此段御代官様かた御聞届被遊候義ニ御座候

一、宝暦十三未差配年季明ニ付金三分相増、同年ゟ明和弐酉年迄、右拾六人差配役相勤申候

一、明和三戌年ゟ最上船差配之儀、冥加金初ゟ入札被仰付、村山郡工藤小路村勘右衛門・弥助・野州戸奈良村太左衛門、右三人冥加金壱ケ年金八拾三両壱分宛上納之積り、同戌ゟ拾ケ年請負被仰付、御冥加金差上候儀者、差配料幷寺津・寒河江・横山三ケ所商物運賃十分一横山船會所ニゟ取立蒙仰相勤候、尤大石田河岸十分一最初右之趣見込入札奉願候得共、其節御代官様方之御吟味ニも相分り、大石田歩一相除差配仕候処、翌亥年絹荷物之儀ニ付野州之絹商人と及出入、於御評定所勘右衛門始三人之もの取斗ひ不宜趣ニゟ、差配役御取放被仰付候

一、明和四亥八月ゟ差配跡請負、御吟味相片付候まて先差配拾六人之ものゟ仮差配被仰付、御冥加金上納之儀者勘右衛門請負金高日割を以上納仕、差配料取立之儀、大石田船會所ニゟ勘右衛門請負之姿を以相

勤申候

一、明和五子四月ゟ安永七戌三月迄、丸拾ヶ年最上船差配請負、横山村勘兵衛・甚助入札金高ニ付右両人に差配役被仰付、御冥加金弐百弐両弐分上納、且取立方之儀ハ、差配料幷寺津・寒河江・横山三ヶ所商物運賃十分一横山船會所にて取立、拾ヶ年差配相勤申候、其砌最上船高百三拾余艘と承傳申候

一、安永七戌四月ゟ中年拾ヶ年、最上船差配請負漆山村七左衛門被仰付、御冥加金弐百三拾両宛年々上納仕候積(ママ)、取立方勤方之儀ハ先格之通にて御請負、大石田村ニ船會所相建相勤候處、天明三卯年差配人七左衛門内仲間金主と及出入、桑原伊豫守様御吟味中出入内済仕、其節ゟ七左衛門差配相離、東根村善兵衛・六兵衛、楯岡村茂右衛門重立差配仕候、右三人差配中天明三卯年大凶作ニ付、米穀他国他郡出し郡中村々差留奉願、依之諸穀物通船無之候ニ付、御冥加金免除奉願候處、卯十月ゟ辰九月迄分御冥加金免除被仰付候由及承候

一、天明五巳年右請負三人ゟ大石田常五郎・又左衛門・甚右衛門三人に差配役相渡、取替證文いたし、其趣双方ゟ御年番御役所に御届奉申上、巳年ゟ申年迄大石田村右三人差配相勤候処、卯年ニ不劣凶作續ニて御冥加金之内年々免除被仰付候

一、天明八申四月ゟ大石田本町永治郎・名木沢村織部・山形旅篭町治右衛門三人金主ニて、最上船差配楯岡村忠右衛門・太右衛門、右五人ニて當時船差配仕罷在候、御冥加金之儀者壱ヶ年ニ金弐百三拾五両宛上納仕、去ル申ゟ来ル午迄中年拾ヶ年差配被仰付候、大石田に船會所相建、差配料幷商物運賃十分一取立之儀も、先請負之通御冥加金上納之義、年々三季ニ上納仕罷在候

當差配人四月中御普請役様に書上候分

一、最上船数百拾艘四分　但、壱艘弐百五拾俵積ニして

四拾三艘八分　大石田

拾九艘四分　横山
内
弐拾壱艘四分　寺津
拾六艘　寒河江
九艘八分　清水
舟町ニ當時舟無之候

一、最上船数之儀、往古者弐百六拾余艘と申傳候、
當時ニ引競候得者過分減舟仕候御義ニ御座候
右御尋ニ付承傳候儀奉申上候処、相違無御座候　以上

舟方會所詰
差配人五人

寛政三年亥十月
尾花沢
御役所

右者四日町御名主半右衛門様ゟ借用いたし、須藤久太郎方ニ逗留中夜々燈下写之、烏焉之誤有之候ハ、（ママ）后世之人明鑑を希ふもの也

四　最上船方勘定書

(1)

寛政五年
最上船方差出明細帳　下書
丑九月
覚

一、金弐拾弐両三歩
永四拾八文六分
是者最上川通為御取締、去子八月中御直差配被仰付、御役所御普請金此度被下置候間難有頂戴仕候

一、金八拾五両者
是者御役所御普請幷ニ地代等入用ニ付、船壱艘ゟ金三歩銭四百四拾四文ツヽ差出候分

一、金五両弐歩弐朱

一、銭弐百四拾三貫五百四拾壱文
是者去子九月ゟ當八月晦日迄半運賃請取置、御役所

差上ケ御預被下度候之分、此度私共奉請取候

一、錢百弐拾九貫六百七拾六文

是者名木沢幷ニ碁点両度之破船弁米之内、船持ゟ差出候分

一、同六拾八貫五百四拾文

是ハ當丑二月五日ゟ同八月晦日迄酒田船方ゟ最上船方ニ助合之分

積荷通船ハ弐百文ツヽ、

但シ　大石田揚ケ幷ニ御用船之砌

空船ニ而登候船ハ百文ツヽ、

船頭持参仕候分

一、金拾三両

錢百弐拾四貫文

是者去九月ゟ當八月晦日迄惣船持申合、壱艘ニ付四百文も助成錢之儀、御役所ニ差上ケ御預置被下置候分、舟持一同不残請取候分

一、錢四拾壱貫五百六拾五文

是ハ去子九月中ゟ清水出張所ニ而諸品取立候分

金百弐拾六両壱歩

永四拾八文八分

錢弐百六拾八文

合

錢六百八貫七文　但、弐朱判共ニ

此拂

一、金三拾三両ハ　御陣屋地代金買請候分

一、金拾三両弐歩

錢壱貫百三拾文

是ハ御役所幷ニ御門御長屋御普請ニ付材木相調候分

一、金六両三歩

錢拾六貫弐百文

是者右同断　板かまちぬきしきへ共ニ

一、金六両弐歩

是者右同断　ぬきかや相調候分

一、錢三貫五百五拾文

是者右同断　漸付苧から相調候分

一、錢三貫五百文

是者右同断　ほげ相調候分

一、同五貫五百文

是者右同断　縄相調候分

一、同弐拾壱貫文

是者右同断　針金具等相調候分

一、同五百文

是者右同断　よし相調候分

一、同壱貫六百廿文

是者右同断　土くれ三百廿枚相調候分

一、同八百五拾文

是ハ右同断　はじき竹相調候分

一、銭百三拾六貫四百文

是ハ大工六百八拾弐人日用、(ママ)一日ニ弐百文ツヽ、賄代ともニ

一、同五貫三百廿文

是ハ壁ぬり拾九人飯料共ニ　壱人ニ付賄弐百八十文ツヽ、

一、同拾四貫九百四拾文

是ハ地行増シ出付之砌丁持相雇候、一日ニ百八十文ツヽ、賄代共ニ

一、同拾六貫八百文

是ハ屋ねふき八拾四人日用、賄共ニ弐百文ツヽ、

一、金五両ハ

是ハ御門前家立替ニ付家主へ合力

一、金弐両弐歩

是者仮御役所ニ付、安太郎方へ(ママ)射礼ニ遣ス

一、金三両ハ

是者仮御長屋去冬中ゟ當五月迄借宅ニ付、安右衛門方へ(ママ)射礼ニ遣ス

一、銭五拾五貫八百六拾八文　(貼紙)清水罷下ニあ　名木沢地内破船弁米代

一、金五両弐歩銭壱貫弐百文　荒興屋新田地内破船弁米代

一、銭七拾三貫八百八文　碁点ニあ破船弁米代

一、同七拾弐貫文　最上船方ゟ川丈三難所に番船ニ置給分
一、金三歩銭五拾貫八百文　御廻米之砌其河岸々々に船方ゟ出頭入用
一、銭三拾八貫八百文　一日ニ弐百文ツヽ、酒田湊出頭入用
一、同弐拾貫五百七拾壱文　一日ニ四百文ツヽ、清水出張所筆墨紙諸品年中入用
一、同拾八貫百五拾文　子九月ゟ丑ノ八月晦日迄清水出張所給
与次兵衛（貼紙）東左衛門　給分
一、銭拾八貫文　（貼紙）畳三拾六畳とごの代　畳表替入用
但、壱畳ニ付五百文ツヽ、
一、金壱両弐歩　近江表　弐拾四枚代
一、銭弐貫四百文　七嶋表　拾弐枚代

一、銭六百文　畳糸　三把代
一、同四貫四百文　緑布四反代
一、同三貫六拾文　さしちん、飯代共ニ十八日分
一、同七百五拾文　すりたゝみ五畳代
一、同壱貫三百八拾文　御陣屋廻り縄おだれひげ相調候分
一、同壱貫四拾文　右同断、雪囲人足八人、壱人ニ付百三拾文、飯料共ニ
一、同弐貫七百文　右同断、雪ほり雇弐拾人、壱人ニ付百三拾五文ツヽ、
一、銭六貫五百文　御役所廻り桓柴代
一、同壱貫九百五拾文　垣ゆへ雇拾五人、壱人ニ付百三十文ツヽ、水歩給金
一、金弐両壱歩

一、米六俵　　同人飯料　　合所年中燈炭拾五俵

代金壱両三歩　　代

一、銭五拾貫文　　是者去子九月ゟ當八月迄惣代安太郎給分

一、金三両也　　右同断、惣代所筆役給金也

一、米六俵　代金壱両三歩　　同断、同人飯料

一、銭拾五貫四拾五文　　所々飛脚入用

一、金四両弐歩銭壱貫ト四文　　惣代所年中筆墨紙蠟燭代共ニ

一、銭四拾弐貫文　　去子九月ゟ同十二月迄月番給分

一、同弐拾七貫文　　是ハ當正月ゟ同八月迄上郷衆月番給分、一日ニ百文ツヽ

一、同四拾八貫文　　是ハ惣船持度々寄金

一、同三貫文　　是ハ惣代方ゟ月番詰

〆

小以〆　金九拾弐両壱歩　銭八百弐拾六貫八百八拾弐文

内

金百弐拾六両壱歩

永四拾八文八分　此銭弐百七拾三貫

銭六百八貫七文　　弐朱ゟ銭直シ共ニ

〆　前書之請

差引残ゟ　　両替五貫六百文替

銭弐拾八貫弐百弐文　　不足

是ハ惣船持舟数ニ割合差出候分

書面之通去子ノ九月より當丑ノ八月迄之金銭請拂、私共一同立會相調、明細帳差上候所少も相違無御座候、依之連印奉差上候　以上

清水村舟持　治　吉　㊞

大石田村船持　義　兵　衛　㊞

同　作右衛門㊞　田井村　弥兵衛㊞

寛政五丑年九月　同　久　蔵㊞　横山村　善五郎㊞

同　甚右衛門㊞　同　甚兵衛㊞

同　惣兵衛㊞　同　藤右衛門㊞

同　佐　吉㊞　横山村船持　勘兵衛㊞

同　権兵衛㊞　観音寺村船持　権　八代喜助㊞

大石田村船持　長兵衛㊞　東根村　仁三郎代久蔵㊞

同　喜　助㊞　同所　庄右衛門代小吉㊞

同　常五郎㊞　同所　小　吉㊞

同　次郎右衛門㊞　谷地大町村　弥之助代勘兵衛㊞

同　金十郎　同所　五郎右衛門㊞

同　清兵衛㊞　同所　弥右衛門㊞

同　庄太郎㊞　東根村　長兵衛㊞

同　清　六㊞　同所　喜　助㊞

同　太　七㊞　同所　傳之助㊞

同　庄　七㊞　皿沼村　権次郎㊞

松澤村船持　伊三郎㊞　寺津村　吉左衛門㊞

長崎村　嘉兵衛㊞
楯西村船持　粂蔵代次郎吉㊞
沢畑村　弥次郎㊞
久野本村　八兵衛㊞
小関村　茂右衛門㊞
蔵増村　三之助代久蔵㊞
沢渡村　吉郎右衛門㊞
小管村　庄六㊞
羽入村　多蔵㊞
大谷村　勘右衛門㊞
尾花沢村　市五郎代権兵衛㊞
渋江村　次郎作㊞
名木沢村　嘉右衛門代嘉七㊞
毒沢村　半兵衛㊞
清水村　五郎兵衛代忠八㊞
清水村船持　義右衛門㊞
同所　五右衛門㊞

本合海村　喜平次㊞
古口村　甚蔵代東左衛門㊞
同所　寅之助代東左衛門㊞
同所　与次兵衛代東左衛門㊞
大石田村　兵右衛門㊞
同所　七郎次㊞
舟持惣代　安太郎㊞

川船方
御役所

（裏表紙に付紙）

此明細帳表、寛政十二年申正月十三日ニ、江戸表御役所ゟ當川舟方御役所写被遣候様参候ニ付、被仰付候を以此壱冊写ニゐ差上候ゐ、為後日心得如此印置もの也

(2)

寛政十年午九月ゟ當未八月迄

舟方勘定取調書

午九月ゟ當未八月迄壱ヶ年諸勘定書

一、銭弐百拾壱貫四百文也　助成取立寄セ

内五拾四貫弐百文　作右衛門取立

一、銭四拾貫五百六拾九文　半運賃取立寄セ

一、銭弐拾八貫百文　當未ノ六月ゟ同八月迄、酒田舟ゟ助合ニ分寄セ

一、銭五貫百九拾文　元舟余内ゟ

一、銭九貫六百五拾八文　清水出張所取立銭請取分

合銭弐百九拾四貫九百拾七文

此拂

弐百拾四貫七百三拾九文　年中舟方入用押切帳表拂

四拾九貫四百弐拾九文　惣舟数掛り入用

小以弐百六拾四貫百六拾八文

引銭三拾貫七百四拾九文

此分平均百三艘ニ割　但　九拾七艘　拾弐艘三人乗

壱艘ニ付弐百九拾八文五分宛　但、三文過成り

右之内

舟数弐拾六艘内三人乗壱艘當り

七貫六百拾弐文　作右衛門ニ相渡ス

差引銭

舟数八拾三艘内拾壱艘三人乗

銭弐拾三貫百三拾四文　割當り

銭百拾九貫八百文　余内ゟ

銭拾弐貫弐百拾文　大石田河岸ゟ登り余内銭

銭拾五貫三百文　酒田行甚内ゟ取替分請取入

合銭百七拾貫四百四拾四文

内拂

銭百四拾四〆六百三拾三文　年中小遣帳表拂引

残銭弐拾五〆八百拾壱文

但、舟数八拾三艘ニ割　内拾壱艘三人乗

壱艘ニ付　銭三百三拾三文　但、三人乗五分當り

外ニ三拾四文九分ツヽ　但　押切帳之内ニ作右衛門河岸出役給銭之分

舟持不承知ニ付、相除キ此所ニ而割返候分

右銭高三貫六百文

此分百三艘ニ割　内訳　弐貫七百拾弐文　安太郎掛舟當り

八百九拾文　作右衛門掛舟當り

未十月十三日

覚

船数拾艘、内四艘小船

一、弐貫九百四十四文　東左衛門分

船数四艘、内壱艘小船

一、壱〆弐百八十八文　五郎兵衛分

船数三艘、内壱艘小船

一、九百弐拾文　五右衛門分

船数弐艘

一、七百三拾六文　義右衛門分

小船壱艘

一、百八十四文　合海村喜平治分

〆六貫七拾弐文

右之通船方御勘定通、壱艘ニ付三百六十八文ツヽ、割返ニ相成候間、書面之通出張所ニおひて御受取可被成候

以上

未十月十五日　惣代　安太郎

皆川東左衛門様

伊藤五郎平様

同　五右衛門様

同　義右衛門様

加藤喜平次様

指引覚

一、九〆六百五十八文　出張所ニ有銭

右之内

六〆七拾弐文　別紙之通舟持中へ御返可被成候

残り三〆五百八十六文、追あ御届相成候

未五月十五日　戸田安太郎

皆川東左衛門様

（裏紙）

是ゟ右之勘定以上相成申候

午ノ正月ゟ両人惣代ニ付如此候

(3)

文化元年子九月

舟方勘定取調書

去亥九月ゟ當子八月迄舟方諸指引書

一、銭弐百拾五貫四百文　助成銭取立〆

一、銭五拾貫九百八拾五文　半運賃取立〆

一、銭百四貫六百文　酒田舟方ゟ助合銭

一、銭五貫百弐拾八文　元舟余内〆

一、銭拾九貫九百六拾七文　清水河岸出張所ゟ請候分

合銭三百九拾六貫八拾文

内　銭百八拾四貫三百九拾七文　押切帳表拂

銭弐拾八貫百四拾三文　惣舟数掛り入用

小以　銭弐百拾弐貫五百四拾文

引残銭百八拾三貫五百四拾文

此分舟数百拾七艘

内　拾壱艘ニ三人乗

平均百拾壱艘五分ニ割

但、壱艘ニ付銭壱貫六百四拾六文壱分

右内訳

銭五拾貫弐百六文　舟数三拾艘五分割返

右者此度舟方諸勘定ニ付、拙者立會無高下勘定いたし舟数割當り書面之通請取候　以上

右舟持惣代

文化元年子九月　作右衛門　㊞

右引銭

銭百三拾三貫三百三拾四文　平均八拾壱艘當り

外

銭百拾五貫九百六拾九文　上下余内取立〆

合銭弐百四拾九貫三百三文

内

銭百五拾貫六百四拾九文　年中會所入用

残銭九拾八貫六百五拾四文　但平均八拾壱艘ニ割

但、平均壱艘ニ付銭壱貫弐百拾八文宛　四文不足

右者去亥九月ゟ當子八月迄、船持申定書面之通取立之分、此度算用勘定ニ付私共罷出、諸帳面幷書付等不残引合諸拂いたし、残銭舟数ニ割引取勘定相済候上者、少茂申分無御座候、然ル上者勘定書付入用之儀無御座候、為後日仍而如件

大石田舟持

文化元年子九月

儀兵衛㊞
同　幸助㊞
同　喜助㊞
同　圓七
同　久蔵㊞
同　清次郎㊞
同　権兵衛㊞

同　清六㊞
同本町　太郎右衛門㊞
同　清兵衛㊞
同　佐吉㊞
同四日町　兵右衛門㊞
同　長兵衛㊞
同　宗兵衛　代儀兵衛㊞
大石田村　金四郎㊞
同　文蔵㊞
横山村　甚兵衛㊞
同　善五郎㊞
同　圓助㊞
同　五郎七㊞
同　藤右衛門㊞
同　庄助㊞
同　太六㊞
同　圓次郎㊞

毒沢村　善兵衛㊞
清水村　東左衛門
同　五郎兵衛㊞
同　五右衛門㊞
同　儀右衛門㊞
元合海村　喜平次㊞
古口村　甚蔵㊞
大町村　権七
長崎村　七蔵㊞
渋江村　次郎作代門助㊞
東根村　平四郎代文次郎㊞

(4)

文化四年
最上船方諸入用明細書上帳
卯九月
覚

一、調銭三拾五貫弐百文
是者去寅九月ゟ當卯八月迄、舟持申合之ゐ最上船壱艘之付鑑四百文宛、小船者弐百文宛助成之儀、御役所江指上御預り被下置候分、此度私共奉請取候

一、調銭四拾六貫四百八拾六文
是者去寅九月ゟ當卯八月迄、酒田船ゟ半運賃銭取立置、御役所江御預り被成下置候分、此度私共奉請取候

一、調銭拾九貫八百文
是者去寅九月ゟ當卯八月迄、於清水河岸之最上船壱艘ゟ鑑四百文宛、小船弐百文宛助成銭取立候分

一、調銭弐拾五貫百三拾八文
是者去寅九月ゟ當卯八月迄、於清水河岸之酒田船ゟ三分壱運賃取立候分

合調銭弐百弐拾六貫六百弐拾四文
此拂
銭四拾壱貫六百文、是者御城米御門下ケ之付、河岸々々并酒田湊舟方ゟ出役給入用
但　河岸場者　一日弐百文宛
酒田湊者　一日四百文宛

金壱分錢壱貫百文
是者例年之通御廻米通船安全御祈禱入用
錢三貫六百四拾五文
是者御陣屋廻候よし并塩・柴代
錢六貫七百文
是者御陣屋廻り雪堀塩結并御用ニ付飛脚雇人賃
錢七百四拾四文
是者御陣屋廻り雪国ニ付、杭木并桜・大垂縄わら等品々代
錢拾貫三百五拾弐文
是者御陣屋廻り修覆并表替等、障子替紙・井戸縄等品々入用
錢五貫九百三拾五文
是者舟會所飛脚賃
錢九貫六拾三文
是者去寅九月ゟ當卯八月迄、舟持度々寄會入用
錢弐拾弐貫弐百五拾八文
是者舟方會所年中筆墨代、茶・蠟燭・炭代
錢三拾六〆文
是者御城米御川下ケ付三難所番船雇賃、壱艘ニ付拾弐貫文宛
錢六拾七貫文八百八拾七文
是者去寅九月ゟ當八月迄、惣代給料壱ケ年分
金三両ト五百三拾八文
是者舟方會所筆取料
錢四拾九貫九百弐文
是者清水河岸出張所詰給料并筆墨紙、蠟燭・茶・炭代入用
金壱両三分錢五百文
米八俵　此代拾〆六拾四文
是者御役所附水夫給壱ケ年分
錢壱〆六百七拾壱文
是者御役所并御門前屋鋪御年貢名代諸夫錢
錢弐百文

是者當卯正月御門松代

小以　金五両分銭弐百六拾八貫百六拾九文　銭両替七〆弐百文

差引残七拾七貫五百四拾五文

此分不足惣船数割

右者去寅九月ゟ當卯八月迄、金銭請拂私共一同立會、明細帳差上申所相違無御座候、依之連印形奉差上候以上

文化四年卯九月

東根村舟持　喜　助㊞
同　〃　長兵衛㊞
同　〃　弥　作㊞
同　〃　庄右衛門㊞
同　〃　傳之助㊞
沢渡村〃　吉郎右衛門㊞
観音寺〃　権　八㊞
同　〃　善　六㊞
松沢村〃　伊三郎㊞
石川村〃　吉兵衛㊞
楯西村〃　粂　蔵㊞
稲下村〃　利兵衛㊞
櫛山村〃　長次郎㊞
大石田村〃　儀兵衛㊞
同　〃　卯右衛門㊞
同　〃　久　蔵㊞
同　〃　圓　七㊞
同　〃　喜　助㊞
同　〃　清次郎㊞
同　〃　清　吉㊞
同本町〃　五右衛門㊞
同　〃　清兵衛㊞
同　〃　太郎右衛門㊞
同四日町〃　兵右衛門㊞
同　〃　長兵衛㊞
同　〃　直　治㊞

大石田村〃　文　蔵㊞
横山村〃　仁右衛門㊞
同〃　権　八㊞
同〃　善五郎㊞
同〃　五郎七㊞
同〃　圓　助㊞
同　庄助　代六之助㊞
同　太　六㊞
同　圓治郎㊞
同　左之助㊞
毒沢村　喜兵衛㊞
同　善兵衛㊞
清水村〃　東左衛門㊞
同　五郎兵衛㊞
同　五右衛門㊞
同　儀右衛門㊞
同　惣　七㊞

本合海村　喜平治　代印　東左衛門㊞
古口村　甚　蔵㊞
横山村　六之助㊞
野黒沢村　又兵衛㊞
今宿村　三治郎㊞
大町村　忠　蔵　代文治㊞
大石田村　作右衛門㊞
同本町　安太郎㊞

川船方
御役所

五　隼瀬御普請掛快晴願書写

文政九年戌十月

隼瀬御普請掛快晴願書写

大石田村

①　乍恐以書付奉願上候

一、羽州最上川通隼瀬去々申年之洪水ニあ、石積押崩船路押埋、通船差支御普請奉願上候ニ付、御見分之上御伺被成下候所、去酉九月中江戸御役人中様御下向之上、猶御吟味之上私共へ御普請仕立方被仰付、御仕様帳御渡被成下候ニ付、御仕様帳之通、当戌八月迄皆出来ニ相成候あ、出来方帳差上可申處、一同申合之上、卯右衛門儀者大石田上下通船方差配相勤、御普請所にも罷不出候間、諸掛日記幷御下金拂方之儀聢ふ不見届、依之見届度趣、兵次兵衛外三人之者共へ申入候得共、何分ニも諸拂方為相見不申ニ付、卯右衛門儀甚疑敷存知出来形帳ニ印形差拒候間、一同御召出ニ御糺御座候所、右御普請之儀者、全御下金丈之御普請ニハ無御座、四人之者方ニあ多分之過金有之趣、卯右衛門申立候ニ付、御吟味中一同入牢被仰付恐入奉存候、然ル處郡中惣代中嶋村利右衛門立入、拂方帳卯右衛門へ為相見不申訳得と四人之者にあ承候處、見せ不申儀ニ無御座候得共、四人者方ニあ未夫々拂方等之取調も不出来候ニ付、彼是と卯右衛門方にあ帳面為相見候儀延引罷来候故、同人方ニあ疑惑相掛候儀ニあ、此度利右衛門立會之上得ふ諸拂帳披見為仕候處、御下金遣拂方聊不正之筋無之、且御普請所にも罷越得と見届候處、御仕様之通御普請丈夫ニ皆出来ニ相成候段も相違無之、全卯

右衛門心得違ゟ右躰疑敷存、過金等有之段不軽儀を申上候次第今更後悔仕、今般見届疑念相晴候上者、此上御吟味可奉請様無之奉恐入候儀と、則出来形帳調印之上、此度奉差上候間、御吟味之儀者御免被成下候様一同奉願上候、然ル上者右御普請ニ付、私共一同此上聊申分願筋等無御座候、万一彼是申候もの御座候ハヽ、私共罷出急度申披可仕候、依之一同連印之上御吟味下奉願上候

右願之通被仰付被下置候ハヽ、一同難有仕合奉存候以上

羽州最上船方仮惣代　大石田村　卯右衛門

文政九年戌九月十五日　儀兵衛

清次郎

圓七

同　四日町　兵次兵衛

尾花沢

御役所

前書願之趣相違無御座候ニ付、願之通御吟味御下被成下候様一同奉願上候、依之奥書印形差上申候　以上

大石田村

名主兼帯組頭　喜助

四日町同断　宗兵衛

郡中惣代

中嶋村名主　利右衛門

② 乍恐以書付奉願上候

今般私共儀、最上船持三拾壱人之惣代として罷出、最上川通船之儀、先年請負差配ニ御座候處、追々減舟仕、去寛政年中御直被仰付候ニ付、舟方渡世ニ罷成難有相続仕来候處、猶又御仕法乱舟方相続難義ニ付、御仕法之通被仰付度旨、其外單ニ奉願上候委細之内、隼瀬御普請御人用遣拂過金も可有之哉と相心得候間、遣拂明白ニ不相分上者、出来形帳印形不致様卯右衛門へ

粗願置、尤過金も御座候ハ、舟方ゟ助合呉可申筈之處、其儀も無之段、不容易成儀共申上候ニ付、入牢被仰付御吟味中ニ御座候處、右入用金遣拂勘定帳之儀此節取調方出来、兵次兵衛・圓七・儀兵衛・清次郎方卯右衛門へ為致一読候ニ付得と見届候所、御入用金千拾五両余之請拂明白ニ相分、聊過金等無御座、御仕様帳之通御普請丈夫ニ皆出来ニ相成候段も相違無之疑惑相晴ニ付、出来形帳へ卯右衛門印形差上候上者、私方ニおゐても疑念相晴、右御普請一条ニ付ゐ者聊申分願筋無御座候、私共幷惣船持共儀者、右御普請ニハ不携身分ニゐ彼是不軽儀奉申上候段、全此上御吟味之儀者幾重ニも御宥免被成下、格別之御慈悲を以出牢之上御吟味御下被成下置候ハ、、莫太之御慈悲と難有仕合奉存候、右願之通被仰付被成置候様奉願上候　以上

文政九年戌九月十五日　羽州最上船持
三十壱人惣代
同村山郡毒沢村
船持　善兵衛

同大石田四日町
船持　長兵衛

尾花沢御役所

前書願之通相違無御座候ニ付、願之通御吟味御下被成下候様一同奉願上候、依ゐ奥書印形差上申候　以上

大石田村名主兼帯
組頭　喜助
同四日町右同断
組頭　宗兵衛
郡中惣代
中嶋村名主　利右衛門

六　運賃定法書

一、御私領様御米運賃之儀者、御城米御運賃ゟ百俵ニ付壱俵まし

一、五厘増之儀者、最上船斗リ百俵ニ付半俵宛

① 御城米御運賃定法

一、御米百俵ニ附　車淵　蔵増　壱斗八升五合　舟町
此御運賃六俵　長崎　羽入　四升三合一勺二戈　寺津
外ニ五厘まし　谷地　大堀　九升弐合五勺　灰塚

一、同　舟町　貝塩
此御運賃五俵半　寺津　押切
外ニ五厘まし　灰塚　蟹沢

一、同　本楯　新田（仁）
此御運賃五俵　堺野目（境）
外ニ五厘まし

小川送り
一、同
此御運賃五俵
外ニ五厘まし

一、同
此御運賃米四俵半
外ニ五厘まし

一、同
此運賃四俵
外ニ五厘まし

一、同　小菅
此運賃三俵半　大石田
外ニ五厘まし　毒澤

② 商人荷物運賃幷諸積口定法書

大船壱艘　寺津
一、金七両弐歩
永廿三匁五分　本楯
外ニ小川送賃五文六歩　貝塩迄
中船壱艘
一、金五両弐歩　上郷積
永弐匁五分
外ニ小川送賃

此積口左之通

一、米弐百五拾俵　中船壱艘
但し壱表ニ付永弐匁弐分壱
一、大豆　右同断
一、小豆弐百三拾俵
但し壱表ニ付永弐匁四分〇二
一、小麦弐百弐拾俵
但し壱表ニ付永弐匁五分壱
一、煙草　四拾五駄
但し四箇壱駄、運賃永拾弐匁弐分七厘

七拾斤造定法

一、薬種　同
一、水油　同
但し弐斗入四ツ附ケ
一、抽子　同
一、元結　同
一、狗背　同
但し拾五〆目入三ツ附ケ壱駄也
一、藍玉　同
一、荒物　同
一、からはき　同
但し拾五〆目入三ツ附壱駄也

運賃永拾弐匁分七厘

一、荏草　同
但し六斗入四叺壱駄運賃
永拾弐匁弐分七厘

一、瀬戸物　同
但し
永拾弐匁弐分七厘

一、小間物櫃　同

一、鉄　同

一、醤油　同

一、砥石　同

一、鰹節　同

一、下苧　同
但し壱駄ニ付永拾三匁八分壱厘

一、銭　同
但し六拾〆文壱駄也、運賃下苧と同じ

一、青苧　三拾八駄
但し壱駄ニ付永拾四匁五分三厘九毛

一、古手　同

一、紅花　三拾五駄
但し五百匁袋拾六造定法
其餘ハ右ニ準じ（ママ）
壱駄ニ付永拾五匁七分三厘六毛

一、拾六袋入
拾七袋入　壱駄ニ付
永拾壱匁壱分四厘弐八

一、拾八袋入　壱駄ニ付
永拾弐匁五分三厘五六

一、拾九袋入　壱駄ニ付
永拾三匁弐分五厘弐

一、弐拾袋入　壱駄ニ付
永拾三匁九分弐厘八

一、蠟　同

一、胡麻　弐拾八駄

一、燈心　同
但し弐箇付

一、打綿　同
但し壱駄ニ付永拾九匁七分三厘
一、菜種
一、紙荷　四拾駄
〆　但し壱駄ニ付永拾三匁八分壱厘
中船壱艘
一、金五両弐歩　上郷ゟ酒田迄
永弐匁五分
一、金四両弐歩　尾瀞瀧
永十五匁　大真木
下長崎
（境）
堺野目ゟ
一、金四両壱歩ト
永拾五匁
同
一、金三両三歩　大石田ゟ酒田迄
永拾五匁
一、金四両三歩　清水ゟ
永十五匁

同
一、金四両ト　上郷ゟ清水迄
永三分七厘七毛

③　商人荷物大石田積運賃左之通

一、金五両壱歩　大船壱艘
永弐拾壱匁
一、同三両三歩　中船壱艘
永拾五匁
此積口
一、米弐百五拾俵
但し壱表ニ付永壱匁五分六厘
一、大豆　右同断
一、小豆　弐百三拾俵
但し壱表ニ付永壱匁六分九五六
一、小麦　弐百弐拾俵
但し壱表ニ付永壱匁七分七弐七

一、大麦　弐百七拾俵
但し壱表ニ付永壱匁四分四五
一、薬種　同
一、狗背　同
一、柚子　同
一、元結　同
一、水油　同
一、折箕　同
一、砥石　同
一、鰹節　同
一、荏草　同
一、板　同
但し四歩板　廿弐間壱駄也
六歩板　拾六間壱駄也
一、帋荷　四拾駄
但し四箇付壱駄
一、小間物　同
但し三ツ附ケ壱駄
一、下苧　同
一、青苧　三拾八駄
但し壱駄ニ付永拾匁弐分六
一、古手　同
一、合羽　同
一、繰わた　三拾五駄
但し壱駄ニ付永拾壱匁壱分四厘
一、蠟　同
一、紅花　同
但し此訳前書ニ委ク記ス
一、打わた　弐拾八駄
但し壱駄ニ付拾三匁
一、胡麻
一、真わた
但し壱〆目ニ付銭廿文
一、酒

但し四斗入弐ツ付壱駄也

一、菜種

④ 水揚定法留

繰わた・木綿・古手

近江表・七嶋・塩

一、四文　美の茶（濃）・昆布・身欠

烏賊

村上茶・伊勢茶

一、三文　塩引・干鰯・干鱈

塩鱒・鮑・鰻・鰯

一、弐文　玉砂糖・数の子

白〆油

右之外諸荷物穀物等之儀、右定法ニ應じ受拂可致候

従大石田上郷ニ為登塩目壱俵ニ付弐匁九分ニ〆致受拂候所、宝暦六子三月八日ゟ船方願ニ付、郡中商人三匁弐分ニ〆請拂仕来候所、其後酒田うんちんニ〆引合候所ニ〆三匁壱分ニ相成申候

七　紅花運賃定法

（横帳）

天保五年

紅花運賃定法　控

甲午六月

紅華（花）

荷宿

①

紅花御役永

一、永七拾八文壱分　拾六袋入四箇壱駄也

一、同　弐文三分　御口永

〆永八拾文四分

外ニ永八文三分　出判料

又新庄領ニあ者役方三厘壱駄

一、銀弐匁　紅花四箇附壱駄御役永出判料共

青苧御役永

一、永九拾六文五分　三拾六〆目壱駄也

一、同　弐文九分　御口永

〆永九拾九文四分

外ニ永八文三分　出判料

又新庄領御役永

一、銀壱匁　青苧壱箇附壱駄也御出判料共

水油御役永

一、永拾文四分　八斗入壱駄

一、同　三分壱弐　御口永

〆永拾文七分壱厘弐

外ニ永五文　出判料荷主ゟ銭四十文小⧄へ聞合如此

両かへ八〆文

〆永拾五文七分壱厘弐　役方三厘壱

②　紅花運賃手取定法

壱袋壱分五厘六毛六五六

□一、永拾匁弐厘六　十六袋入

壱丸ニ付弐匁五分〇六五

□一、同拾匁六分五六　十七袋入
壱丸ヹ付弐匁六分六四
□一、同拾壱匁弐分七厘七　十八袋入
壱丸ヹ付弐匁八分壱厘九弐
□一、同拾壱匁九分〇七毛　十九袋入
壱丸ヹ付弐匁九分七厘七
□一、同拾弐匁五分三厘七毛　廿袋入
壱丸ヹ付三匁壱分三厘四弐
□一、同拾三匁壱分五厘八　廿一袋入
壱丸ヹ付三匁弐分八厘九五
□一、同拾三匁七分八厘八　廿弐袋入
壱丸ヹ付三匁四分四厘七
□一、同拾四匁四分　廿三袋入
壱丸ヹ付三匁六分
一、同拾五匁〇三厘九　廿四袋入
壱丸ヹ付三匁七分五厘九七五
一、同拾五匁六分六厘九　廿五袋入
壱丸ヹ付三匁九分壱厘六四

③　紅花運賃定法

壱袋ヹ付壱分七厘四毛〇六弐五
〇一、永拾壱匁壱分四厘　十六入
壱丸ヹ付弐匁七分八厘五
弐丸ヹ付五匁五分七厘
三丸ヹ付八匁三分五厘五
〇一、同拾壱匁八分四厘　十七入
同　弐匁九分六厘
同　五匁九分弐厘
同　八匁八分八厘
〇一、同拾弐匁五分三厘　十八入
同　三匁壱分三厘弐五
同　六匁弐分六厘五
同　九匁三分九厘七五
〇一、同拾三匁弐分三厘　十九入
同　三匁三分〇七毛五
同　六匁六分三厘五
同　九匁九分弐厘弐五
〇一、同拾三匁九分三厘　廿入
同　三匁四分八厘弐五
同　六匁九分六五
同　拾匁四分四厘七五

○一、同拾四匁六分弐厘　同　同　同　廿一入
三匁六分五厘五
七匁三分壱厘
拾匁九分六厘五

○一、同拾五匁三分弐厘　同　同　同　廿二入
三匁八分三厘
七匁六分六厘
十壱匁四分九厘

○一、同拾六匁　同　同　同　廿三入
四匁
八匁
拾弐匁

○一、同拾六匁七分壱厘　同　同　同　廿四入
四匁壱分七厘七五
八匁三分五厘五
拾弐匁五分三厘弐五

○一、同拾七匁四分壱厘　同　同　同　廿五入
四匁三分五厘壱六
八匁七分〇三弐
十三匁〇五厘四八

④　紅花御役永

壱袋ニ付永壱文三分八厘七五
一、永七拾八文壱分　十六入壱駄
一、同弐文三分四厘　同　御口永
一、同八文三分三厘　出判料
壱駄丁銀五分ツ、
〆永八拾八文八分
一、永八拾弐文九分八厘　十七入
一、同弐文四分九厘　同　御口永
一、同八文三分三厘　出判料
〆永九拾三文八分
一、永八拾七文八分六厘　十八入
一、同弐文六分四厘　同　御口永
一、同八文三分三厘　出判料
〆永九拾八文八分
一、永九拾弐文七分四厘　十九入
一、同弐文七分八厘　同　御口永
一、同八文三分三厘　出判料
〆永百三文八分

一、永九拾七文六分弐厘　廿入
一、同弐文九分　同　御口永
一、同八文三分三厘　出判料
〆永百八文九分
一、永百弐文五分　廿一入
一、同三文壱分　同　御口永
一、同八文三分三厘　出判料
〆永百拾三文九分
一、永百七文四分　廿弐入
一、同三文弐分　御口永
一、同八文三分三厘　出判料
〆永百十八文九分
一、永百十弐文三分　廿三入
一、同三文四分　御口永
一、同八文三分三厘　出判料
〆永百廿四文
一、永百十七文壱分　廿四入
一、同三文五分　御口永
一、同八文三分三厘　出判料
〆永百廿八文九分

⑤　青苧運賃定法

一、永拾匁弐分六厘　百廿四把入　弐丸
此手取
煙草艸運賃定法
一、永弐匁弐分三厘〇八　壱箇ニ付
此手取
一、同八分六厘　同　御役永　御口永共ニ
一、同五分三厘三　同　蔵しき
〆
紅花御役永
一、永七拾八文壱分　十六袋入　壱駄也

外ニ　　御口永
高に三分掛

青苧御役永

一、永九拾六文五分　　三拾六貫目
壱駄也
外ニ　　御口永

⑥　俵目直し左ニ

一、小豆壱俵　　米俵ニ直し
□壱俵〇八厘六

一、小麦同　　同
□壱俵壱分三厘六

一、大麦・蕎麦
□九分弐厘六

一、紅花・蠟・結綿（繰）　　但し三拾五駄積
壱駄ニ付
□七俵壱分四厘三毛

一、青苧・古手　　但し三拾八駄也

壱駄ニ付
□六俵五分八厘

一、煙艸（草）　俵目ニ直し　　但、四拾五駄也
壱俵四分三厘
壱駄ニ付
□五俵七分弐厘

一、菜種壱叺　　米俵ニ直し
□壱俵弐分五厘

一、又はき　　壱駄
□五俵五分五厘

一、こんにやく粉　　壱駄三ツ附
□五俵五分五厘

一、刻たばこ　　壱駄四ツ附
□五俵七分弐厘

八　船町河岸関係一件史料

(1)

（袋表紙）

元禄十丁丑年十二月十四日
出羽国村山郡山ノ辺村より船町村川船諍論
御裁許御下書扣
堀田備中守領分
出羽國村山郡
船町村

出羽国村山郡山ノ辺村より同郡船町村諍論之事

山ノ辺村之者申趣、最上川下酒田・大石田両村より積為登候荷物、前々須川通り山ノ辺村地内に積送候所、廿七年已来致中絶荷船登セ不申候、然ニ三年已前、山ノ辺村吉兵衛荷船大石田村より為登候処、船町村之者先規より川上に荷船為登候義無之由申、掠船押置候由

訴之、船町村之者答候者、前々最上川下酒田・大石田両村より為登候商荷物、酒田船者大石田ニあ積替、大石田船者船町村ニあ荷物揚置、船町村之馬ニあ駄賃取之附送候、然ニ山ノ辺村吉兵衛理不尽ニ荷船為登候故、押置候由申之、右所論不分明ニ付、為検使窪田長五郎手代鈴木丈右衛門・室七良左衛門・新庄太右衛門差遣之、検分之上山ノ邊・船町両村之者申趣久敷義ニあ證據雖不分明、山野邊村ゟ公儀御城米積下来候、惣あ運漕等之義可為自由處、川上に荷船為登間敷謂無之条、向後無滞可通之、為後證如此書記、双方に下置之条不可違犯者也

元禄十年丁丑十二月十四日

荻　近江
井　對馬
稲　下野
松　美濃
松　伊豆
川　摂津

戸　能登
永　伊賀
松　志摩
井　大和

(2)

寛政七卯年

羽州村山郡中野村ゟ同郡船町村相手取船津駅場出入一件

御奉行所様ニ奉差上候済口證文訴答為取替本紙

羽州村山郡
船町村

差上申済口證文之事

池田仙九郎御代官所羽州村山郡中野村ゟ、瀧川小右衛門御代官所同州同郡船町村相手取駅場出入申立、根岸肥前守様・曲渕甲斐守様、當二月十八日御内寄合ニ可罷出旨之御判物奉頂戴相付候ニ付、則御日限通双方罷出當御奉行所様御吟味奉請候処、厚キ御利解(理)度々被為仰聞難有奉承知、内済仕候趣意奉申上候、訴訟方奉申上候者、日本行程記ニ中野村有之幷村差出明細帳ニも問屋壱軒と書上置、其外両御巡見様御通行之節は、御朱印御傳馬等往古ゟ相勤来候ニ付、歴然之證據と申立候、且相手方奉申上候は、往古ゟ駅場船津ニ付右御高札頂戴仕、其外御傳馬相勤候ニ付、御私領之砌は馬代金等御手當有之、諸役免除ニ而御代々御役人中御印形ニ而免除之御書付被下置、其後御料所ニ被仰付候而は夫米御免除被成下、則御年貢御割付ニ御書載被下置候旨申立候、右之通双方申立候処、御吟味之上訴訟方ニ被為仰聞候は、證據書物も無之申立而已御取用ニ不相成、願筋不相立旨、逸々被為仰聞、然ル上は駅場と申立諸荷物附出候儀甚心得違之旨、御利解被為仰聞奉恐入候、且相手方ニ被為仰聞候は、御高札幷證據書物有之上は、駅場ニ相違無之旨被為仰聞候、依之追々御吟味可被仰付処、扱人立入双方ニ申聞候は、隣村ニ而及

出入此上御裁許ニ而相片付候而ハ意恨(遺)も相残、出入之基ニも可相成旨、訴訟方ニ異見申聞、猶又相手方ニ而も勘弁内済仕候様、色々相進候ニ付、勘弁仕内済議定之趣左ニ奉申上候

一、中野村百姓手作之産物銘々賣拂ニ持出候分は何方ニ附出候共、假船町駅附通候共構無之、尤百姓手作之産物ニ而も一旦賣拂商物ニ相成、中野村ニ差置候分猶又他所ニ差出候節は、中野村ゟ決而附出不申筈

一、中野村之もの全自分之商物ニ相違無之、賣拂ニ附出候分ハ、縦(ママ)山形ニ附送候共不相構、尤船町駅附越候儀は決而不相成筈、若旅人荷物幷他村商物村方自分商物ニ申紛シ附出候ハヽ、前書可附出筈之品共ニ必至と差留られ候而も聊申分無之筈

前書之通、双方得心之上急度議定仕、出入内済仕候處實正ニ御座候、然ル上者双方意趣遺恨差挾候儀毛頭無御座、勿論両村小前之もの迄以来別而睦敷仕、此後右一件ニ付御願ケ間敷儀奉申上間敷候、誠ニ御威光を以和融内済仕難有仕合ニ奉存候、依之双方幷扱人連印済口證文奉差上候処、仍而如件

寛政七乙卯年五月

池田仙九郎御代官所
羽州村山郡中野村
四組代兼
名主　伊兵衛

訴訟方　同断
百姓惣代
丈　助

瀧川小右衛門御代官所
同州同郡船町村
名主
三右衛門

相手方　組頭
久兵衛
百姓代
松之助

江戸馬喰町三丁目
訴訟方宿扱人
亀屋
善蔵

江戸両国薬研堀
相手方宿扱人
上州屋
佐兵衛

御奉行所様

右は曲渕甲斐守様御掛、御留役雨宮雲九郎様御吟味御座候処、熟談内済仕、前書之通済口議定證文奉差上候処、根岸肥前守様於御奉行所ニ、御内寄合御立會之上御聞済被成下候趣、被為仰渡難有奉存、則双方ニ取替シ申候、然ル上は向後小前一同心得違無之様可致候、為後日連印仍ゐ如件

池田仙九郎御代官所
寛政七乙卯年五月六日　羽州村山郡中野村
四組代兼
名主　伊兵衛　㊞
同断
百姓惣代
丈　助　㊞
瀧川小右衛門御代官所
同州同郡船町村
名主
三右衛門　㊞
組頭
久兵衛　㊞
百姓代
松之助　㊞

江戸馬喰町三丁目
訴訟方宿扱人
亀屋
善　蔵　㊞
江戸両国薬研堀
相手方宿扱人
上州屋
佐兵衛　㊞

(3)　乍恐多以書付奉願上候

當二月中上ノ山御城下前川迄、須川筋通船被仰出候ゐ茂差支無之哉、有無共委細以書付申上候様被仰渡候処、去秋中ゟ専風聞御座候儀ニゐ、通船御取立ニも相成候ゐは大難渋必至と迷惑至極、一村退轉ニも可及程之故障ニ御座候間、差支之次第有躰書上御歎可申上之処、無調法不案内之もの共ニゐ心配仕罷存候得共、書取不行届延引仕候処、深御賢察被成下、割元中村五兵衛方ニ村々之内長之者被召出、當村始川添村々一同通船故障之始末、品々御穿鑿之上書上被仰付、別ゐ當村之儀は往古ゟ最上三河岸ニゐ御高札御渡被下置、河岸役御用相勤来候と申立方強く被仰達被下置、右御礼後

は通船之取沙汰も相止ミ、誠御慈悲一同挙あ難有仕合奉存候、猶又此度奉願上候儀者、去秋中御内々下々之取合は遠慮可仕之旨厚御内含も被為在候處、下悪之者共不相弁今更先非後悔重々奉恐入候間、何卒御詫奉願上度拙院方に村役人長之者共願出候間、追々相糺候処、其筋は世間取沙汰於江戸表御通船御取究候様承知仕、大勢之者共妻子をも育兼之大変と歎立狼狽罷在候間、村役人長之者共心配屈度(託)之余り、聢と取糺も不行届御掟等も乍相弁、終押あ歎書願書共奉差上候趣申達、拙院儀も始末初あ承知仕、屈度之砌とは乍申過當之種々書上仕、倶々奉恐入候、右書上之逸々被召出御糺明被仰付候ハヽ、過當之御察當者勿論御法に難渋故障申立、如何様御咎可被仰付哉も難斗、不束至極之趣理非具に申談候処、弥奉恐怖一同周章奉驚入後悔至極躰にあ、混(ママ)御詫被成度再三相縋り罷在候、依之恐多奉存候得共、格別之御慈悲之以御宥恕御赦免被成下、去秋差上候歎書願書共御下ヶ被下置候様仕度、此段偏に奉願上候、以後之儀は村役長之者共得と熟談仕、從来廣大之御高恩且又辰年以来凶作之処莫太之御仁慮被下置、一村相助り此度通船一条も深御賢慮ヲ以速に故障被仰止被下置、重々難有御憐珉之御慈悲申論し、何事によらず不取留風聞を以疑惑申立候共、聢と内糺仕心得違之儀者早速申諭し、御掟大切に相守り申候間、去秋之無調法は何分御用捨被成下度候様、拙院執成之程(カ)混(ママ)相歎罷在候間、前書之趣以御勘弁御赦免被成下、願之通被仰付被下置候ハヽ、村中一同拙院迄重々難有仕合奉存候　以上

天保六未七月　　船町村　善行院

柏倉
御役所

(4)

船町寺津河岸出入済口證文之写

差上申済口證文之事

堀田備中守領分羽州村山郡船町村役人惣代名主間屋兼

帯孫市より、織田伊勢守領分同州同郡寺津村百姓吉左衛門外六人に相掛り、不法出入申立、當三月中稲葉丹後守様寺社御奉行御勤役中奉出訴、同五月廿五日御差日御尊判頂戴相附候處、御差日以前安部伊勢守様(阿)へ御引渡ニ相成、相手方ゟ夫々返答書差上御吟味中ニ、同年同所掛合之上熟談内済仕候趣意、左ニ奉申上候

一、右出入双方得と及掛合候所、訴訟方ニあ申上候者、船町村之儀ハ往古より脇往還幷ニ酒田湊へ通船之船津ニあ、駅場・船津両様共御高札頂戴仕、諸荷物請拂助成ヲ以相續罷在候所、相手寺津村ハ往還筋ニも無之、全農村ニあ荷物駄送り相企、相手之内金兵衛・吉左衛門・長次郎等種々手段仕、諸荷物猥ニ横道致し駄送、船町村差障相成候ニ付一旦差留候所、又候漆山村善左衛門儀及荷担、惣代名主之権威ヲ以、郡中大庄屋共同人方に寺津村荷揚之儀、郡中弁理之由申紛、連印等為致専ら不當之儀取巧、酒田湊太吉・長次郎・長三郎義も追々寺津村へ積荷差向、旁以船町村駅場・河岸場差障ニ相成、難渋之旨其外品々訴上、且相手之内金兵衛外弐人方ニあ者、古来ゟ寺津村河岸場之儀者最上川縁付ニあ、最寄村々ゟ年々御年貢御廻米ハ勿論、商人共諸荷物等酒田湊へ取引候分河岸出し、又ハ荷揚仕来候儀ニあ全ク新規ニ無之、既ニ寺津村河岸場に致駄送候御廻米、船中御積込ミ相成出帆致し、御運賃之儀ハ御米百俵ニ付五分七厘五毛、従御上様御下ケニ相成被下置候儀ニあ、寺津村勝手を以建(立)置候河岸場ニあ者無御座、前々ゟ右河(川)筋道上下共船中荷物請取扱来候段無相違、右者先年ゟ是迄引續、酒田湊幷ニ訴訟方船町村川(河)岸其外所々之河岸ゟ、寺津村河岸へ船積荷物引請候送状も数多所持罷在候段歴然之證(拠)故ハ勿論、然ルニ孫市義私欲ニ泥ミ外河岸々々を引潰し、船町村河岸一手ニ商人共諸荷物引受、不正之稼方可致存念ゟ、種々悪意ヲ以取巧候義ニ有之、難儀仕候間、以来寺津村河岸場に不差障荷物船賃新規懸り増等決あ不仕、酒田湊出帳(ママ)所取拂、寺津村河岸場へ不

差障様被仰付度、其外品々申立、且又善左衛門方ニ而者、當国村山郡一圓御領・御私領惣代名主大庄屋共、都而村々取締向等之儀ニ付、打寄相談致し候儀者、先年より取斗来り候儀ニ而、去丑二月郡中村々取締方ニ付、善左衛門宅ハ最寄宜敷候間、同人方ニ而集評致候儀有之、且訴訟方孫市差略を以、近年酒田湊に三間屋ト唱ひ出帳(ママ)一ケ所建置、商人共諸荷物等上下共ニ船方運賃金壱両ニ付永五拾七文三分、并ニ荷物壱箇ニ付鑢七文ツヽ新規取之、右之分ハ問屋賣附目録に為組込候ニ付、見積り候得者、七百両余ニも可相成、右之分不残孫市義私欲ニ取込候義故、商人共ハ荷物諸掛り入用之儀一式共兼而賣捌候直段に組込候間、損分者無之諸色賣買共直段引上候段者眼然ニて、村山郡一郡惣百姓共夫喰塩其外等之直段ニ拘り候上者、不容易儀を右孫市儀、去丑年兼而馴合罷在候商人共に申合、最上川通船諸荷物之儀難破船等出来候節者、孫市引受荷主共方へ聊損毛相掛ケ間敷段、外荷主共を申欺、郡中商人共之内、右書付に致連印孫市方へ差入候者共も有之候得共、今更後悔仕候趣キ相聞、極難困窮之者共可立行様も無之次第ニ而、右孫市儀右川筋通有来候河岸場問屋共を引潰し、同人儀酒田湊諸荷物運送之儀一手引受取斗ひ候上、前々取極メも有之候運賃之外多分之金子取之、勝手ニ可致存念ニ無相違、寺津村之儀者古来ゟ之河岸ニ而着船之節者、荷揚船積致候諸荷物ハ出帆仕来候儀を、新規之由四五ケ年以前ゟ差留候由之所、私儀右村方へ馴合致し荷揚、船町村差障相成候始末之旨、右孫市ゟ訴上候得共、右様ニ者無之、全ク偽ニ而既ニ右寺津村河岸場荷物上下運賃之儀者同村限り候義ニ而者無御座、古来ゟ右最上川通り并枝川共数多有来候村々河岸場迄、右川筋通左右村々ゟ最寄ニ隨ひ河岸場迄御米致駄送、船中に御積入ニ相成候間、河岸場御立被為置候ニ付、寺津河岸御運賃之儀ハ、御米百俵ニ付五分七厘五毛従御上様御下ケニ相成被下置候河岸場ニ而、外河岸々々迄も夫々御定メ有之候御義ニ而、商人

共酒田湊下し荷物積入、為登荷物荷揚等之儀者、荷主共賣捌方弁理ヲ見込、河岸々々ニ荷宿相頼候間、荷物送り状之以前次第引請候儀者勿論、受拂等古来取扱来り候儀者、兼ゐ孫市儀得と弁ひ乍罷在、自分私欲ニ迷ひ、右寺津村を小村ト見侮り、荷揚差留商人共迷惑難渋を茂無顧、私儀寺津村ニ致荷擔候由、孫市ゟ事実相違之儀共品能偽り取拵申立候儀ニゐ、既ニ商人共場廣手廣ニ賣買相成候得者弁理潤益ニ相成候者眼前之儀、然ルニ當郡第一之塩・綿荷物等寺津村河岸場ニ差障り、船町村河岸問屋一方ニ引付蔵入ニ相成候ハヽ、孫市儀腹心之商人共ニ馴合、ゑ賣ゑ買為致候巧ゟ、同人蔵元ニ相成、大勢諸商人共打寄帳合商ひ相企、蔵詰ニ致置候由之諸荷物ゟ、二重三重之蔵鋪を孫市方ニ取之候趣ニも相聞、前条之通同人義私欲勝手之存念ゟ悪意増長仕候上ハ、難捨置次第ニ罷成、右者私一己之心得ニゐ御答申上兼候廉も有之候間、郡中惣代名主大庄屋共ヲも追々被召出、御尋被下置候ヘハ、孫市儀悪意致増長、勝手之取斗ひニ及候段明白ニ相分り申候間、以来孫市義古来ゟ有来候村々河岸場へ不差障、并ニ酒田湊ニ立置候問屋出張所ヲ相止、前々荷主ゟ請取来候運賃之外、新規孫市方へ取込候分ハ、郡中之村々ニ訳合相立、私欲勝手之存念より謀斗を以郡中村々大勢之者共ニ難渋不相掛様被仰付度其外品々答上ケ、酒田湊太吉外弐人義ハ船積問屋渡世ニゐ、近年寺津村ニゐ諸荷物請拂駄送致候ニ付、荷主共差図之分ハ同村へ差向候所、右ハ去ル天保八酉年中、大石田川船方御役所ゟ領主役場へ御掛合有之、以来寺津村ニ為登荷物積送り間敷段、領主役場ゟ申渡有之候處、下代共心得違ニゐ寺津村ニ荷物積送候段全ク不行届奉恐入候ニ付、以来者御定法相守、聊猥ケ間敷候儀取扱申間敷旨答上、双方申争ひ御吟味中ニ御座候所、今般被仰出候諸色直段下直ニ可仕旨、厚御趣意并ニ御利解之趣相弁、最上川筋下り荷物之儀者、只今迄之通り何れの河岸成共都合宜敷場所ニゐ致船積、酒田湊ゟ登り荷物之儀ハ、寺津村

者船町村ゟ川下之儀ニ付、寺津村最寄へ山形町商人之賣捌之分斗り寺津村ニ而致水揚候共、船町村ニ而差障申間敷、山形町商人共酒田湊ニ而仕入荷物之儀者船町村へ致荷揚、同所ゟ山形ニ継送り、寺津村ニ而山形行之荷物荷揚致し候儀決而不致、同湊ゟ山寺村最寄へ差送り候賣荷物、寺津村ハ程近ぐ、船町村ハ隔居候ニ付寺津村ゟ差送り、且酒田湊船積荷宿共儀ハ、以来山形行之荷物者寺津村ニ者不差向、船町村へ差送り、寺津村最寄幷山寺村行之分ハ、荷主之差図次第取斗ひ、其（ママ）餘去ル申年以来船町村之者共荷主任頼、登り荷物ゟ五七三銀又者鑑七文ツ、取立、酒田湊ニ出張所補理候儀者新規之儀ニ付、右取立銀銭者相止、出張所取拂候積、尤右者賃銭ゟ多少幷ニ道之遠近を量り、是迄之仕来りニ不拘、今般被仰出之御趣意基キ取極候儀ニ付、以後船町村・寺津村両村共互ニ正路ニ致し、若賃銭之高下有之候ハヽ、遠近之差別ニ不拘何れニ而も下直之方ゟ差送り候共、決而故障致間敷、且船町村之儀前々ゟ之仕来ニ而、船頭共ゟ賃銭之内拾分一受取来り、其段兼而川筋御支配御役所へ申立置候所、以来ハ難破船等之節、村方之もの船頭ニ助合致遣シ候砌ハ格別差定、万一受取候儀者帰村之上相止候様御利解ニ付、右御役所へ申立相止メ、勿論問屋名目相唱ひ申間敷旨、其餘船町村之もの共義者、兼而御渡シ被置候御高札通相心得、双方無申分熟談内済仕、偏に御威光ゟ難有仕合奉存候、然ル上者、右一件ニ付重而双方ゟ御願筋毛頭無御座候、依之為後證連印済口證文差上申處如件

天保十三寅年
九月廿一日

堀田備中守領分
羽州村山郡船町村役人惣代
訴訟人　名主　孫　市
織田伊勢守領分
同州同郡寺津村
百姓　吉左衛門
同　金兵衛

右両人煩ニ付代
相手　百姓　小右衛門
同　同　長四郎

上杉弾正大弼御預所
同州同郡漆山村
同　名主　善左衛門
酒井左衛門尉領分
同州飽海郡酒田湊
船積荷宿　太　吉
同　長次郎
同　長三郎
右三人煩ニ付代
船積荷宿年番
同　七郎右衛門

御評定所

前書之通寺社御奉行阿部伊勢弁様御掛りニ而済口證文差上候間、為後鑑為取替置申処如件

寅九月　右　孫　市　㊞
小右衛門　㊞
長　次　郎　㊞
善左衛門　㊞
七郎右衛門　㊞

(5)　船町・寺津河岸一件済口書

一、山形町商人共酒田湊ニ而仕入荷物之儀者、船町村ニ荷揚いたし同所ゟ山形ニ継送

一、寺津村ニ而山形行之荷物荷揚いたし候儀者、決而不致

一、酒田湊船積荷宿共儀も、以来山形行之荷物者寺津村ニ不差向、船町村ニ差送

一、寺津村最寄ニ山形町商人共賣捌之分斗、寺津村ニ而水揚いたし候共、船町村ニ而差障申間鋪

一、山寺村最寄ニ差送り候賣荷物、寺津村者程近、船町村は隔居候ニ付、寺津村ゟ差送り

一、寺津最寄幷山寺村行之分者、荷主之差図次第取斗

一、船町村之者共儀者、兼而御渡被置候御高札通相心得

右者賃銭之多少幷道之遠近ヲ量、是迄之仕来ニ不拘、今般被仰出之御趣意ニ基取極候儀ニ付、以来船町・寺津両村共互ニ正路ニいたし、若賃銭高下有之候ハヽ、

遠近之差別ニ不拘、何れニ而も下直之方ヲ差送り候共、決而致故障間鋪

天保十三寅年九月廿一日

前書之通済口證文船町・寺津・漆山・酒田連印を以、御評定所ニ奉差上候趣意書、如斯ニ御座候　以上

(6)

（端裏書）

羽州村山郡天童町　儀兵衛
同國同郡楯岡村　茂右衛門
同國同郡六田村　弥平次
同國同郡宮崎村　善兵衛
同國同郡元（本）飯田村　与右衛門
同國同郡土生田村　甚九郎

右村々

五人組
年寄

名主

乍恐以書付御訴訟奉申上候

堀田備中守領分
羽州村山郡船町村
役人
問屋　惣代
組頭
訴訟人　兵次郎

難渋出入

織田兵部少輔様御領分
同州同郡天童町
問屋
相手　儀兵衛

秋元但馬守様御領分
同州同郡楯岡村
問屋
名主兼
同　茂右衛門

戸田嘉十郎様御代官所
同州同郡六田村

問屋
同　弥平治
同御代官所
同州同郡元飯田村（本）
問屋名主兼　同　与右衛門
同御代官所
同州同郡土生田村
問屋　同　甚九郎

右訴訟人組頭兵次郎奉申上候、当村之儀は最上川縁ニあ、山形・長崎其外所々往還筋船津駅場両条御高札頂戴罷在、往還御用御公儀様御廻米并諸家様御収納米川下ケ仕、其外商人諸荷物酒田湊迄上下最上川筋通船、都あ大石田川船方御役所御定法之御書付頂戴、諸荷物請拂之潤益ヲ以一村相續罷在候処、右川筋之内隼瀬は御普請所ニ候得共、急流第一之難場にて御城米船始難破船多ニ付、國産之紅花・絹糸類高價之品は、右危難ヲ怖れ丸致壱艘積兼、荷主共一同甚不便利ニ付、天保十一子年中右難場御國恩為冥加、船町河岸ニあ自普請仕度段、大石田川船方役所に奉願上候処、御伺済之上願之通被仰付候ニ付、丹誠ヲ盡し堀割・瀬浚・石倉築立不残当河岸ニあ自普請仕、其後川瀬も相居り（ママ）上下通船難破船等無之、一同安堵仕候ニ付、山形商人共仕入紅花・絹糸類上方筋に為差登候分、船町河岸ゟ酒田湊に差下候様相成、紅花荷物も丸積無差支、年々川船方御役所御定法之御書付ヲ以致川下来候處、去々未年五月中、紅花荷物川下之儀川船方御役所に願出候処、紅花丸積は勿論、其筋ニあ品替ニあも船積川下之儀は故障筋有之間、差控候様御沙汰ニ付驚入、荷主共ゟは夫々荷品致河岸出置候儀ニ付一同（はた）礒と差支、依之荷主共并船町河岸ゟも紅花荷物川下ケ之儀、川船方御役所に御歎願申上候處、右は全陸地天童・六田・宮崎・楯岡・元飯田・土生田、右村々之もの共、船町河岸ゟ紅花川下之儀迷惑之旨申立候間、大石田迄陸地差送、同

所ゟ可致川下ケ旨被仰聞候得共、右様相成候ゐは船津駅場御高札頂戴罷在候詮も無之、殊ニ去ル天保十三寅年中河岸場之儀、是迄之仕来ニ不拘、何れニゐも弁利（ママ）宜場所ニゐ船積水揚いたし、運賃諸掛等相減候様御趣意之御觸も有之、紅花荷物之儀も船町河岸ゟ差下候と、天童ゟ大石田迄陸地差送候とは、運賃諸掛多分之損益有之、荷主共迷惑は眼前之儀、併時之弁（ママ）・不弁ニ随ひ模様次第陸地差送候儀も有之、孰ニも荷主共勝手次第ニ相成候ハヽ、自諸品共弁利ニ可相成處、天童外五ケ村之もの共無謂差障候段、何共難心得奉存候間、去申年五月中、前書之始末松平河内守様ニ奉願上候処、大石田御支配御代官石井勝之進様御役替ニ付、跡御代官様ニ可願出旨御理解ニ付願書御願下仕、尚当四月中領主役場添翰ヲ以、戸田嘉十郎様尾花沢御役所ニ奉願上候處、相手之もの共被召出、双方熟談内済可仕旨御理解被仰聞候得共、相手のもの共儀、紅花荷物船町村ゟ川下ケ相成候ゐは、村々諸御継立之助成無之

旨、頻々我意申張候ニ付、内済不行届願書御下ケニ相成候得共、駅場河岸場共御用筋相勤候は相互之儀ニゐ、既ニ今般も山形御城御詰米大石田河岸ゟ船積、船町河岸ニゐ致水揚、山形迄駄送仕、多分之御用筋相勤候儀ニ御座候、依之紅花ニ不限都ゐ商人諸荷物孰ニも一方ニ片寄候ゐは、荷主共甚不弁利ニゐ、自諸品直段ニ相響、國中衰微之基と奉存候、一体国産十三品は御役永上納仕、川船方御役所ゟ御定法之運賃御定書も有之、然ヲ紅花荷物ニ限相手之もの共故障申立候は何共難心得奉存候、此儘捨置候ゐは荷主共不弁利ニ相成、往々は船町村船津助成ヲ失ひ、一村相續方ニ拘誠難渋至極仕候間、無是非今般御訴訟奉申上候、何卒以御慈悲相手之もの共被召出、前書之始末御吟味被成下置、船町河岸ゟ紅花諸品与積合差下候儀は勿論、荷主共任望紅花丸積ニ差下候共、相手之もの共聊故障不申立、荷主共弁利ニ相成、船町村一村無難ニ永續相成候様被仰付被下置度奉願上候　以上

堀田備中守領分
羽州村山郡船町村
役人惣代
問屋
組頭
訴訟人　兵次郎

嘉永二酉年九月

寺社（行）
御奉役所様

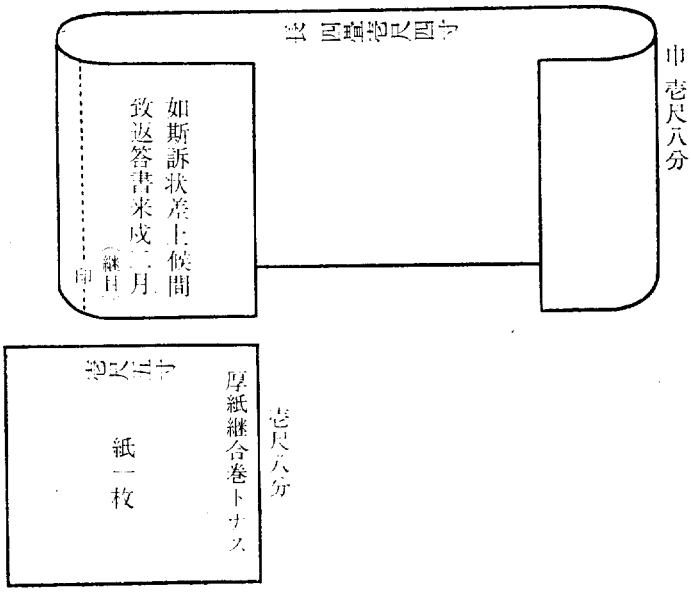
（奥裏面）

如斯訴状差上候間、
致返答書来戌二月
十三日評定所ニ罷出
可対決、若於不参者
可為曲事者也

酉
十一月十五日　紀伊
中務
淡路
妥女
播磨
佐渡

御用方無加印
河内
御用方無加印
土佐

対馬
左衛門



(7)　乍恐以返答奉申上候

羽州村山郡天童町問屋義兵衛外五人惣代、戸田嘉十郎御代官所同州同郡土生田村甚九郎奉申上候、今般堀田備中守様御領分、同郡舟町村役人問屋惣代組頭兵次郎ゟ難渋出入申立、去ル酉九月中松平紀伊守様ニ奉出訴、当月十三日御差日御尊判頂戴被仰付、恐入拝見左ニ返答書を以奉申上候

一、右訴訟人兵次郎申立候ハ、舟町村ハ最上川縁ニあ山形・長崎其外所々往還筋船津駅場両条御高札頂戴罷在、都あ大石田船方御役所御定法之御書付頂戴、諸荷物請拂之潤益を以一村相續罷在候処、右川筋之内隼瀬之急流之難場ニあ難破船多ニ付、国産之紅花・絹糸類高價之品ハ、右危難ヲ怖れ丸積いたし兼、荷主共不便利ニ付、天保十一子年中右難破御国恩為冥加、大石田川船方御役所ニ願上、堀割・瀬浚・石倉築立不残舟町村ニあ自普請仕、其後川瀬も相直り、上下通船難破船等無之、山形商人共仕入紅花・絹糸類上方筋へ為差登候分、船町河岸ゟ酒田湊ニ年々差下候様相成候処、去々未年五月中、紅花荷物川下之義川船方御役所ニ願出候処、紅花川下ハ差扣ル様御沙汰ニ付驚入、荷主ゟ夫々荷品川岸出しいたし置候義ニ付、一同礒と差支候ハ、全相手之もの共船町川岸ゟ紅花川下之儀、迷惑之儀申立候間、大石田迄陸地駄送、同所ゟ川下可致旨被仰聞相成候あは、御高札頂戴罷在候詮も無之、去ル天保十三寅年中御趣意之御觸も有之、時之弁・不弁ニ随ひ荷主之勝手次第ニ相成候ハヽ、諸品共弁利可相成処、相手一同無謂差障候ニ付、去ル申之五月中松平河内守様ニ奉出訴候処、其砌御代官様御場所替ニ付、国許御役所ニ願出べく旨被仰渡候間、帰村之上戸田嘉十郎様御役所ニ願出し候得共、相手之もの共我意申張候ニ付、内済不行届、駅場川岸共御用勤方ハ相互ニあ、既ニ山形御城詰米も船町村ニあ水揚いたし、一躰国産十三品之内紅花荷物ニ限り故障いたし候は難心

得、其外品々訴申上候

此段訴訟人兵次郎申立候ハ以之外相違仕候義ニあ、私共駅場之義者奥羽下筋之往還ニあ、御朱印御証文御用之御方様并佐竹右京太夫様・酒井右衛門尉様・津軽大隅守様を始、都合拾頭様之御大名様方御通行、右御家中様并南部・松前其外諸家来中様、諸寺院様方御継立場ニ御座候(ママ)処、近来諸家様御通行多ニあ必至之困窮仕詰候得共駄場(ママ)地子

御免許或者助成御手當一切無之、全国産之商人荷物駄送之潤益を以勤續罷在、同郡山形町ハ大場ニあ商人数多有之、右紅花荷物例年村山一郡ゟ凡千駄余も駄送之内八分通ハ山形ゟ出荷物ニあ、古来ゟ天童外五ケ宿を継立大石田川岸迄駄送仕来、同所ゟ船積同国酒田湊へ運送ニ相成候旧例ニあ、既ニ去ル享和二戌年猶又文化二丑年、同郡荒町村商人共紅花荷物最上川西廻り致、大石田川岸に持送候ニ付差押及出入、御勘定御奉行松平兵庫頭様御掛ニあ御吟味之上、国産荷物脇通り持送候段不埒ニ付、以来宿々駄送可致旨被仰渡、則右之通ニあ済口證文差上候処、翌寅年山形町伊兵衛・彦兵衛と申もの、同郡天神湯之澤村政右衛門・茂右衛門ゟ紅花買集、横山村太郎兵衛方に附出し大石田村荷宿に差送候処、荷宿共荷受不致仕来之通順々宿々ゟ継送可申旨ニあ被差戻候ニ付、右太郎兵衛義横山河岸ゟ船積川下いたし度、大石田川船方御役所に乞船願出候得共、紅花荷物乞船之例無之ニ付御差向ニ不相成候間、仕来通宿々継送り候義も有之、夫々先前ゟ旧例取極も御座候処、天保十五辰年中右船町村荷宿・名主孫市義、山形町商人共運賃安ニいたし候趣を以申進メ、大石田村久太郎と申もの馴合、大貫次右衛門様御支配中川船方御役所に乞船願出候得共、右者新規之義ニ付地元大石田村并私共六ケ宿に故障有無御糺有之ニ付驚入、大石田村荷宿共ハ右様相成候ゐ者川岸之助成失、私共宿々ゟハ御傳馬勤續之差障ニ相成り、不容易難渋之趣申上候処、尤之筋ニ御聞受被成下紅花乞船ハ御差止、先前之通陸送り仕候様相成一同安心罷在候処、兎角孫市義

ハ勝手筋相巧候気質ニ付、其後石井勝之進様ニ御支配替ニ相成御引移り無間も、川船方御役所御用御混雑中を態々見透、大石田村久太郎と申合、六ケ宿之難渋を不顧自己勝手之私欲ニ募何様取拵再願致候ハ、同御役所ゟ以来船町村ゟ紅花乞船差向候間、其段問屋可被申達候処、天童・楯岡両村領主役場ニ御文通、右之御料所四ケ宿ニ者御達も無之、區々之御取斗とハ乍存六ケ宿一同驚入、相談之上尾花沢御役所ニ歎願仕候処、尤ニ御聞受被成候得共、急速御調方難被成、尤御差含被為有候旨被仰聞候間、一先引取御沙汰相待罷在候処、同年追々紅花川下相成候間歎敷存、同御役所ニ右歎願之否相伺候処、御沙汰ニ難被及旨ニ〆願書御下ニ相成候ニ付、無據翌未三月中六ケ宿為惣代、天童宿問屋太右衛門・土生田村同甚九郎両人御奉行所様ニ御歎願仕度出府致し、石井勝之進様御役所ニ御差出之義願出候処、御取調之上被仰聞候者、仕来之助成ニ放れ難渋之趣相違も無之御聞受被成、乍併仕来も有之川船方御役所之取斗ニ〆可相分儀を、軽々敷御奉行様ニ御厄介奉掛候段恐入候義ニ付、今一應国許御役所之御取調を受、弥以不相分候其節出訴可致旨厚御利解有之難有承知仕、帰国之上御調之御沙汰相待候処、右一条者其御筋ニ伺之上御沙汰可有之候間、夫迄ハ巳年已前之通船町村河岸ゟ紅花積入之乞船御差止、并外荷品ニ〆乞船いたし荷替と号ケ（ママ）、紅花積込候義も決〆不相成趣ヲ御支配四ケ宿ニ者御役所ゟ被申渡、堀田備中守様御役場并天童・楯岡領主役場ニ者右之段御文通ニ相成候ニ付、六ケ宿一同安心仕御傳馬継立無滞勤續罷在候、然ル処孫市一己之願ニ〆者私曲之謀斗相顕候を心附、今般ハ一村願之意ニ取拵、願人兵次郎義者組頭之肩書ニ〆罷在候得共、内実ハ孫市召仕ニ〆公事出入等巧者成ものニ付、今般訴訟人ニ罷出候由、孫市義者名主ニ〆荷問屋致し、生得利口私欲勝手之所業いたし候ものニ〆、最上川筋之義ニ付世上ニ迷惑難渋相成候義度々有之、既ニ天保十五辰年中酒田湊荷宿共之内同意之者壱

両人荷擔ニ引人、同人進退上下之川船者丸積ニ致し、外ニハ荷物積合不致、其外品々奸困(カ)之義(曲カ)を取巧、諸国へ振向荷物一手ニ可引受手廻り致し、御國恩と号ケ増賃銭可貪取底意ゟ之義ニゐ、其後も紅花ハ陸送ニゐ紅花乞船無之段ハ、右御役所御書留ニゐ暦然相分り居候義ニ御座候、且訴状ニ船町村舟津駅場両条之御高札頂戴罷在往還駅場之趣申立候得共、同村之脇道渡船場ニゐ往還と申義無之、御廻米積立方請拂等往古ゟ一切無御座候、其上御傳馬御用継立とハ乍申、同郡寒河江・柴橋両御役所ニ江戸ゟ御手代衆年ニゟ稀之往返継立而已ニゐ、外之御用人馬等更ニ無之、一躰紅花者大金之荷品ニ候処、天童ゟ大石田迄僅六里之行程川下運賃ゟ駄送賃銭相増候迚聊之義、殊ニ京・大坂ニて賣捌候荷品ニ付、前々ゟ仕来通之運賃駄賃見込を以相拂候ニ何れも差支無之筈、郡中一統之潤益ニ相成候訳を以、往古ゟ国産と唱候義之処、今般願立ハ国産之紅花荷物古来之例を崩し、宿継相止船町一手ニ潤益引受、郡中諸民之愁傷不顧新規目論見ニゐ何とも歎敷奉存候、紅花荷物ハ大石田河岸船積仕法ハ同所ニ大石田川船方御役所ニ願済御下知之趣ニ申觸、酒田湊年番荷宿共ニ掛合遣し候処、左様ニ相成候ゐ者甚迷惑致候もの数多有之、伺済御下知と申義ハ如何ニも不審ニ存候迚、酒田湊ゟ村山郡御料所御役所附惣代名主共懸合有之、全賈役同様之仕成方ニ付、右差止方之儀郡中一同ゟ願上候ニ付、大石田御役所ゟ酒井左衛門尉様御役場ニ御掛合ニ相成候儀ニも有之、幷ニ天保十一酉年中最上川筋之内隼瀬自普請仕候ニ付、難破船之患無之、其後者山形町商人共紅花・絹糸類無滞船町河岸ゟ川下致し来候旨、申立候得とも以之外偽ニゐ、右川筋之義者難場数ケ所有之、別ゐ右隼瀬ハ富並川と唱ひ候水勢強き荒川ゟ之急流之難所ニゐ、如何様普請致候ゐも高山嶽々ゟ落合候水勢ニ被押流、跡形も無之相成保候場所ニ無之、然るを孫市義名声為利欲之、聊手入いたし船路之目當ニ杭木相立候得共、無程翌春右杭木押流し候ニ

付、船乗共却ゐ先年之眼印勝手を失ひ當惑致候趣ニ有之、右普請之年(カ)着荷次第順々積入候間、何れも差急候義ニゐ六月下旬ゟ七月中盛り八九月迄継立候間、例年渇水ノ砌ハ川筋ニゐ幾か滞船致し候哉も難斗、依之商人とも往古ゟ駄送り致し来候処、孫市義頗ル倚弁利口を以、種々申勤メ(ママ)、右を不相用ものともに者酒田湊ゟ登荷物相場物送方妨ゲ被致候義を怖れ、巳午両年ハ孫市願ニ任川下致候由ニ候得共、其後ハ一切川下無之、矢張先前通陸送ニ致候義ニ御座候、然るを訴訟方ニゐ者隼瀬普請後者年々川下ニ相成居候処、去ル未年五月中紅花荷物船町村川岸ニ出し置、乞船御差留ニゐ礑と差支、商人難義いたし候様申立候事、実不都合之儀ニゐ、紅花ハ五月半夏至ゟ咲初、六月土用を盛りニ摘取干揚荷送致、酒田湊に差下候品ニ御座候間、五月中船町河岸に紅花荷物差出置可申謂無之、不取留空言、山形町之義ハ奥羽第一之場所ニゐ諸国之商人入込諸色賣買有之、紅花を始メ上下之諸荷物数多有之、右駄送り之潤益ハ宿方第一之助成ニいたし、御傳馬相勤罷在候儀ニ御座候処、今般船町村新規川下之目論見者孫市壱人之貪欲ゟ事発り、六ケ宿数万人者勿論、郡中一統之困苦ニ相成候仕業ニゐ心外至極ニ奉存候、且去ル酉年夏中舟町ゟ尾花澤御役所に右一条願出候ニ付、私共一同被召出御糺ニ付、右躰難渋之始末逐々申立候処、至極尤之筋ニ御聞届有之、双方熟談可致旨被申聞候得共、兎角願人心底奸曲申分而已ニ付熟談整兼、古来ゟ紅花乞船無之段ハ、大石田川船方御役所年々之御帳面御調ニゐ巨細相分り候儀ニ御座候、幷ニ訴状去ル春中山形御城詰米河岸揚駄送之御用勤、河岸揚駅場とも御用相勤候者相互之旨申候得共、右御用ハ古今稀成義ニゐ先前見競(カ)之例無之、前々ゟ紅花荷陸送仕来之義山形間屋役人相弁ひ居、実以右之助成ニ相放れ候ゐ者宿場相續も難相成、既ニ相手六ケ宿六田・楯岡・宮崎者全継立之ため困窮仕、詰宿役相勤兼候段歎願仕、去ル卯年中ゟ引續出府罷在、当時久須美佐渡守様御掛御吟味

中ニあ、六田・楯岡問屋両人在府仕候次第ニあ、此上宿方潤益ニ可相成国産荷物新規ニ川下等相成候あ者弥増窮迫ニ陥り、六ケ宿共離散退轉等之もの多出来、往々人少及亡村候外無御座、第一御傳馬御用御継立之差支ニ相成候者眼前之儀ニあ、重々歎敷難義至極仕候間、無余義今般返答書を以奉申上候、何卒格別之以御慈悲前書廉々逸々御憐察之上、訴訟方に御利解被仰聞、国産之紅花荷物ハ旧例仕来通宿々駄送りいたし、以来一切川下不致様被仰付被下置度偏ニ奉願上候　以上

宿方六ケ村

嘉永三戌年二月

天童　義兵衛
六田　弥平治
宮崎　善兵衛
楯岡　茂右衛門
飯田　与左衛門
右五人ハ煩ニあ代兼
土生田　甚九郎

御評定所

九　小鵜飼乗船頭御米拝借證文之事

御米拝借證文之事

一、當河岸船乗渡世之私共儀、當年之儀者運送之荷物不足仕、素ゟ困窮ニあ如何共取凌不行立難渋之儀御見聞ニあ、夫食拝借之儀被仰立被下置候趣之所、格別之以御慈悲拝借米被仰付、壱人ニ付御米壱俵宛御拝借、御返納之儀者来子ノ暮ゟ向五ケ年賦御取立被仰付誠ニ難有仕合ニ奉存候、然上者年々無滞返納可仕候、万一及遅滞候ハヽ、拝借連名之者共引受弁納可仕候、則御米拝借左之通

小鵜飼乗船頭　与四郎

一、御米壱俵
此返上納壱ケ年米六升宛可相納

一、同　壱俵　　同　初蔵
右同断

一、同　壱俵　　同　長七
右同断

一、同　壱俵　同　徳右衛門　一、同　壱俵　傳助
右同断
一、同　壱俵　同　只吉　一、同　壱俵　与作
右同断
一、同　壱俵　同　忠太郎　一、同　壱俵　与平次
右同断
一、同　壱俵　同　与太郎　一、同　壱俵　祐助
右同断
一、同　壱俵　同　利七　一、同　壱俵　巳之吉
右同断
一、同　壱俵　同　忠蔵　一、同　壱俵　惣助
右同断
一、同　壱俵　同　代助　一、同　壱俵　八兵衛
右同断
一、同　壱俵　同　国吉　一、同　壱俵　左五右衛門
右同断
一、同　壱俵　市兵衛　右之通銘々御米奉請取御拝借仕候処実正ニ御座候、前
右同断　書被仰付之通年賦返納少茂無滞相済可申候、為後日拝

借證文奉差上候所仍而如件

文久三亥十月

小鵜飼乗船頭　与四郎㊞
同　初蔵㊞
同　長七㊞
同　徳右衛門㊞
同　只吉㊞
同　忠太郎㊞
同　与太郎㊞
同　利七㊞
同　忠蔵㊞
同　代助㊞
同　国吉㊞
市兵衛㊞
傳助㊞
与作㊞
与平治㊞

祐助㊞
巳之吉㊞
惣助㊞
八兵衛㊞
左五右衛門㊞

御役人中様

一〇　大石田河岸問屋聞書

（表紙）

正徳三年
聞書
巳ノ潤
五月日

（裏表紙）

問屋
沼沢又左衛門

一、卯ノ年四月十二日之晩、佐竹太膳（ママ）太夫様御入部、當地御一宿被遊候、御傳馬数四百疋程・歩使弐百人余入申候、其節初而之事ニ候故、人馬割埒明不申候而、こと〳〵く難儀致し候、駄賃不足銭五貫余出申

候、是ハ町割銭ゟ出候

一、佐竹様江戸御暇御礼之御使者ニ、横手御城代戸村重大夫様御登被遊候、御供廻九十人程ニゟ御登被遊候、拙者方ニ御昼休被遊候、御拝領金百疋被下候、御下之節ハ献上ニあゆ十五上ケ申候、依之金子弐百疋御拝領仕候

一、土用御使者小田野刑部様御登被成候、上下拾七人

一、八月朔日御使者根岸惣内様御登被成候

一、密之御使者

一、辰ノ三月廿一日佐竹様御登被遊候、雪路故馬足相立不申、人足持ニ仕候

一、辰ノ五月十三日津軽土佐守様御入部、當地御一宿被遊候、馬数三百四十疋余・歩使弐百人程入申候、拙宅ニハ今井源五右衛門様御用人御宿仕候、御供廻四十五人之内拾弐人下宿仕候

一、同年戸沢上総之介様御下、當地御昼休ニ被成候

一、巳ノ三月廿四日戸沢上総介様御昼休、本馬百疋・歩使七十人余入申候、同日岩城伊豫守様御一宿折節御通りかさなり、丹生川高水(洪)其上大雨ニゟ名木沢馬ハ岩ケ袋村迄、川はたへ當地ゟ迎馬出申候故、殊外手支難儀致候、上総介様御荷九駄残り、夜四つ過ニ爰元相立申候、伊豫守様ゟ拙者方へ相働として金子弐百疋御拝領被成下候、難有存候、依之御納戸衆迄御礼ニ罷出申候、献上ハ不仕候

一、津軽土佐守様御先觸ニ一ノ戸弥左衛門殿・斎木傳十郎殿御代御一宿被成候、馬数百七拾疋程・歩使百三十人余入申候、諸色直段定此御仁被成候

直段付

一、上賄	百三十文	一、中	百弐十文
一、下	百拾文	一、白米	
一、黒米	三十弐文	一、つけ木	壱文
一、馬くつ	四文半	一、こぬか	八文
一、あらぬか	壱文	一、大豆	廿七文

一、干菜　拾壱文　三尺さかり
一、わら　弐文
一、塩　三十文
一、とうしん　壱文
一、人木賃　三十文
右之通ニ対談之上相究申候
一、酒かす　廿七文
一、水油　四文
一、わらそうり　七文
一、わらち　七文
一、馬木賃　五十文
一、佐竹様五月三日江戸御発賀(鶴)、同十二日當地御一宿
御先觸
一、馬四百疋　内五十疋余御礼　内三百五十疋御家中馬
一、賃使弐百人程　内百人余御礼　内百人餘御家中
一、酒井石見守様(聞)壬五月廿二日當地御昼休、御先觸馬
数七十疋余内三十五疋御礼也、歩使五六十人内かこ
四挺御礼
一、酒井左衛門佐様(聞)壬五月廿三日御昼休、馬百九十疋
余・歩使百五十五人余
一、鶴ケ岡御家中塩野味右衛門殿・清水喜兵衛殿と申
御仁、上下四人ニあ御巡見御様子為被聞合白川迄御
登、六月六日當地迄御出、酒田戻り舟御雇清川迄金
壱分御出シ、五郎兵衛宿に舟頭清兵衛乗合ニ導者五
十四人、同夜五ツ時分ニ當地出舟致候処ニ水ケ瀬ニ
あ舟損シ、駒込村ニ舟すわり、則駒込村ゟ助舟大勢
出合、人数無差御上り被成候由、同七日朝五ツ時右
味右衛門殿・喜兵衛殿ゟ拙者方へ態飛脚幷ニ御状書
付有之、拙者罷越申候あ扣かね候処ニ、御荷物之内
跡付壱ツ・銭袋弐ツ・くわし袋壱ツ・ちやうちん壱
ツ・ふとんはり壱ツ紛失致候由被仰候、乍去御用之
書付等ハ皆々上り申候、依之導者衆ハ大石田ゟ金十
郎小舟下り、七日之四ツ過ニ下り被申候、右両人之
衆ゟ鶴岡へ飛脚登あ、駒込村ニ御逗留被成候ニ付、
同九日ニ為見廻重々内進申候、其節右なかれし跡附
新庄御領倉岡村ニあ上り申候由被仰聞候、同日八ツ
時御両人ゟ拙者方へ飛脚参候ニ付、名木沢出判上下
六人ト(カ)下り遣申候、則八日ニ駒込村御出立可被成

候、随分手前之首尾能候之由、酒田舟ハかわりニ致乗下シ申候

一、四月中ゟ米段々上り、壬(閏)五月廿日時分ハ酒田御札米金拾両ニ付拾弐表三分迄ニ罷成申候、それゟ少々下り、六月中旬頃ハ拾四表半位ニ罷成申候、上方ハ相場大坂之百六十三両迄仕候由、加賀・越前之方大上りニゐ、庄内諸国共ニ穀物上り申候、其故上郷幷ニ尾花沢筋村々穀留ニ罷成申候、當地ニゐも惣ゐ上下之穀物舟共ニ留申度と、百姓中ゟ庄や衆へ願出申候へハ、舟持中ゟ被申候ハ舟道留り申候ゐハ舟持迷惑ニ候間、左候ハヽ當地へ舟持共ゟ賣米出可申由申候、米高改申候得ハ三百八十表有之候

此わり付覚

一、百弐拾表　太右衛門　一、八十表　金十郎
一、五十表　五郎八　一、三十表　兵右衛門
一、拾表　左七右衛門　一、拾表　久右衛門
一、拾表　七之助　一、拾表　七郎兵衛
一、拾表　四郎兵衛　一、拾表　新右衛門
一、拾表　三吉　一、拾表

右直段之覚袋米壱わり安

一、上米　五升付　弐百五文　一、直米　弐百文
一、今引米　百八十五文
一、新庄・東根米　拾九表
一、御運賃米　弐拾表
一、山形米・上ノ山米　弐十三表

右之通仕候、惣ゐ塩(カ)辛場共ニ大上り、塩ハ六月十日頃ハ壱駄ニゐ壱両壱分五朱位、尤升(カ)三百文仕候、銭八貫五十文

江戸ゟ御書付之写

一、今度国々御料所村々順(巡)見被差遣候ニ付、右面々於村々相尋候義ハ有躰に可申達之旨、御代官中大小百姓共ニ可申聞候、勿論百姓ハ訴訟之事も候ハヽ、少しも不差扣、訴状を以申出候様ニ是又可申付候事

一、右面々御朱印員数之外ニ人馬入候ハヽ、其所定之

駄賃銭有之ハ其定之通り、定無之所ハ近邊之御定之割合を以、駄賃銭取之人馬可出之、御朱印外ニ賃なし之人馬壱人・壱疋も不可出之事

一、順見(巡)通り候道筋にても、百姓農業之儀ハ少も無遠慮いとなみ候様ニ可申付候事

是者写かけ申候

御巡見様御通ニ付、書付写シ

乍恐以書付奉願上候御事

一、御城米之儀、酒田御囲ニゐ上納被為仰付被下置度奉願上候御事、以前松平市右衛門様御代官之節ハ延沢領銀山ヘ御米差上ケ申候へゐ、八駄ニ付金壱分ツ、駄賃被下置上納仕申候、其以後正木茂左衛門請負ニ被為仰付候節者、川舟揚ニゐ相渡し上納仕候、其節者欠代米も相添不申、其後松平清三郎様御代官之時瑞賢請負仕、御米三斗七升俵ニ弐升欠代米相添、是又川舟揚ニゐ相渡シ上納仕候、其末江戸御廻米ニ被為仰付候、然所ニ年々御米江戸着仕大分之欠代出、百姓困窮仕候、依之奉願上候、御慈悲以酒田上納三斗七升俵ヘ三升之欠代米相添上納仕候様ニ、被為仰付被下置度奉願上候御事

一、御餅米拾四五年以前不被為仰付、江戸御蔵前ニゐ買上納仕来候、右御米之代御蔵前ニゐ前金相拂、御餅米右金ニゐ買上納仕候ニ付、大分之賣持出百姓迷惑仕候、是又所々餅米ヲ以酒田御囲ニゐ上納仕候様ニ被成下度奉願上候御事

一、小預代(カ)永宿役人給米之儀、五七ヶ年以来ゟ被為仰付上納仕候、困窮之百姓右之儀ニ御座候ゐ、此末御免被成下度奉願上候御事

一、御蔵前御入用百石壱分之儀、被為仰付次第上納仕候御事

右奉願上候通達之、困窮之百姓之儀ニ御座候ゐ被為仰付被下置度奉存候、勿論年ニより江戸・大坂両御廻米被為仰付候ニ付、納役人等附(カ)々へ差登申上納仕候御事

ニ御座候、然は海舟等海上ニあ日数掛り登替過り申候へ者、大分之入用等相掛り、弥々百姓難儀ニ及申候、以御慈悲御國御国ニあ上納仕候様、被為仰付被下置度願上候

出羽国村山郡　諸星内蔵助
諸星藤兵衛　御代官所

正徳三年巳七月　大石田領村々
百姓

舟道ゟ指上ケ申候書付

覚

古来最上川所々御運賃定

一、長崎舟場ゟ酒田湊迄御米百表ニ付　八表半
一、本楯舟場ゟ　八表
一、谷地舟場ゟ　七表半
一、かに沢舟場ゟ　七表
一、境野目舟場ゟ　六表
一、大石田ゟ段々川下舟場ゟ　五表半

右之御運賃三拾年余以前諸色下直仕候ニ付、右御運賃弐表下り被為仰付、宝永七年丑ノ年奉願上、壱表通當

年迄ニ四年申請候

一、當所舟数先年者三百艘余御座候処ニ、近年諸色高直仕候ニ付、舟造立成兼漸弐百艘有之候内、御城米積候上舟八拾艘ならて無御座、残テ百弐拾艘下々悪舟小舟ニ御座候

内

一、白川領舟数　四拾五艘
　内拾七艘　上舟
　同弐拾八艘　下々悪舟幷ニ小舟
一、山形領舟数　三拾艘
　内拾壱艘　上舟
　同拾九艘　下々悪舟小舟
一、御公領四日町舟数　六拾壱艘
　内弐拾四艘　上舟
　同三拾七艘　下々悪舟幷ニ小舟
一、同　本町舟数　六拾四艘
　内弐拾五艘　上舟

同三拾九艘　下々悪舟幷小舟

一、舟壱艘造立入用代金

先年ハ三拾両程ニゐ出来仕候

近年ハ七拾両余ニゐ御出来仕候

一、水主賃物　舟代金

先年ハ金弐両ゟ三両迄

近年ハ金五両ゟ六七両迄指置申候

一、同給人

先年ハ金弐分ゟ三分迄

近年ハ金壱両弐分ゟ弐両迄指置申候

一、舟壱艘船頭水主共四人

一、大石田舟年中大方三舟又者四舟宛上下仕候、尤秋ニ罷成候ゐ登り荷物壱舟積申候、右運賃年中手取六七両ならて徳用無御座、但此内かゝり物引ケ申候、年々諸色高直ニ付舟持困窮仕候

一、最上川幅所ゟ百弐拾間百五拾間迄　御座候

一、長瀞巳御城米下り高

弐万七千四百八表弐斗五升八合

一、漆山巳御城米下り高

弐万六千弐百七拾九表余

一、山形　御下米高

七万四五千表内外

一、上野山　御下米高

弐万五六千表内外

一、米沢　御下米高

弐万七千表余

一、松山領左沢御下米高

四千表内外

一、新庄領谷地御下米高

壱万八千表内外

一、白川領東根御下米高

壱万八千表内外

一、御城米下り節者、丘天（暮点）・隼・三ケ瀬右三ケ所之大

難所番舟拾艘宛付置申候事

一、御巡見様・御代官様最上川御上下之節、御召船舟道方御用立申候御事

一、御巡見様・御代官様幷所々御大名様御上下節、舟生川・朧気川渡し舟御用立申候事

一、御城米最上川通破船仕御米紛失又者濡申候節ハ、舟方方御米三ケ一弁出申事

一、御城米海舟船積出舟之砌、上荷通舟酒田舟御用相勤、尤酒田舟不足御手間之節ハ、大石田無違ニ御用相勤候御事

一、酒田舟数大石田同事ニ減、只今弐百艘御座候内四拾艘御城米積候上舟、残テ百六拾艘余下々悪舟幷ニ小舟御座候由及承之

一、御見使矢木清五郎様宿六右衛門
　御上下拾人、御用人斎藤万右衛門殿

一、同　山下伊右衛門様宿又左衛門
　御上下拾人、御用人鈴木吉右衛門殿

一、御目付竹嶋与五左衛門様
午ノ四月諸星内蔵助様御代官役御免ニ而、五月十五日御支配御請取衆御引渡し有之候
　野呂勝右衛門殿

右之衆七月十五日ニ、秋山彦大夫様衆へ御引渡し有之候而、十六日ニ御登被成候

秋山彦大夫様御手代

一　立見武左衛門殿
二　佐藤條(カ)左衛門殿
三　留沢喜平太殿
四　木村半三郎殿
取次役
瀧　健助殿

佐竹大膳太夫様御通人馬割覚

一、馬四百疋

一、歩使弐百七拾人
　〆御先觸之者

此わり長瀞ゟ被仰付候事

一、人足八拾五人
一、馬百四拾九疋

延沢領

是ハ延沢村・細野村・六沢村・鶴子（ツル）村・下柳渡戸村・北郷坂本村・行沢村・中嶋村ニあ割賦可被致候

一、人足弐百三人
一、馬三百五拾七疋

尾花沢領

是ハ尾花沢村・二藤袋村・原田村・鶴巻田村・母袋村・上柳渡戸村・市野々村・岩谷沢村・正厳村・丹生村・押切村ニあ割賦可被致候

一、人足百拾三人
一、馬百九拾九疋

大石田領

是ハ本飯田村・土生田村・五十沢村・朧気村・今宿村・本町・四日町ニあ割賦可被致候

大石田領村わり覚

高五千七百七石九斗

御料・私領共ニ百石ニ三疋半・壱人九分八リン

百七拾石六斗七升弐合
一、馬十六疋

今宿村

一、人足九人

百七拾石六斗七升弐合
一、六疋

朧気村

一、三人

六百六十三石八斗六升壱合
一、弐十三疋

五十沢村

一、十三人

弐千七十五石三升三合
一、七拾三疋

土生田村

一、四十弐人

千九十三石三斗壱升弐合
一、三十八疋

本飯田村

一、廿弐人

高千弐百四十五石四斗
一、四拾四疋

大石田本町

一、弐十五人

四日町・山形・東根共ニ
ゟ弐百疋

百十四人

長瀞ゟ之御文言

右者佐竹大膳太夫様来ル廿六日御参勤被遊候間、右之人馬廿五日晩大石田町へ宵詰之積り、村々へ割賦可被申付候、御荷物早天ニ楯岡村迄附届可申候、大石田町御泊りニ候間油断有間敷候、尤前々之通宰料之者指添大切ニ可被致候

一、道橋掃除入念可被申付候、若人馬滞候村方も有之候ハヽ、問屋ゟ役所へ可被御訴候、此廻状披見之上村下庄屋致印形、早々順達留り村ゟ可被相返候

午七月廿一日　佐藤條左衛門（カ）　判
留沢喜平太　判
御用他出無印形
立見武左衛門　無印

延沢
尾花沢
大石田
右組頭中

此方ゟ之廻状

右者佐竹大膳大夫様、来ル廿六日晩大石田御泊りニ為御通被為遊候間、右人馬廿六日宵詰ニ被仰付可被遣候、右之旨長瀞御役所ゟ組頭共方へ被仰付候ニ付、如此ニ御座候、無滞様ニ御申付可被遣候、尤前々之通才料御添可被遣候、此廻状村下ニ印形被成、早々御廻シ留り村ゟ此方へ御返し可被成候　以上

午七月廿一日　問屋又左衛門
村岡六右衛門

右村庄や衆中

右人馬大石田ゟ楯岡迄相返申筈ニ被仰付候間、其御心掛被成無滞様ニ被仰付可被遣候　以上

延沢・尾花沢へ添書

右御廻状ニ来ル廿五日宵詰と被仰付候得共、大石田廿六日之晩御泊り之間、廿六日宵詰ニ被仰付可被遣候、為念如此ニ御座候　以上

同日
一、壱分五百文　四右衛門へ渡し
渡し舟板入用ニ

覚

一、壱貫弐拾五文　惣左衛門殿山かた(形)遣
七月八日ゟ十日迄

一、八百五十八文　好右衛門山かた遣
七月五日ゟ七日迄

七月十三日
一、壱〆三拾文　朧気川渡舟わりちん
町中と半分

同日
一、四百文　藤七飛脚ちん
漆山ゟ山かた(形)両所へ遣候、遣方太儀ニゟ
〆三〆三百十三文
寅(カ)右御荷之内、太右衛門ゟ受取
七月十三日

（貼紙）

覚　弐十五文ッ、八百五十文、
一、弐斗三升
代金壱分百九十弐文
右之通慥受取申候
巳七月十二日　三左衛門
彦八
又左衛門殿へ

一一　差上申済口證文之事

差上申済口證文之事

羽州村山郡荒町村巳之助外三人ゟ同郡土生田村長次郎外弐人相手取、御支配所御役所ニ出訴仕候者、川西通り横山通り荷物附送り候儀ニ付、先年及出入候節、私共村々ニ一向対談も無之相弁へ不申、其後廻状を以申越候儀ニ付、右之趣相糺見申候処、内済證文ニ者登荷

斗ニあ内済ニ相成候儀を、上下共々於御評定ニ被仰付候趣ニ付恐入候所、全左様之義者無之、右ニ付下り荷物ニ者不差構儀と相心得、御上様に恐入披見印形仕、猶又横山通り之義者古来ゟ通路仕候儀、又者近村々々ゟ者附送り候ニ付、脇路と者不存百姓手作・手荷物之義ニ候得者、新規東通仕候あ者大勢之百姓甚及難義ニ、其上土生田村之者共、紅花荷物理不尽ニ差押難義仕候旨申立、相手土生田村幷宮崎村外三ケ村ゟ一同申上候者、最上川西横山通者脇路之処、我侭ニ谷地郷者とも附送り候ニ付、先達あ及出入、横山通り者上下共不相成段相聞候処、又々訴(訟)証方之者共附通候ニ付、證拠之為紅花荷物差留候儀ニあ、理不尽ニ差押候義ニ者決あ無之段其外品々申上候処、去子十二月中松平兵庫頭様一同御差出ニ相成、御吟味中尚又前小路村ゟも訴証方に加り、当時御吟味中ニ御座候處、双方掛合之上熟談内済仕候趣意、左ニ奉申上候

一、右出入双方得と承糺候処、右川西横山通り之儀者

脇路通ニ付、享和二戌年及出入、於御奉行所様御吟味之上、脇路ニ相違無之旨相決候上者、都あ之荷物附送り候義者不相成段相分り、依之以来右通り附送り申間敷旨済口證文奉差上、双方帰国之上、右御吟味相聞候趣、向々村々に五ケ宿問屋共ゟ廻状を以及断候段、承知印形いたし越候處、谷地郷之者共横山通り下り荷物之儀者、手飼之牛馬人夫を以附通り候義ニ差構者有之間敷旨、御願奉申上御吟味御座候処、右願筋難相立宿方申立候儀者證拠有之ニ付、右川西横山通之儀者脇路ニ相決候上者、上下之差別無之事ニ付、以来谷地郷ゟ川西横山通り都あ大石田に荷物附送り候義者決あ不致、六田・宮崎当番宿ゟ差出、夫ゟ順々ニ宿々を大石田へ上下共継送候筈熟談仕候上者、去子年中差置候紅花荷物六箇者帰村之上早速相返候筈ニあ、双方申分なく熟談仕、偏ニ御威光と難有仕合奉存候、然上者右一件ニ付重あ双方ゟ御願筋毛頭無御座候、依之連印済口證文差上申所如件

鈴木喜左衛門御代官所
羽州村山郡
荒町村
百姓
巳之助

孫四郎
右両人代兼
問屋
源次郎

相手

訴証人(訟)
名主忠次郎代
忠蔵

同御代官所
同州同郡
本飯田村
楯岡村
宮崎村

文化二丑年
八月廿七日

工藤小路村
百姓四郎次代
惣右衛門

川崎平右衛門御代官所
同州同郡
六田村

名主左内代
宇七

右四ケ村惣代
宮崎村
三重郎

上杉弾正(大)弼御領所
同州同郡
前小路村
市郎兵衛

楯岡村
茂右衛門

六田村
清次郎

鈴木喜左衛門御代官所
同州同郡
土生田村
長次郎

御奉行所様

一二　商人荷輸送関係史料

(1)　諸方出判写

一、紅花七駄　但、四箇附正味　九貫五百目入六箇
　　九貫目入弐拾弐箇

右荷主大坂之木右衛門と申者、御當所ニ而相調国元ニ
為差登申度候、依之大石田口出御判可被下候　以上

（天保八年）
申六月廿七日　　十日町
　　清兵衛　印
　　検断
　　青山善右衛門　印

表書之通相違無御座候、御通可被下候　以上

山形役所　印

大石田口御役所

一、紅花三駄　正味九貫目入　拾弐箇

右者荷主仙臺湯村屋文吉同所ニ而相調、庄内酒田添ニ
差下申度候由、則新山口入判参申候、依之大石田口出
御判可被下候　以上

申八月廿一日　　問屋　小林半四郎
　　検断　小林治郎

表書之通相違無御座候、御通可被下候　以上

山形役所

大石田口御役所

覚

一、　荷主誰

右之通他国出し仕候間、書面之荷物無相違御通可被下
候　以上

荷宿　兵右衛門
名主　半右衛門

申何月何日

川舟方御役所

一、紅花弐拾七箇　仙臺國産

仙臺國領分作並御境目見届
真柳直五郎

右之通紅花京都ゟ為相登申候間、作並通大石田河岸夫ゟ先々御首尾被成下度奉願上候　已上

天保九年七月　　生糸紅花問屋　田中勝之助

御国産方御會所

表書之通無相違御通可被下候　以上

同年同月廿六日　　野村権兵衛　印

大石田川舟方御役所

覚

一、紅花拾弐箇　　荷主　吉　郎　治

右之通他國出荷物違無御座候間、御改所御通可被下候

以上

（天保十年）亥六月廿五日　　阿部能登守領分　楯岡町名主　茂右衛門

大石田船方御役所

表書之通無相違御通可被下候　以上

阿部能登守内　村社喜兵衛

大石田船方御役所

表書之通無相違御通可被下候　以上

（ママ）安部能登守内　村社喜兵衛

大石田船方御役所

覚

一、紅花三拾壱箇　　羽州村山郡荷口村　荷主　佐次兵衛

右之通酒田下願出候間、無相違御通可被下候　以上

亥七月　　土屋采女正内　中嶋弥八

大石田川舟方御役所

一、紅花四駄　正味九貫五百目入　九箇　　九貫目入　弐箇

八貫五百目入　五箇

右者京都之八郎兵衛と申者、御當所ニあ相調国元へ持参仕候間、大石田出口御判可被下候　以上

亥七月十一日　宿　十日町　理　兵　衛

表書之通相違無御座候、御通可被下候　以上

山形役所

大石田御役所

一、紅花四駄　正味九貫目入　拾六箇

右者荷主仙臺大河原高橋忠助同ニあ相調、庄内酒田湊ニ差下申度由、則新山口入判参申候、依之大石田出口御判可被下候　以上

亥七月十八日　宿問屋　小林半四郎

加判　検断　小林六之助

表書之通相違無御座候、御通可被下候　以上

山形役所

大石田口御役所

覚

仙臺國分作並境目見届
七月十八日　真柳直五郎　印

仙臺國産
一、紅花　但、九貫目入八箇也

右之通當地佐久間屋萬吉儀京都ニ為相登申候間、作並道大石田川積出幷先々共ニ無相違御通可被下候　以上

天保十年亥七月　仙臺國産取締人　岩井作兵衛　印　中井新三郎　印

一、紅花　拾丸　但　弐拾袋入五丸　拾九袋入弐丸　拾八袋入弐丸　拾七袋入壱丸　荷主　勘太郎

最上左澤ゟ買出上方表ニ持参申候間、御改所無相違御通可被下候　以上

亥七月廿日　湯村石見守内　圖司弥兵衛　印

大石田川舟方

御役所

一、紅花　弐駄壱箇　但、四箇附

荷主　山形　吉兵衛

紅花弐駄壱箇、但し四箇附、荷主山形吉兵衛當領ニ而相調、北國通上方ヶ為差登申度候条、御改所無相違通可被下候　以上

亥八月七日　戸沢大和守内

大石田御役所　木次立左衛門

覚

一、青苧拾駄小荷壱ツ　丹後國若瀧荷主　山家屋　佐喜蔵

大石田口送り酒田出し

京都井筒屋久兵衛殿行

右者當村ヶ荷出仕候処相違無御座候、其口御番所ニ而御改御通可被下候　以上

添田一郎治支配

羽州柴橋陣屋附貫見村

天保十亥年九月七日　宿　傳　七

名主　太十郎

大石田口御役所

（附紙）

但、八箇・小荷壱ツ、茂平治船ニ積入、残り拾弐箇私方へ蔵入ニ付〇〇〇（虫損）奉願上候、尤御役永之儀仰付次第私ヶ上納仕候付、乍恐下ケ札を以願上候　以上

大石田河岸

荷問屋

願人　次　吉　印

覚

一、紅花拾弐箇　但、壱駄ニ付四箇附

但　弐拾壱袋入　六箇　荷主　米澤五兵衛

弐拾袋入　六箇

右之通他國出仕度候間、書面之荷物無相違御通可被下候　以上

阿部能登守領分

羽州村山郡山野辺村

天保十四卯年八月七日　名主　忠治郎

荷宿　清五郎

大石田船方御役所

表書之通無相違御通可被下候　以上

阿部能登守内
村社喜兵衛　印

大石田船方御役所

覚

一、ハセ蠟拾八箇　荷主　五郎八

但、壱箇ニ付拾六貫目入

右之通仙臺ニ差送り申候条、御改所無相違御通可被成候　以上

（弘化二年）
子十一月四日

大石田本町　名主代
太右衛門

関山口御改所

右者途中ニ而商内出来候間、御出判不用之趣申来、則役方へ今日下し相添相返ス

覚

一、（記入なし）

右者庄内酒田湊ニ罷下申候条、御改所無相違御通可被成候　以上

大石田本町
名主代　太右衛門　印

月　日

古口御改所

右之通則ち大奉紙四ツ切いたし書遣申候

覚

一、白干苧三駄也　當州山形　福嶋屋
荷主　治助

但し六箇、壱箇ニ付百廿四把入
御役永相済

大石田ゟ酒田出し
京都近江屋
源兵衛方行

右者當村ゟ荷出仕候処相違無御座候、大石田口御改所無相違御通可被下候　以上

石井勝之進御代官所
羽州村山郡柴橋御陣屋附
同州同郡貫見村
荷主　傳七　印

弘化三丙午年七月

大石田御役所　　名主　太十郎

右者印鑑届ケ御座候得共、御役永相済御座候ヒ付

覚

一、青苧弐駄　　荷主　仁　八

右之通他國出相違無御座候間、御改所御通可被下候

以上

秋元但馬守領分
楯岡町名主
茂右衛門

午八月廿日

大石田船方御役所

表書之通相違無御座候、御通し可被下候　以上

秋元但馬守役所

大石田御役所

當地求青苧之事

一、百拾壱貫六百目　　荷主　山形　吉郎次
六箇

右之通無相違御通可被下候　以上

上杉彈正弼内
三上弘次　印
藤崎紋蔵　印

弘化四年正月

最上大石田御役所

當地求青苧之事

一、弐百六拾貫四百目　　荷主　山形　吉次郎
拾四箇

右之通無相違御通可被下候　以上

上杉彈正大弼内
三上弘次
藤崎紋蔵

弘化四年二月九日

最上大石田御役所

當地求青苧之事

一、弐百四貫六百目　　荷主　山形　吉郎次
但、拾壱箇

右之通無相違御通可被下候　以上

弘化四年三月

上杉弾正弼内
藤崎紋蔵　印
成田茂八　印

最上大石田
御役所

覚

一、紅花弐駄也　但拾八入三箇
拾七入五箇

右者天童荷主半四郎書面紅花御當所ニ而買調、上方に為差登申度奉存候間、大石田御役所無相違罷通候様、御出判被下置度奉願上候　以上

天童荷主
半四郎
長瀞宿
善蔵
同村名主
吉太郎

長瀞御役所

表書之通無相違御通可被下候　以上

（弘化四年）
未七月廿日

米津越中守
長瀞役場

大石田船方御役所

覚

一、紅花三駄半　但壱駄ニ付四箇附

當領江俣村
荷主長四郎

右之通酒田湊に差下申候間、其御改所無相違御通可被下候　以上

堀田備中守内
橋本五郎左衛門　印

未七月

（大石田船方）
御役所

一、紅花弐駄　但、四箇附　壱箇ニ付正ミ九貫目入

右者荷主仙臺領柴田郡大河原町忠助と申もの、同領ニ而相調酒田湊に持参仕度由ニ而、新山口入判参り候、依之大石田口出御判可被下候　以上

未八月朔日

問屋當番
高田九十郎
加判検断
高橋四郎兵衛

一、紅花弐拾駄也　但、壱袋ニ付正味五百目入　十八入　八拾箇也

右者荷主仙臺領柴田郡村田町庄七と申者、同領ニゐ相調羽州酒田湊迄持参仕度よし、新山口入判参候、依之大石田口出御判可被下候　以上

問屋當番
江口傳右衛門
加判検断
高橋四郎兵衛

覚

一、紅花弐拾七箇　荷主　城州　安次郎

但　拾七袋入　拾三
拾八袋入　十
拾九袋入　壱
廿袋入　三

右之通他国出仕度候間、書面之荷物無相違御通可被下候　以上

阿部播磨守領分
羽州村山郡山ノ辺村
名主
後藤忠治郎　印
荷宿
佐藤清五郎　印

嘉永二酉六月廿七日

大石田船方御役所

表書之通無相違御通可被下候　以上

阿部播磨守内
鈴木錫治　印

大石田船方御役所

覚

一、青苧四駄也　江州川守荷主　福本市郎兵衛

但　御役永御改請取可被下候　以上

左沢原町口ゟ大石田川口通酒田出右荷主方行

右者當村ゟ荷出仕候処相違無御座候、其口々ニゐ御改

御通可被下候　以上

吉田條太郎支配所
羽州村山郡柴橋陣屋附
同州同郡貫見村
宿　傳　七
名主　太十郎

嘉永弐酉年八月十四日

大石田川口御役所

右出判○○○○（虫損）候由ニ相成候

覚

一、青苧拾箇　荷主　吉郎治

右大石田御判可被下候　以上

酉八月十七日　楯岡町　名主　笠原茂右衛門　印

表書之通相違無御座御通可被下候　以上

漆山役所　印

大石田口御役所

一、紅花八駄一箇　但、四箇附

荷主京都喜八、當領ニあ相調、北國通上方ニ為差登候条、御改所無相違御通可被下候　以上

戸沢千代鶴内
津田宗助

酉八月十七日

大石田御役所

一、青苧三駄　但、弐箇附

荷主伏見安次郎、當領ニあ相調、北国通上方ニ為差登候条、御改所無相違御通可被下候　以上

戸沢千代鶴内
津田宗助　印

酉八月

大石田御役所

(2)　諸方送手板

（表紙）

安政五年
諸方送手板
戊午五月

（裏表紙）

二藤部店

覚

同〆　大般若入　四箇

百壱番　百弐番
百三番　百四番

右者仙臺永徳寺様行御軽荷物送出候条、宿々着之砌濡損等能々御改、無滞御継立可被下候　以上

（安政五年）
午六月廿八日　　大石田河岸
　　二藤部兵右衛門

尾花沢ゟ先
尿前越宿々
御問屋衆中

右者駄賃帳有之、御傳馬賃銭之趣御使之御傳被仰候間、右駄賃帳問屋久太郎殿へ持参頼入候処記呉申候、左之

一、弐拾七文　本馬　壱疋
一、拾九文　から尻　壱疋
〆

右者大石田ゟ尾花沢迄

午六月廿八日　　問屋

右之通記し申候、當所付出駄賃者酒手として馬さし方へ百拾文遣、右之内御定賃銭幷酒手馬さしゟ渡

覚

一、三拾文　釘三拾本
一、五拾文　荷造賃
一、三拾文　札壱枚
一、百七拾文　七戸壱枚
一、百拾五文　尾花沢迄駄賃

同〆三百九拾五文

右通慥ニ受取申候　以上

午六月廿八日　　大石田　二藤部兵右衛門
仙臺　永徳寺様

青苧送手板

同〆　稀天白干苧　正ミ拾八〆六百目入　四箇

同一、金壱両弐分　大石田ゟ添金

内四拾弐匁五分三厘　大石田掛引

残金壱両七匁四分七厘

右之通為差登申候條、貫目・封印・濡損等能々御吟味被成下、片時も早々御送可被下、尤御駄賃之儀者右添金ゟ御引取、過不足京都紙屋新六殿江御差引可被下候以上

安政五年
午八月

羽州山形
荷主　佐藤利兵衛
同大石田　二藤部兵右衛門　㊞

酒田大沼平八殿
敦賀田保孫右衛門殿
塩津中村佐右衛門殿
大津油屋作兵衛殿
蔵入

青苧送手板

回今稀天白干苧　正ミ拾八貫六百目入　四箇

回一、金壱両弐分　大石田ゟ添金

内四拾弐匁五分三厘　大石田掛引

残金壱両七匁四分七厘

右同表同名宛

青苧送手板

回今稀天撰苧　正ミ拾八貫六百目入　四箇

回同本場七夕同　同　弐箇

〆三駄

一、金弐両壱分　添金

内

残金

右之通為差登申候條、貫目・封印・濡損等能々御吟味被成下、片時も早々御送可被下候、尤御運賃之儀者右添金ゟ御引取、過不足京都紙屋新六殿江御差引可被下候　以上

安政五午九月

佐藤利兵衛
阿部孝右衛門
二藤部兵右衛門

大沼平八殿

大坂長堀高橋
日奈屋半兵衛殿
蔵入

青苧送手板

印令 稀天飛 撰苧　四箇
同 本場七夕同　弐箇

〆三駄

一、金弐両壱分
内
残金
右同断

送手板

印長 七夕本ムク 白干苧　正味十八〆六百目入 十弐箇
十壱番ゟ廿弐番迄
同同同 同小荷　正味十〆八百目入 弐箇
廿三番 廿四番

〆六駄片馬
但、駄運賃酒田迄山形拂、夫ゟ先京都最上屋喜八殿拂
右之通積入為差登申候条、着岸之砌濡損・貫目・封印等能々御吟味之上、御請拂可被成下候、且海上ニ而万々一難事等有之候節ハ、其場ニ早速御駈付、御取始末可被下候、為岡送状如斯御座候　以上

午九月　羽州山形荷主
長谷川吉郎次
松田傳七出
同大石田
二藤部兵右衛門
酒田鐙屋惣右衛門殿
京都古手屋長右衛門殿行

送状

印金 古手入　弐箇
同令 くり綿　弐本
公寿 九はん
令白鶴一〆廿五

印一、五匁　　添銭

右之通

午十月廿七日

名木澤

船形

新庄

玉川屋弥作殿行

覚

印今　くり綿　六本

白鶴三

三緑三

右之通清吉船へ積下申候間、着之砌御改御請取可被下候、尤運賃当方ニ而相拂申候　以上

未正月廿五日

本合海

早坂惣左衛門殿

助手差上候迄預り置呉候様浄書申遣

送状

越中高岡

本郷屋小右衛門殿分

南部盛岡

藤田武左衛門殿行

印利　合薬　壱箇

本郷屋清左衛門殿分

同

印仝　同　三箇

（抹消）

外ニ秤壱挺

此秤酒田藤竹殿へ積戻呉様厳重被申候ニ付除

印合四箇

右之通南部行荷物差送申候間、封印・濡損等御改、早々御継送可被申下候、駄賃之儀ハ宰領ゟ御受取可被下候　以上

未二月四日

大石田

二藤部兵右衛門

尾花沢ゟ軽井沢越
南部迄宿々
御問屋衆中

送状

本郷屋清兵衛殿分
印仝　秤　　壱挺

一、外ニ添状壱通

右之通作兵衛船へ積下候間、御改御受取荷主御差図之方へ御届ケ可被下候　以上

未二月四日　　大石田
二藤部兵右衛門

酒田
藤屋傳之丞殿

右賃七拾文荷主ゟ受取、舟頭へ渡

覚

印仝古手　　壱箇
弐千三番
印長玉砂糖　　壱挺
〆

右之通与左衛門舟ニ積下候間、着之砌能々御改御請取早々御継送り可被下候、尤運賃當方ニゟ相済申候
以上

未二月十七日

貴地諸掛り新庄ゟ御請取可被下候

本合海
早坂惣左衛門殿

新庄
玉川屋弥作殿行

送状

仝午坂上綿　　壱本
丑巳同　　壱本
〆弐本

印一、金弐朱　　添金
内四百四十文　大石田駄賃諸掛舟賃共引
残三百七拾五文　送る

未三月廿八日

名木澤
船形
新庄
富樫源蔵殿行

送状

佐藤利右衛門殿分

印(十) 繰綿　九本

五番十四〆六
五十弐〜五　廿八〜七
十　六〜五　八番〜六
十　四〜四　拾壱〜七
壱　番〜六　拾弐〜六

〜は十四〆の略記号である。〜五は十四〆五の意、以下同じ。

印同　同　拾壱本
玉松

四　番〜六　七はん〜六
三　番〜七　六はん〜六
拾　弐〜五　九はん〜四
五ばん〜四　十　四〜五
廿　五〜六　四はん〜四
八　番〜四

印(大寿)　拾本

廿　〜五　廿　七〜六
十三〜七　壱ばん〜五
廿弐〜五　七ばん〜四
廿三〜四　三　十〜四
拾弐〜五　三十弐〜五

印合三拾本　但、拾駄

右之通南部黒澤尻行荷物午通ニゟ差送申候間、濡損・貫目・封印等能々御改御請取早々御継送可被下候、尤駄賃山ノ目迄當方ニゟ相渡シ、夫ゟ先々才料ゟ御請取可被下候　以上

最上大石田
二藤部兵右衛門

未四月廿五日

山ノ目ゟ先々
御問屋衆中

南部黒澤尻
八百屋源助殿行

午方手取駄賃

一、金弐両壱分　仁　八
五百八拾文　拾本

一、同壱両壱分壱朱　　与惣右衛門
五百九十三文　　六本

一、同三分壱朱　　平　治
八百三文　　四本

一、同三分壱朱　　八　兵　衛
八百三文　　四本

一、同壱両壱分壱朱　　徳　治　郎
五百九十三文　　六本

〆金六両弐分
三〆三百七拾弐文

送手板

印 小間物　　壱櫃
百四拾壱番

但、駄運賃之儀者酒田迄山形拂夫ゟ先キ拂

右之通為差登申候間、濡損・封印等能々御改被成下、片時も早々御送可被下候、尤駄賃之儀者前書之通御承引可被下候　以上

安政六未年
五月

羽州山形荷主
高田為次郎
同大石田　二藤部兵右衛門

酒田　大沼平八殿

大坂堺筋金田町
象牙屋次郎兵衛殿行

送状

佐藤利右衛門殿分

印 ㊥ 木綿入　　弐ツ付
四百拾壱　　四百拾弐　　弐箇

印 同　同　　三ツ付
九箇

三百五十弐　三百五十弐
三百五十三　三百五十四
三百五十五　三百五十六
六百七十一　六百七十弐
五百八

印 同　生蠟　　三ツ付
上同　　九丸

〆廿品　但七駄　　三〆五百文

右之通南部黒澤尻行荷物午通ニあ差送申候間、着之砌濡損・貫目等能々御改御請取可被下候、尤山ノ目迄駄賃當方ニあ相渡申候　以上

未五月廿六日　　最上大石田　二藤部兵右衛門

山ノ目
岩手屋久左衛門殿

南部黒澤尻
八百屋源助殿行

一、金壱両三分弐朱　仁　八
壱〆五百文　三ツ付弐駄　弐ツ付壱駄
外ニ金壱朱　弐ツ付重荷ニ付まし

一、同壱両壱分　与惣右衛門
壱〆文　三ツ付弐駄

一、同壱両壱分　与　平
壱〆文　三ツ付弐駄

〆金四両壱分三朱

送状

佐藤利右衛門殿分

印㊥　木綿　拾箇
五百九番　三百五十八
六百七十八　六百七十六
六百七十七　六百七十九
三百五十七　六百七十三
六百七十四　六百七十五

〆三駄

右之通南部黒澤尻行荷物午通ニあ差送申候間、着之砌濡損等能々御改御請取可被下候、尤駄賃山ノ目迄當方ニあ相渡相済申候　以上

未六月八日　　二藤部兵右衛門

奥州山ノ目
岩手屋久左衛門殿次

南部黒澤尻
八百屋源助殿行

一、壱両壱分　徳　次　郎
壱〆文　三ツ付弐駄

一、金三分　平　次
壱〆弐百十文　三ッ付四箇
但壱駄三分三厘
〆金弐両
弐〆弐百十文

送状

同 ㊀ くり綿　弐本
同 金 莚包小荷　壱ッ
同　一、五百文　添銭
未六月十一日
玉川屋弥作殿

送状

八月廿五日

㊁ 金 古手　弐箇
五百壱　五百三
一、壱〆文　添銭
内三百拾文　名木澤へ駄賃、岩袋村舟賃

同残六百九拾文送る
名木澤
船形

新庄
古瀬重吉殿行

送状

八月廿五日

同 川 古手　四箇
拾番　八番
五百拾六　五百廿三
〆

同一、金壱両壱朱　添金
但荷主方
内六百廿文　大石田駄賃
岩袋舟賃共
残り壱〆四百拾文送る
名木澤
船形

井上市内殿
米澤屋善蔵殿

送手板

㊟稀紅　秋田紅花　廿三入　四丸
正味　五百目袋

一、金三分也　添金

但、運賃諸掛り添金ゟ御引取、過不足行所ニ御差引可被下候

荷主山形
三浦屋権四郎殿分

右之通積送候条、濡抜損・貫目・封印等能々御改、片時も早々先々ニ御送可被下候　以上

羽州大石田
二藤部兵右衛門

未九月

一、（記入なし）

残金

酒田
尾関又兵衛殿

敦賀
田保孫右衛門殿

塩津
中村佐右衛門殿

大津
油屋作兵衛殿

伏見
木津屋興左衛門殿

大坂高麗橋西詰
羽州屋久右衛門殿

㊟ノ日出　廿三入　三丸
廿四入　壱丸

一、金三分　添金

手板　木綿屋嘉兵衛殿行

同五　廿入　三丸
十紅　廿一入　壱丸

一、金三分　添金

手板　右同人行

送手板

㊟　南山紫蕨　壱固（ママ）
正味七〆目造

但、運賃之儀酒田迄山形拂、酒田ゟ先大坂行所拂

右之通積送候条、濡損・貫目・封印等能々御改、片時も早々先々に御贈(ママ)可被下候　以上

未九月　　羽州山形
荷主　市村五郎兵衛
同大石田
二藤部兵右衛門　出

酒田
大沼平八殿
大坂堺筋金田町
象牙屋治郎兵衛殿　行

送状

印 ✠ 九月十九日善蔵舟　布段入　百七十七　壱箇

早坂惣左衛門殿

玉川屋弥作殿

送状

十月廿五日万治舟
印 ✠ 巳 くり綿　白鶴　四本

早坂惣左衛門殿蔵入

此ハ十一月七日不残弥作殿へ切手遣候

印 十一月七日　くり綿四本　玉川屋弥作殿

送状

長谷川吉郎治殿分

印 長 繰綿　白鶴　五拾四本
印 同　同　玉緑　八本
印 同　同　四本

〆　銘々番付摺目荷物帳に有

印 合六拾六本

右之通送出申候間、駅々着之砌能々御改、早々御継送可被下候、尤駄賃之義ハ御才宰(領)ゟ御請取可被下候

以上

未十月廿五日　　二藤部兵右衛門

秋田横手迄駅々
御問屋衆中

秋田横手
阿部屋新八　殿行
同在宿
佐藤利兵衛

一、拾七〆九百六拾文　本合海迄運賃諸掛

内訳

拾壱〆弐百廿文　船頭手取
但、百七拾文　五艘分
壱〆九百八十文　會所役料
壱〆九百八十文　河岸冥加永見込
壱〆九百八拾文　乞船入用

送状

十一月廿六日
回今　くり綿　弐本
白鶴
十二月五日
回金へ切手遣ス

早坂惣左衛門殿

送状

申二月十日新七舟　壱挺
回刊　玉砂糖
此ハ玉川屋弥作殿へ御送り可被下候

回今　くり綿　弐本
此ハ近日中切手差上候間、夫迄御蔵入置可被下候
回此三月二日玉川屋弥作殿へ切手遣候

早坂惣左衛門殿

送り状

回十　繰綿　廿六本
玉緑

回同　同　四本
白鶴

三人乗
卯左衛門
作兵衛
平六
万治

右之通差送り申候間、着之砌御改、早々御継立可被下候、駄賃之義ハ才料丑松殿方御請取可被成下候　以上

申八月八日　二藤部兵右衛門

御問屋衆中

秋田横手
小坂与三郎殿行
同
石井与右衛門殿行
一、四〆五拾文　大石田ゟ名木澤駄賃、岩袋はし銭共

送状

㊐太くり綿　七拾五本
太　木綿　八箇
〆八拾三箇

右之通酒田与次右衛門・儀蔵両艘へ積入差下候条、着之砌貫目能々御改御請拂可被下候、尤御地迄運賃當方ニゐ相済申候、御地ゟ先諸掛才料之衆ゟ御受取可被下候　以上

申八月廿八日　二藤部兵右衛門
喜兵衛

本合海
早坂惣左衛門殿
新庄
奥山佐太郎殿
秋田横手
阿部屋新八殿ニゐ

同
佐藤利兵衛殿行
右運賃
同一、拾七〆六百七十弐文　右運賃　八拾俵三分三厘
船方手取　弐百廿文ツヽ
此金弐両弐分　壱〆百七十弐文
外ニ　役料　十分一
〆

送状

佐藤利右衛門殿荷物
同㊥　晒蠟　弐丸
同同　生蠟　壱丸
〆壱駄

右之通南部黒澤尻行荷物、午通ニゐ差送申候間、着之砌貫目・濡損能々御改御請拂可被下候、尤山ノ目迄駄賃當方ニゐ相済申候　以上

酉四月十七日　二藤部兵右衛門

奥州山の目
岩手屋久左衛門殿次
南部黒澤尻
八百屋源助殿行

同　喜兵衛

川前村
傳吉
岩袋
有之助
〆弐人

送状

佐藤利右衛門殿分

一、金弐両弐分
弐〆文

此所へ
金弐両
五〆弐百六十文

印㊥　晒蠟　四丸
印同　生蠟　五丸
〆三駄

右之通南部遠の行荷物、午通ニあ差送申候間、着之砌貫目能々御改御請拂可被下候、尤山の目迄駄賃當方ニあ相済申候　以上

酉四月十七日　二藤部兵右衛門
同　喜兵衛

送手板

正ミ廿貫目入
六十箇

印㊥東山紫蕨
〆

但、運賃之義ハ酒田迄當所拂、酒田方先大坂拂

奥州山の目
岩手屋久左衛門殿次
南部遠野
村上兵右衛門殿行

右之通為差登候条、濡損・貫目等能々御改被成下、片時ゟ早々御送り可被下候、尤駄賃之義ハ、前書通御承引可被下候　以上

酉五月　二藤部兵右衛門

銭屋惣右衛門殿

大坂
近江屋太右衛門殿行

送手板

同㊥東山　紫蕨　正味廿弐貫目造　弐箇

同長山　同　正味廿弐貫目造　弐箇

同同二手子　同　正味廿弐貫目造　壱箇

同同東山　正味拾〆匁造壱、十三〆匁壱　弐箇

〆七箇

但、運賃之義者大坂迄當方拂

右之通為差登候条、濡損・貫目等能々御改、早々御送可被下候、尤運賃之儀者大坂迄相済申候　以上

戌六月　二藤部兵右衛門

根上善兵衛殿

近江屋太右衛門殿

送状

渡部八右衛門殿行

㊥くり綿　六拾本

白鶴廿六本
玉緑廿弐本
玉鶴三本
㊟九本

〆廿駄

右之通差送申候間、驛々着之砌能々御改、早々御継送可被下候、尤駄賃宰領δ御受取可被下奉願上候　以上

戌十月十三日

秋田横手迄

驛々
御問屋衆中

院内
若松屋市郎左衛門殿迄

送状

㊥坂上綿　廿本

右之通送出申候間、驛々着之砌能々御改早々御継送可

被下候、尤駄賃才料市五郎殿ゟ御受取可被下候　以上

亥二月廿五日　二藤部兵右衛門

名木澤
御問屋衆中

船形
早川七次兵衛殿

新庄
井上　市内殿

金山
星川仁右衛門殿

及位
高橋五郎兵衛殿

院内
若松屋市郎左衛門殿

横手
渡部八右衛門殿行

一、八〆百文　四百五文ツヽ、名木澤行駄賃
一、四百文　岩袋舟賃
一、弐百文　同銭
〆八〆七百文

右金壱両壱分弐朱　市五郎殿ゟ請取
弐月十五日渡ス

送手板

回⊕東山紫蕨　正味廿貫目造廿一　弐箇
回同　白木　正ミ十六〆目造十七口　弐箇
回同　同　正ミ十八〆目造十九口　壱箇
回同　同　正味十七〆目造十八口　壱箇

〆六箇弐駄三分三厘

但、運賃之義ハ大坂迄當方拂

右之通為差登候条、濡損・貫目等能々御改被早々御送可、下候、尤運賃之義ハ大坂迄相済申候　以上

亥八月八日　二藤部兵右衛門

根上善兵衛殿
近江屋太右衛門殿

送手板

印

印㊥ 東山 紫蕨　　百壱番　百弐番　　弐箇

右同文言

丑六月　　羽州大石田　二藤部兵右衛門

酒田　根上善兵衛殿

大坂　近江屋太右衛門殿

送手板

印㊥ 紫蕨　正味弐拾〆目造　四箇

印同　同　正味拾五〆目造　壱箇

印同 東山　同　正味廿〆目造　壱箇

〆六箇

右之通為差登候条、濡損・貫目等能々御改、早々御送可被下候、尤運賃之儀者大坂迄相済申候　以上

慶應三年　卯七月

羽州大石田　二藤部兵右衛門

根上善兵衛殿

近江屋太右衛門殿

山形町商業史料

一三　仲間式法帳

（表紙）

（裏表紙）

① 定

一、御代御静謐ニ而、四海浪風静にて難有為安堵ニ渡世仕、諸國産物品々入津之中ニも紅花之儀者、至而

清浄之品ニあ、御上々様御官服之染色ニ相成、既ニ京都ニあ者、右商人之者共ハ御免之株被為仰付候程之事故、依之此度當地ニあ茂銘々共申合、紅花仕入問屋組と仕、諸事申堅左之通

一、御公儀様御法度之儀、急度相守可申事

一、當紅花問屋之儀、先年ゟ数軒有之候得共、当時銘々共五軒相續仕来候処、取締申候仲間と申ニ茂無之故、此度紅染屋方ニ申合、組合問屋仲間相定、萬事堅申合猥ニ不相成候様致度、既ニ近年掛損等も多、殊ニ國方仕切納方不同不締付、荷主方毎々察当請候儀有之迷惑ニおよひ、此後乱ニ不相成候様申合、荷主方幷得意方双方御為ニ宜鋪候様致度存、心専一ニ候事

一、荷主方上下荷物海上安全、例年三月住吉大神宮庭神楽奉献、其節仲間一統参詣可致候事

一、此度仲間組合申合、銘々ゟ毎間金壱歩宛行司ゟ相集、年々仲間入用ニ相用、別紙勘定帳ニ相印、次行司ニ相廻し可申事

一、積金之儀者仲間一統之有物候得者、譬商賣相休、又ハ勝手ニ付仲間相退候迚、右金子割戻シ候儀者不致候事

一、行司者勿論仲間一統互ニ心を付候得者、則積銀年々相増自然と問屋仲間繁栄之基、且銘々無懈怠商賣大切ニ相續可致道理ニ相叶可申事

一、此後當仲間へ新加入有之候者、是迄之積銀割合ヲ以出銀顔合振舞為致可申事

一、當組合之中ゟ暇遣候奉公人召抱、商賣ヲ始當仲間ニ加入之儀申来候共、決あ加入為致申間鋪候事

一、銘々共召抱候手代子供致不実暇遣候もの、組合へ召抱申間敷候、譬日雇ひたり共堅致間鋪候、尤沙汰ニ不及候ハヽ勝手ニ可致事

一、組合申堅之仲間勝手ニ付他家譲候節者、都合振舞為致可申事

一、毎間日限相定本人幷支配人立會候あ顔合致、仲間

之商賣向ハ勿論、又ハ其時々景気ニ應じ國方高下之模様幷當地賣先高下無腹臓申合、双方之御為方宜様致相談取斗可申候、遠國之取引ニ候得者不実意抔致間鋪、尤虚言等申間鋪候、其砌銘々所存之趣無遠慮可申候、我意を立申募間敷候、多分之了間(ママ)を用ひ可申事

寄合定日左之通

右之通日限相定候上者、定日無怠出勤可致候事

一、紅花賣代金之儀者、現金取引ニ御座候処、相対ヲ以延賣有之節ハ、三十日切ニ相定、格外之延應対致間鋪候事

一、賣先得意方之中ニ銘々共方賣込候代金其侭ニ差置、買掛無之方ニ而應対を以取引致、又者親類別家或者悪意之手筋を以名前等替、商賣相續被致候不実成御人も有之候、左候而者下地賣込有之候者及迷惑候、則其砌掛り合無之者ハ當分之利欲ニ迷ひ、應対を以賣込候而者、先買先問屋ニ而買代金不束ニ致置候而も、商賣取續相成候姿ニ御座候、右等之仁出候時ハ、自然銘々共商賣向差支、取引手狭ニ相成不繁昌之基候間、其節賣込有之候者之銀子不相済候内ハ決而商内致間鋪候、此儀者銘々互之事ニ候得者、篤ふ可得心事ニ候、則賣代銀不足ニ被成候得意かた有之及迷惑候節、組合打寄双方承合、弥先方不実意之取斗有之候節者、名前書記此帳面ニ張紙いたし置候而、右代銀應対相済不申内ハ、相互ニ決而取引致間鋪候事

一、仲間取引之儀者相互之事ニ候得者、不実意之取引致候方ハ仲間ニ申出、一統堅取引致間鋪候事

右之條々急度相守可申候、組合申堅於相破者組内御除キ可被成、其時一言之申分無御座候、為後日申堅銘々印形、依如件

嘉永七年
甲寅正月

(大坂)
嶋屋清兵衛 ㊞
河内屋藤兵衛 ㊞

羽州屋久右衛門　㊞
木綿屋嘉兵衛　㊞
油屋喜助　㊞

一、銘々共召抱候奉公人年限無滞相勤候分、別家致し候節、紅花同商賣ハ堅為致申間敷候、尤仲間申合之儀兼申諭置候事

但シ、奉公人年限無滞相勤別家致し候節ハ、金千疋祝儀として仲間積金之内ゟ差遣し候事

一、銘々召抱候奉公人心得違致し、或勝手ニ暇乞抔致し紅花同商賣致し、又者紅花取次等いたし候節ハ、銘々其主人ゟ差留可申候事

②

一筆啓上仕候、暖気之砌御座候処、先以各々様益御安康ニ被遊御座、珍重ニ奉存候

一、従来紅花之義者、京・大坂九歩通之遣草ニゐ、江戸表へ下し荷物抔とハ事変り、國方直取引海上船積之儀者、文化已前諸株御取締中ニも仕来罷在候處、此度江戸紅問屋共新規之企仕組、同所打越通り荷物不相成抔と申立、今般文化如已前御再興被仰出候御趣意ニ相振候義を不顧、既ニ當時彼地迄罷登り候荷物差押に以之外成致方、右様江戸表ニゐ荷物差押に候ゐ者、御同前及當惑候ニ付、一統取極、則左ニ

一、向後為登紅華（花）江戸表へハ不相廻、其国々ゟ為陸登之事

一、水戸様産物者海上登りニ付、江戸紅問屋ゟ登り荷物と混合不申様、右御産物之外、江戸紅花問屋者勿論、都ゐ船積登荷物者取引差扣、荷主方へ及引合、一統評定之上取斗可致事

但、御産物者向後大坂大文字屋三右衛門揚ニ取極候事

右之通取極候間、宜鋪御承引被成下候、萬一江戸廻シニ被成候ゐ者、當地取極差障候故、御気毒之見合ニも相成候間、御心得置可被下候、先者右御案内迄申上度如斯御座候　以上

卯二月廿七日

京都紅花屋仲

大坂紅花問屋仲

村居清七様(山形)　鈴木彦兵衛様(山形)
長谷川吉郎治様(山形)　大坂屋彦兵衛様(山形)
佐藤利兵衛様(山形)　三浦屋権四郎様(山形)
福嶋屋治助様(山形)　高嶌藤左衛門様(山形)
長谷川吉内様(山形)　工藤六兵衛様(天童)
藤屋傳吉様(山形)　伊藤仁八様(楯岡)
井筒屋権太郎様(山形)　吉田勘右衛門様(楯岡)
岩勢屋太惣治様(山形)　桜井源兵衛様(谷地)
市村五郎兵衛様(山形)　元木林兵衛様(西里)
森谷與七様

水戸

小林新右衛門様　伊勢屋幸助様
同彦右衛門様　播屋六郎右衛門様
田邊利兵衛様　荒荷屋藤助様(老)(水戸向井町)
久保木藤兵衛様　船屋長兵衛様

大高織右衛門様

早場

木嶋屋源右衛門様　武蔵屋治左衛門様
綿屋伊左衛門様　大松屋勝助様
木嶋屋浅五郎様　須田治兵衛様
綿屋幸治郎様　松坂屋初五郎様
油屋八郎右衛門様　大濱屋善助様
須田大八郎様　八百屋儀左衛門様(古河)
西村庄左衛門様　紙屋五郎右衛門様

仙台

大沼正七様　高橋屋忠助様
同養之丞様　山家屋傳蔵様
山田屋新五郎様　小谷新右衛門様
佐藤屋文三郎様

(はり紙)

内外品ヲ買入内国紅染屋幷紅商に賣テ業トス
但し外国品ハ交易商ゟ買入ルヲ元トス

一四　紅花市場関係史料

（中村喜兵衛氏所蔵古記録）

(1)　花市町場割付之覚

亥年立前
東（長左衛門方
伊右衛門迄）

亥年立前
西（権三郎方
与兵衛家并屋敷迄）

子年
同（伊右衛門方
多兵衛迄）

子年
同（弥兵衛方
喜兵衛迄）

丑ノ年
同（多兵衛方
弥右衛門迄）

丑ノ年
同（傳九郎方
新兵衛迄）

右之通年々番前之所ニあ、紅花賣買花市相立可申候

宝永四年丁亥六月

御札方横町ノ方へ花市場願被申候故、町年寄衆迄申上候へ共、古来御札方南へ相立候市場ニ候へハ、新方に願申上候義不罷成候由被仰候間、古来之町場方南へ三ケ所ニ割付、隔年ニ相立候様ニ被仰付候

一札之事

一、此度町内不残にきあいのため、花市場古来定来候町場より三ケ所割合仕、当年方各年ニ相立苦ニ相談之上町場割仕、当年方花市場相定賣買仕候、向後相定之通無相違、各年ニ市場相立可申候、為後日判形仍如件

宝永四年丁亥六月十二日

組頭　六左衛門
同　長右衛門
同　与右衛門
同　又右衛門
同　作右衛門
同　久三郎
同　忠右衛門
同　九左衛門
同　孫　助
同　長右衛門
同　久兵衛

同　伊右衛門
同　六右衛門
同　五郎兵衛
同　惣右衛門
同　七兵衛

(2)　乍恐以書付奉願候御事

一、紅花之儀御国国産物之第一御座候得ハ、紅花上産を以御百姓様ニ罷成、御町中之者共渡世相続仕、就中御町中之儀就紅花賣買御領内郷方ハ勿論、近御領ゟ商賣人紅花ハ産物之随一ニ御座候哉、十日町・七日町・旅籠町紅花市場往古ゟ相立賣買仕来、他町ニゟ直買之紅花一切相調不申、両町市場ニ限相調来候町規ニ御座候、然ル處近年古来之格相失ひ、紅花直買之者共、他町或ハ遠在迄罷越相調候者共数多在之、近年両町市場見世粗減少仕、他領幷遠在之口入込者すくなく、花市場賑ひ薄御座候得ハ、両町之もの共迷惑至極ニ仕り、別ゟ一両年以来、見世粗不足ニ御座候故、紅花買人共おのつから見合ニ罷成、昼之内見世出仕兼、平日同然之儀御座候得ハ、紅花賣買之儀、夜ニ入或ハ夜更候得ハ買出申候故、市場之相賑ひ不罷成、直買紅花仕入問屋・さんべ幷宿等迄難儀至極ニ奉存候、畢竟直買之者共、他町或ハ遠在迄罷越相調申候間、見世粗減少仕、自然と夜更至(売カ)商買仕候故と奉存候、依之當夏ゟ向後紅花直買之もの共両町市場ニ罷出、生花にても水花ニゟ成共、相対勝手次第ニ賣買仕候様被為仰付被下度奉願上候、尤紅花相調候問屋共、多ハ十日町・七日町或ハ近町之もの共ニ御座候へハ、他町遠在ニ罷越相調候ハ不勝手ニも御座候得共、近年市場ニて風儀悪敷罷成候故、自然と他町両町之もの迄在方へ抜掛仕減少仕候、十日町・七日町之儀、御町中府中長北町ニ御座候得ハ、往古ゟ紅花市場被為仰付相立来候町規御座候處、近年市場不賑ひ罷成候も馳集リ商人共すぐな

く、随而両町之外町々にも商賣物而賑ひ薄罷成様ニ奉存候、然ル上ハ先規之通さんべ共格別紅花仕入、直買之者共他町或ハ在方ニ罷越相調不申、十日町・七日町両町市場へ罷出、夜調候様被為仰付被下度奉願上候、尤御町之内古来ゟ相定候町規在之、就中十日町・七日町両町之儀、御所産物第一之紅花賣買市場賑ひ来候處、近年町規も相失ひ、他町或ハ在方ニ罷越直買仕候故、紅花市場見世出すくなく、自然と昼之内ハ市場も相立不申、夜ニ入少々賣買仕候体ニ罷成、市場之もの共迷惑奉存候、尤紅花直買仕候もの共他町郷方へ罷越不申、於市場相調候儀不勝手ニも無御座、勿論御百姓始直買幷さんべ共市場見世数多賣候廉御座候得ハ、双方指支之儀曾無御座候、依之先格之通紅花仕入直買之もの共両町市場へ罷出、水産(花)或ハ生花ニ而も勝手次第賣買仕候様被為仰付奉願上候、御慈悲ヲ以右願之通被為仰付被下候ハヽ、難有仕合ニ奉願上候　以上

寛保三癸亥閏四月

十日町願主　久右衛門　城久　他六十六名略

七日町願主　伊右衛門　外四十九名略

十日町組頭　嘉右衛門　傳次郎　外十四人

(3)　御役所ゟ之仰出候御書付

(寛保二年ゟ延享三年迄ゟ町御用場より扣より書抜)

覚

追付紅花賣買之時節成、自他領之者共大勢入込、火之元幷盗賊等も紛入可申候間故、両町昼夜入念油断仕間敷、且又紅花之当地産物之第一候処、近年不出来其上摘様或ハ商賣之風儀不宜、他国之紅花ニ相劣候旨、京都方紅屋共致批判之由、右ニ而ハ産物を瑕瑾ニ相成可然候、依之去午ノ年申觸ノ趣、尚又改相觸候間、書面

之通急度相守、摘様之譯幷直買之もの仕入、猶以無麁末古来之通荷数も相増し様ニ可致儀可為肝煎之、仍左之通申觸候

一、古来ゟ十日町・七日町両町紅花賣買之市場相定、買人共ハ市場ニゐ買求候處、近年他町又ハ在々迄罷越相調之様罷成候ニ付、惣ゐ及難儀候趣相聞へ候儀ヲ、今年ゟさんへ共ハ格別直買之もの市場外ニゐ相調候義令停止候、右両町市場へ罷出調候もの有之者、市場之者共致吟味、其旨申出候様ニ申付置候事

一、買人共近年見世出し遅リ夜中致賣買候故、諸人及難義之由、依之去午年相觸候通、市場ニゐ昼九ツ時分ゟ買初、暮時前買終候様可仕候、夜ニ入致賣買間敷候事

附、山花之出候節ハ夜ニ入賣買いたし候様、可申付候

一、於紅花市場ニ、紅花調掛りもの不景気之由ニゐ、今日ハ相調不申見世を相仕廻一切調不申、翌日ハ又見世差出致賣買之義任勝手に餘リ成義、自由千万之致方共ニ有之候、今年ゟ左様之我侭成義令停止候、日々相応之相場可相調事

一、さんべ共ハ随分處々にて買出し、市場へ持出可致商賣候、市場之外者賣買之義堅無用ニ可仕候事

一、さんべ共紅花玉ニ致しニ、きせ花かけ之儀無用ニ候、生得之花之善悪ニしたかひ正路可仕賣買候、勿論先年相觸候通置たふからひと儀猶又停止候事

一、紅花摘様之儀、朝露之内熟花成を摘候を四ツ時頃限摘仕廻候様ニ可致候、尤決ゐ熟成花摘入間敷候、或ハほうし白根をも摘入申間敷事

一、在中之者紅花相求仕人之儀、唯今迄之通勝手次第相調紅花荷差出し可申事

右之通相心得、商賣人ハ勿論百姓抔末々迄悉得心為致可申候、尤喧嘩口論かるつかましき儀無之様ニ、さんべ共ハ其宿ニ急度可申聞候、此旨町中幷寺社門前迄可相觸候

（寛保三年）
亥五月七日　　役　所

一五　紅花取引関係史料

(1)　預り申金子之事

一、小判㊞金五拾両也　但シ文字金也

右之金子慥ニ㊞預り申処実正也、當秋紅花荷物為差登代金を以元利無相違返済可致候、為後日預り手形、仍ゐ如件

安永三年年五月六日　　市村卯兵衛　㊞

若山屋喜右衛門殿

本書之通相認メ申候得共、月八朱ツヽ、利足相添返済可致候、為念奥書仍ゐ如件

(2)　預申金子之事

一、金弐百五拾両也　但　金百五拾両ハ此度請取　金百両ハ酒田尾関又兵衛殿ゟ可届之金也

此利足壱ケ月金百両ニ付壱両宛

右之金預申所実正明白也、尤返済之儀ハ京都ゟ為替被仰付次第、何方へ成共早束(ママ)相渡シ可申候、為後日金預り加判證文、仍ゐ如件

寛政元年酉七月

金預主
羽州最上谷地
槇藤左衛門　㊞
同　藤四郎　㊞

若山屋喜右衛門殿
同　喜太郎殿

(3)　請取申為替金之事

一、金八拾㊞七両　但、文字歩判也
銀五匁八分

右之金子為替取組慥ニ受取申所実正明白也、右金子為引當紅花荷物追ゐ為差登可申候間、荷物着之砌賣代金を以御引取可被下候、為後日為替金預り證文仍ゐ如件

寛政六寅
二月

市村屋卯兵衛
忠　六
栄　吉

右之金子為引當紅荷物為差登可申筈之所、勝手ニ付、右荷物相調兼候故、金子を以御返済可仕筈之所、此度私儀身上不如意ニ相成無據請拂仕、右金子出来兼候間、依之仕合次第御返済可申様御願申上候所、御聞届被成下忝仕合ニ奉存候、然ル上者私儀仕合次第、早々急度返済可仕候、万一相滞候ハ者加判之者相弁、無相違急度返済可申候、為後日仕合證文如此ニ御座候　以上

羽州山形旅籠町
寛政七卯二月　　市村屋　卯兵衛　㊞
同　　忠六　㊞
親類惣代　栄吉　㊞

若山喜右衛門殿

(4) 借用申金子之事

合金弐百㊞両也　但し皆弐朱判

右之金子就要用儲ニ請取、借用申處実正也、返済之儀者来ル極月廿九日限、月壱歩ツヽ、利足相加ヒ、元利都合無相違急度返済可仕候、為後日之借用證文、仍而如件

文化三寅年
九月廿九日　　市村屋惣兵衛
代　清八　㊞

若山屋喜右衛門殿

(5) 借用申金子證文之事

一、㊞金百両也　但、文字歩判金也

右金子當六月紅花仕入金之當ニ預り申候處、此度御仕入荷物都合仕、代金差引過金相成申候処、右之金子要用之義ニ付、御預申入借用仕候處實正ニ御坐候、然ル上者来ル八月限り元利取揃無相違御返済可申、於此金子者如何様之新義出来候共、貴殿方ヒ少茂御苦労相掛不申、急度御返済可申候、万一限月相滞候ハヽ、加判之者引受相弁御勘定可申候、為後日之金子預り證文、仍而如件

仙台長町金子預り主
松原屋与八郎　㊞
山形横町加判
山口甚兵衛　㊞

文化五年七月十五日

同　七日町同
松屋又兵衛　㊞
同　同　證人
升屋文助　㊞
同　小白川同
庄司平吉　㊞

京都
若山屋喜右衛門殿
弥　助殿
伊　助殿

(6)　借用申金子之事

一、金三両㊞也　但シ歩判金也

右者就要用達々御願申上候處、格別之御思召を以御承知被成下候、只今慥請取借用仕候所実正明白也、尤御返済之儀者、當地西山庄七殿立入ニあ、丑七月ゟ来ル午年迄六ケ年限り、年々金弐歩宛御返済可仕候、万一遅滞之儀も御座候ハヽ、加判之者より相弁ニ、急度㊞無相違御返金可仕候、為後日借用證文、依あ如件

文化十三年
丙子九月十五日

借用主　山形七日町
升屋文助　㊞
加判　同　旅籠町
西山庄七　㊞

若山屋喜右衛門様
弥　助様
山口屋甚兵衛様

(7)　借用申金子之事

一、金五拾両也　但シ通用歩判金也

右之金子要用之儀ニ付、於當地借用申㊞所実正也、返済之義者来ル九月晦日限、當夏新花貴殿方へ差荷仕候賣代金之内ニあ、於京都元利返済可仕候、為後日借用證文、仍あ如件

文政四辛巳年七月

羽州山形
井筒屋
勘右衛門　㊞

京都
若山屋喜右衛門殿
為　八殿

(8) 送り手板

正ミ五百目袋
弐拾造り
内〇印十四袋さし
〆四丸

印割
一、〆〇大
カ紅花

〆封印〇印

一、出判　壱通　相添
一、金三歩也　相添
〆

右之通り最上紅花為差登候条、其御地着之砌、封印・貫目・濡損等能々御改受取、先方へ早々御送り届可被成下候、尤大石田より金三歩也相添差上申候間、夫々運賃御引取可被成下候、若不足ニも相成候ハヽ、先々御立替被成下度候、為其送り手板依ゐ如件

安政六年
未七月廿二日

最上谷地
萬や　久左衛門　印

大石田
西塚與惣右衛門殿
酒田
尾関又兵衛門殿

越前敦賀
田保孫右衛門殿
塩津
中村佐右衛門殿
大津
油屋作兵衛殿
大坂
羽州屋久右衛門殿
行

一六　國分寺瑠璃殿再建に付口演

（表紙）

國分寺瑠璃殿再建
世話方
御荷主衆中様

（表紙裏はり紙）

紅花壱駄ニ付　国分寺
永五匁ツヽ、　御寄附
右御寄附御断之方
石沢屋　半沢屋

口　演

一筆啓上仕候、甚暑之節ニ御座候へ共、各様方益御勇健可被遊御座、珍重之御儀奉存候、然者出羽国一社国分寺薬師堂、去ル天保六乙未六月十五日御焼失ニ御座候処、右御宮之儀者、國家安全之御祈禱所・国産守護之神ニまして、紅・苧等ニ携リ候荷主方別あ信心罷在候義ニ御座候所、此度御別当柏山寺御再建之御心願ニ付、御普請世話方之義名面之者共ニ御頼ニ付、乍不及引受申候得共不容易入用、依之自他御荷主中様ニ御信心之御助精(成)御願申上度奉存候、随あ当国出荷之紅花壱駄ニ付丁銀三文目、青苧壱駄ニ付丁銀壱匁宛、当年より向五ケ年御寄附之義御聞済被下置候ハヽ、取立ハ大石田河岸高桑幸助殿方へ、御出荷問屋中ゟ相渡リ候様仕度奉存候、右為御願御銘々様ニ一同罷上可申筈之処、乍失礼以懸札御願申上候　恐惶謹言

（天保十二年）
丑六月

山形荷主惣代
浅野屋喜四郎　印
高嶋屋藤左衛門　印

各　様

尚々其御近辺御手寄之御荷主様へ、何共乍御厄介様各々様ゟ宣敷御傳達被下度、此段奉願上候

出羽國一社瑠璃殿再建世話方
御寄附金預リ方

村居清七　印
長谷川吉郎治　印
佐藤利兵衛　印
福嶋治助　印
鈴木彦兵衛　印

斎藤傳吉　印
青山治右衛門　印
西谷清兵衛　印

世話人

新関金六　印
笹原駒之助　印
浅野喜四郎　印
高嶋藤左衛門　印
吉野屋吉兵衛　印
伊藤茂右衛門　印
染屋与惣兵衛　印

右者私共再建普請之世話仕候間、何分御添心被成下度奉願上候　以上

世話方
行司　印

三浦屋権四郎様　印
斎藤長松様　印
高橋伊之助様　印
市村清八様　印

鍵水栄助様　印
市村五郎兵衛様　印
粂屋新治様　印
厚見屋善兵衛様　印
笹屋長六様　印
小林七右衛門様　印
西谷儀右衛門様　印
西山庄七様　印
越後屋庄兵衛様　印
後藤小平治様　印
（私方ニ而紅花取扱相止ミ申候）
足利屋新兵衛様　印
高田弓太郎様　印
足利屋儀兵衛様　印
玉川屋彦兵衛様　印
水口屋久兵衛様　印
炭屋宗治様　印
山口甚兵衛様　印
（御一同様御調印私宅も承知仕候、他行ニ付追而御判可仕候）
井筒屋伊惣治様　印
小嶋重右衛門様　印

西谷伊兵衛様　印
大坂屋彦兵衛様　印
岩勢屋太惣二様　印
伊藤清兵衛様　印
有川弥蔵様　印
北條忠兵衛様　印
鈴木屋宗吉様　印
岡崎長蔵様　印
油屋佐吉様　印
三澤清右衛門様　印
岩倉太兵衛様　印
小嶋源右衛門様　印
吉田屋平吉様　印
會田七郎右衛門様　印
有井四郎治様　印

落合
佐藤兵左衛門様　印

印役
深瀬忠七様　印

江俣
長岡新太郎様　印

山野邊
石川清四郎様
石川治三郎様
佐藤清五郎様

長崎
和泉屋三郎兵衛様
油屋喜三郎様

寒河江
安達又三郎様
嶋屋伊助様

たかや
斎藤利兵衛様

谷地
桜井源蔵様
槇藤左衛門様

澤畑
宇野与蔵様

左澤

五十嵐勘三郎様
長崎屋久右衛門様
加賀屋甚右衛門様

天童
工藤六兵衛様　印
坂口太兵衛様　印
高橋太吉様　印
石澤権兵衛様　印
高木屋七兵衛様　印
松田屋喜八様　印

高木
野川勝治郎様　印

楯岡
吉田勘右衛門様　印
藤井四郎兵衛様　印
森谷弥五兵衛様　印
伊藤仁八様

長崎
柏倉文蔵様

岡
柏倉清右衛門様

大谷
白田弥次右衛門様
白田忠三郎様
白田清助様

左澤
松坂屋孫四郎様

谷地
森谷与七様
安孫子傳四郎様
今井五郎八様
今井治郎三様

天童
伊藤吉様　印

長瀞
山口茂吉様　印
石川吉治様
石川吉兵衛様

天童
神保間兵衛様　印

外
惣荷主衆中様

前書之通一同承知仕候　以上

大石田河岸
荷問屋
丑六月
庄司清吉
高桑幸助　印
庄司清次郎　印
庄司清左衛門　印
富樫久兵衛　印
二藤部兵右衛門　㊞
須藤久太郎
佐藤徳兵衛　印

前文之通致承知候　以上

最上川舟方
會所

一七　御徳得名前并問屋名前留（得意）

（表紙）

御徳得名前并問屋名前留（ママ）

小
水戸太田
小林新右衛門殿
御支配人
庄八殿
宇兵衛殿
佐兵衛殿

水戸上町
橘屋宇兵衛殿
菱田武助殿
井筒屋藤兵衛殿

下総古河
西村仁兵衛殿

叶

江州八幡
外村与左衛門殿
御支配人
和兵衛殿
中嶋伊助殿

江州能登川
布屋市郎兵衛殿

江州位田
松井傳左衛門殿

江州箕浦
丹下太右衛門殿

城州伏見米勤宿
麻屋安治郎殿

水戸本宿
小林彦右衛門殿

同
長山佐兵衛殿

城州伏見高嶋宿
麻屋安治郎殿

子七月六日改
代友吉事
利兵衛殿

若山屋喜右衛門殿

御宿左ヱ

仙臺長町
桐原屋与八郎殿

同　村田
大沼屋十郎左衛門殿

同　大河原
村上源兵衛殿

最上山形
山口屋甚兵衛殿

右者巳七月廿日、御支配人常七殿ゟ御断り御座候

小林・吉文字屋氏

御宿

仙臺金ケ瀬
山上印　山家傳蔵殿

佐藤利兵衛殿宿

一ノ関地主町
白土屋治左衛門殿

奥仙山ノ目駅
鈴木屋庄左衛門殿

(長)買宿也

南部黒澤尻本町
古川屋兵吉殿

同
筑前屋清七殿　京室町四条上ル所　㊥

仙臺大谷
加茂庄重郎殿　京烏丸通錦上ル

仙(臺)大川原
岩間庄蔵殿　京東洞院姉小路上

岩沼
佐久間屋万吉殿　京鋳小路烏丸西ヱ入ル

同
萬屋大三郎殿　京東洞院六角下ル

村田
大沼十郎左衛門殿　京室町

仙臺水沢大町
小澤屋平治殿　京東洞院四條上ル

右者山形㊥紅花買宿也

一関大町造出し
千葉新助殿　京冨小路三條上ル

右同断

大津嶋之関
油屋作兵衛殿　京御池東洞院西ヱ入

ツルカ問屋
布屋吉右衛門殿　京鮹薬師冨小路西ヱ入

伊勢屋利右衛門殿　京室町四条上ル所

伊勢屋源助殿　京烏丸通錦上ル

若山屋喜右衛門殿　京東洞院姉小路上

綿屋勇蔵殿　京鋳小路烏丸西ヱ入ル

市村弥三郎殿　京東洞院六角下ル

西村清九郎殿　京室町

吉文字屋彦市殿　京東洞院四條上ル

吉文字屋助左衛門殿　京冨小路三條上ル

近江屋吉太郎殿　京御池東洞院西ヱ入

美濃屋忠右衛門殿　京鮹薬師冨小路西ヱ入

近江屋佐助殿

最上屋喜八殿

越後屋新七殿

京七条通大川西ニ入
古手屋長右衛門殿

姫路呉服町
奈良屋権兵衛殿

姫路本町
表屋庄左衛門殿

大坂東堀道修町一丁目
近江屋安治郎殿

大坂平野町一丁目
小橋屋四郎右衛門殿

大坂本町三丁目
扇屋与兵衛殿

大坂高麗橋
戎屋傳兵衛殿

大坂浪花橋南詰
大和屋治郎兵衛殿

大坂嶋之内白銀町
今宮屋伊兵衛殿

大坂嶋之内中津町
三幡屋権兵衛殿

大坂順慶町さのや橋筋南入東側
榎並屋平右衛門殿
流古手仕入所也
天保九戌年ニ而初而仕入

加州金澤小立野亀坂
北嶋屋吉兵衛殿

南都宿
紺屋吉兵衛殿

大坂浪花橋南本町
嶋屋清兵衛殿

大坂長堀高橋南詰
日高屋半兵衛殿

室屋彦四郎殿

嘉永二酉六月十五差廻り扇子持参
肥後屋武助殿

大坂高麗橋西詰南ニ入
羽州屋久右衛門殿

打印造塩荷主

左沢
五十嵐勘三郎殿

同
伊藤弥次兵衛殿

同
後藤重助殿

押切村
板花与助殿

仁田村
國井七右衛門殿

古手方

㊐ 仙臺大町一丁目 中井新三郎殿

因 同 大黒屋惣兵衛殿

〆 同 佐藤林四郎殿

全 同 名取屋清七殿

合 同 山田屋新兵衛殿

余 同 力屋茂兵衛殿

〆

右取締方

最上屋平右衛門殿

木綿方

㊄ 大町二丁目 日野屋定兵衛殿

〆 同 佐藤助五郎殿

〆 佐藤林作殿

全 名取屋権三郎殿

〆

㊇三 大若屋三蔵殿

尓 国分町 小谷松兵衛殿

国 大町二丁目 桜井屋伊助殿

今 米沢宮宿 岩城屋喜兵衛殿

舟町 阿部三右衛門殿

阿部孫市殿

新屋彦作殿

〆

寺津 阿部吉左衛門殿

佐藤金兵衛殿

阿部長次郎殿

蔵増 野口源兵衛殿

野口三四郎殿

野田（田） 前板新蔵殿

奥山藤七殿
仁田村
國井七右衛門殿
押切
板花与助殿
清水舟見
今野圓助殿
古口
山ノ内作兵衛殿
米沢城下
渡部伊右衛門殿
寒河江佐右衛門殿
亥子屋六右衛門殿
橘屋宗左衛門殿
神尾彦右衛門殿
遠藤吉右衛門殿
遠藤寛右衛門殿
九里三郎兵衛殿
米澤小出
竹田五兵衛殿
山ノ邊舟町

同
川崎八郎右衛門殿
同
同
大和屋弥助殿
同
山形屋与一郎殿
同
堺屋常吉殿
同
枡屋熊蔵殿
米澤宮
岩城屋喜兵衛殿
米澤荒戸
大貫吉左衛門殿
同
清水屋惣左衛門殿
同
梅津伊三郎殿
米澤小松
井上庄兵衛殿
舟町阿部三上ケ

山形
一里半
松原一里半
上ノ山
一里五丁
川口廿八丁

中山一里　小岩沢一里廿丁
赤湯三十丁　大橋一里八丁
糠ノ目二リ　米沢

嘉永二年酉六月朔日泊り
江州能登川
会　布屋市郎兵衛様
京都室町三條上ル
布屋彦太郎様
与吉様

城州伏見
回　麻屋安治郎様
市治郎様

手代
平四郎様
酉六月十九日泊り

仙臺水沢
紅花仕宿　穀田屋七平様

嘉永二酉年始状着名前
一、吉文字屋彦市
彦治郎
一、美濃屋四郎兵衛
一、伊勢屋理右衛門
一、表屋庄左衛門
作兵衛
一、伊勢屋やさ
茂兵衛
軽七
好七
平七
一、中井新三郎
一、覚兵衛
一、日野屋清一郎
佐兵衛

一八　山形町株仲間史料

(1)　鬢附屋仲間議定

（表紙）

鬢附屋仲（ママ）直（ママ）儀定

藤井屋

仲真一統議(ママ)(ママ)掟之事

一、今般亜墨利加国ゟ願ニ付、馬旧晒蠟(ママ)交易願済、則三千箇交易被仰付、夫ニ付蠟直段追々引上申候、依之仲真一統名代なし惣寄合相談之上、儀定(ママ)左之通

一、銭・晒蠟・白絞油之相場、格外ニ卯氏(アカリサカリ)候節者不取置、早束割(ママ)合勘定相改メ、提札相廻し可申事

一、寄合者春先、鬢附追々蠟かちに相成候節者、夏中上用前各相談之上割合相改メ、提札直し可申事

一、御冥加取立之儀者、霜月上旬相觸候、日限其場へ致持参相納可申候事

一、小切油渡方、先例之通百文ニ弐拾五匁宛、若以心得違数をふやし、或者莫大ニ賣下致候者有之候ハ、吟味之上其内へ仲真不残相詰合、其上ニゟ為過料五貫文、外鬢附・梳油・曲詰之類賣下候分、過料同断之事

附たり、身元宜敷まかセ、蠟油多分買置被致(ママ)被於直安ニ買請候迚、其割に賣崩し候者於有之者、是ハ格別之訳ニ付為過料拾五貫文、都ゟ鬢附之割合者小買直段ニゟ致割合、提札相定可申候、賣下及候ハ、一統御冥加上納致兼候間、鬢附梳定例提札之外賣買致候者有之於者、一統御冥加上納に拘事ニ候得者、過料之一条御心得可有之、依之各様能々御思慮可相成候事

一、悪手(ろくて)なき製煉之鬢附を仲真之内宜敷製煉合之、鬢附之板行(はんこう)を贋せ賣買致候者有之候ハ、、為過料五貫文仲真不残其家へ詰合相積せ可申事

但シ是ハ先様へ悪名附候越度ニ付、是を可取置事

一、梳油附木詰之渡方一切差留候、一統相談之上取究申候、等閑に心得相犯し候者於有之者、為過料五貫文相積可申事

一、仲真一統へ故障かましき義相企候者有之者、異見を加へ正路ニ可取扱ふ事

一、渡世そく(俗カ)に相用候品恰好之直段見聞におゐてハ、御互に御相談可被成候事

一、新規之衆中者、十日参之方へ御仲真入之祝義として、酒肴之真實有之方ハ寄合振舞に致、其印斗手軽ニ可被致事

一、香ひ入鬢附之義、其家々之家法有之事ニ候得ハ、其沙汰ニ不及候事

一、仲真人数拾九人と相定メ、以来永年其心得たるべき事

一、前条申処過料之所ハ、仲真一統寄合之宿賄料之程に可致候事

一、仲真寄合有之砌、廻章使番弐人宛御勤可被成候、尤頭取世話を除き右御心得可被成事

一、時々節々ニあ提札相廻し候砌ハ、紙代をしるし可申候間、次々に相送可被成候事

一、廻章に時刻相記し候ハヽ、各方遅参無之候様御出席可被成候、尤早く御出席候得ハ用事早く取仕舞、御宿元へ直ニ御帰りニ相成候ハヽ、御内室様方も御案事被成間敷候

一、仲真一統不取締ニ付、別可為取締両人可建置事

一、仲真之寄合ニ罷出候あ、戻りに都て道寄り無用之事

附たり、寄合を致し家にくれ方に戻候あ者、家内之機嫌をそこね、寄合之妨ニも相成候あ者宜敷無之候間、能々御心得可被成候事

一、蠟油多分仕込有之方ハ、仲真一統に融通ニ少利ヲ以割渡可申候、左有時者和順之至睦敷、御城下安政に修り可申候、尤高下両条共ニ御心得肝要ニ御座候事

一、都あ寄合に名代者無用之事

右之條々堅相守可申者也

安政六己年
未三月十三日

仲真頭取
仲真取締　印

天保六乙未年　上町　松屋庄兵衛
鬢附屋世話　五日町　永居屋小四郎

八日町　河内屋近兵衛
十日町　若松屋安兵衛
七日町　富樫屋長四郎
七日町　水口屋久右衛門
百姓町　水口屋喜惣治
〆七人

仲真
都合
當御代始リ　〆三拾弐人

上　松屋庄兵衛
五　木居屋小四郎
八　河内屋近兵衛
十　若松屋安兵衛
七　富樫屋長四郎
七　水口屋久右衛門
百　水口屋喜惣治
六　市村屋佐兵衛

六　油屋長次
五　江戸屋仲治
八　豊後屋庄九郎
八　是ハ新規　小野屋庄蔵
五　荻野屋喜平次
十　藤井屋吉助
三　三河屋慶蔵
十　北条屋房吉
十　土屋源助
横　神保屋友蔵
北肴　加賀屋新内

仲真都合
〆　拾九人

安政六己年
末三月吉日改メ

町御年寄様
町御締方様
(ママ)
如此儀定書相認差上申候

一、梳油渡方に鉢取ニいたし、目方割にて卸可申旨一統相談之上相定候

(2)　材木内株鑑札

一、材木仲真年来渡世仕候処、株式堅木専売ニ有之候間、達ゐ願ニ付銀五匁ニ相定可申候、就ゐ板職人に差配丈相免可申候、心得違諸木品売買申間敷候、為後日仍如件

安政四丁巳年
十一月

頭取　仲真　材木屋

七日町
源　助殿

(3)　掟

一、御鑑札所持不仕賣買不相成事、若無鑑札ニゐ賣買致し候者見當り候ハヽ、其旨世話方に通し、頭取方御上に御達可申事

一、他所方鋳物賣買ニ参り候節、無鑑札ニゐ案内取次等致し候者有之候ハヽ、仲真より急度吟味いたし、其段御上に御達可申事

一、他所に出店之義不相成、達ゐ店出いたし度候ハヽ、世話方頭取に示談之上差図次第可致候事

一、御鑑札年々御改之節、割合之御冥加幷ニ入用無滞差出可申候、若延引ニ及ひ候ハヽ、御鑑札御取上ニ相成可申事

一、賣買先ニ注之之為、手付下物・地金等預り、其後無沙汰ニ致し候者有之候ハヽ、御鑑札取上賣買急度差留可申事

附、仲真寄合仕候節、無遅刻参着可致、幷ニ割合集銭為人を遣し候節、出銅延引ニ及ひ候ハヽ、外ニ入用も相掛可申候間、其段承知可致候事

右之條々仲真一統談示取極候上ハ、無違乱急度相守可申もの也

慶應二年丙寅三月

頭取
世話方　印

索引

頁

一、最上川船雑記一（仮称）……一三

①（序）……一四
②最上領年貢酒田納る事……一四
③最上川河岸始事……一五
④最上川六河岸船世話役定事　附船世話役名前……一五
⑤最上川御城米積場……一五
⑥御城米破船弁米之事……一六
⑦最上川河下請負始り……一六
⑧御囲普請之事……一六
⑨公料陣屋始り……一六
⑩最上船高……一七
⑪商人運賃元禄年中……一七
⑫御城米運賃増方之事……一七
⑬御城米・御私領、米酒田・最上割合之事……一七
⑭大石田ニあ酒田船ゟ銭取立之事……一七
⑮同所ニあ最上船ゟ取立……一八
⑯同所船差名前……一八
⑰大石田船道公儀ゟ取放ニ相成候訳……一八
⑱船差配五人名前……一八
⑲五人頂戴御證文写……一八
⑳（御附紙之事）……二一
㉑御運上申立船差配願之事……二二
㉒名木沢口相潰候事……二三
㉓大石田村之者共船道願事……二三
㉔横山村ニ船會所建ル事……二三
㉕商人運賃増之事……二四
㉖小判・小粒始ル事……二四
㉗船道願事……二四
㉘大石田村之者共永差配願之事……二四
㉙御城米運賃之事……二六
㉚御籾御運賃之事……二七
㉛御私領米御運賃之事……二八
㉜商人運賃之事……二九
㉝通船運上始ル事（記載なし）……二九
㉞（上郷大石田拾六人ニあ差配勤る事）……二九
㉟大石田村之者共以我意出訴之事　但、両人拾ケ年勤ル事……三一
㊱安永七請負之事……三二

二、最上川船雑記二……三三

①左沢ゟ庄内迄川通難所……三四
②廻船の法を以川船に用ル事……三四

③ 年数之事……三八
④ 最上御領地之御大名手船造立之事……三八
⑤ 最上・酒田差配人勤方之事……三九
⑥ 差配人船會所之事……四一
⑦ 横山・本楯・寺津河岸之事……四一
⑧ 陸艫取之事……四三
⑨ 新河岸願之事……四三
⑩ 横山船之事……四三
⑪ 酒田ゟ登運賃之事……四四
⑫ 商人運賃之事……四四
⑬ 商人運賃拾分壱助成之事……四四
⑭ 大石田ゟ上郷ニ登運賃……四四
⑮ 大石田船道取放之事……四五
⑯ 最上川運上始ル事……四五
三、年限請負差配之砌船方仕法勤方書付并船持商人ニ御尋ニ付所々御役所ニ差上候書付之扣……四五
① 奉書上川船差配勤方仕法之事……四五
② 御尋ニ付乍恐以書付奉申上候……四八
③ 御尋ニ付乍恐口上書を以奉申上候……五二
④ 御尋ニ付乍恐以書付奉申上候……五四
四、最上船方勘定書……五七
(1) 最上船方差出明細帳（寛政五年）……五七
(2) 舟方勘定取調書（寛政十一年）……六四
(3) 舟方勘定取調書（文化元年）……六六
(4) 最上船方諸入用明細書上帳（文化四年）……六八
五、隼瀬御普請掛快晴願書写（文政九年）……七二
① 乍恐以書付奉願上候……七二
② 乍恐以書付奉願上候……七三
六、運賃定法書……七五
① 御城米御運賃定法……七五
② 商人荷物運賃并諸色積口定法書……七六
③ 商人荷物大石田積運賃……七八
④ 水揚定法留……八〇
七、紅花運賃定法（天保五年）……八〇
① 紅花・青苧・水油御役永……八一
② 紅花運賃手取定法……八一
③ 紅花運賃定法……八二
④ 紅花御役永……八三
⑤ 青苧・煙草運賃定法……八四
⑥ 俵目直し……八五
八、船町河岸関係一件史料……八六
(1) 出羽国村山郡山ノ辺村と船町村川船諍論御裁許御下書扣（元祿十年）……八六
(2) 羽州村山郡中野村ゟ同郡船町村相手取船津駅場

出入一件（寛政七年）……八七
(3) 乍恐多以書付奉願上候（天保六年）……八九
(4) 船町・寺津河岸出入済口證文之写（天保十三年）……九〇
(5) 船町・寺津河岸一件済口書（天保十三年）九五
(6) 乍恐以書付御訴訟奉申上候（嘉永二年）…九六
(7) 乍恐以返答奉申上候（嘉永三年）……一〇〇
九、小鵜飼乗船頭御米拝借證文之事（文久三年）一〇五
一〇、大石田河岸問屋聞書（正徳三年）……一〇七
一一、差上申済口證文之事（文化二年）……一一七
一二、商人荷輸送関係史料……一二〇
(1) 諸方出判写（天保八～嘉永二年）……一二〇
(2) 諸方送手板（安政五～慶応三年）……一二八
一三、仲間式法帳……一四五
① 大坂紅花問屋仲間定（嘉永七年）……一四五
② 江戸紅花荷物打越一件に付書簡（安政二年）……一四八
一四、紅花市場関係史料……一五〇
(1) 花市町場割付覚（宝永四年）……一五〇
(2) 乍恐以書付奉願候御事（寛保三年）……一五一
(3) 御役所ゟ之仰出候書付覚（寛保三年）…一五二
一五、紅花取引関係史料……一五四
(1) 預り申金子之事（安永三年）……一五四
(2) 預申金子之事（寛政元年）……一五四
(3) 請取申為替金之事（寛政六～七年）……一五四
(4) 借用申金子之事（文化三年）……一五五
(5) 借用申金子證文之事（文化五年）……一五五
(6) 借用申金子之事（文化十三年）……一五六
(7) 借用申金子之事（文政四年）……一五六
(8) 紅花荷物送り手板（安政六年）……一五七
一六、国分寺瑠璃殿再建に付口演〈紅・苧荷主〉（天保十二年）……一五七
一七、御徳得（得意）名前幷問屋名前留（嘉永二年カ）…一六二
一八、山形町株仲間史料……一六八
(1) 髪附屋仲間儀定（安政六年）……一六八
(2) 材木内株鑑札（安政四年）……一七二
(3) 鋳物仲間掟（慶応二年）……一七二